

# 川柳塔

創刊大正十三年 通卷一一〇六号



日川協加盟

No.1106

七月号

— 路郎賞・川柳塔賞の応募は

八月号の刷り込み用紙で —

- ① 川柳塔欄・水煙抄欄に6か月以上、出句した人に応募資格を認める。
- ② 平成30年9月号から令和元年8月号までの入選句（自分の句を出句する）
- ③ 8月号刷り込み用紙に5句を楷書で書き8月10日必着のこと。

昨年九月から今年八月の間に  
誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選択して応募して下さい。

ただし「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間違いないようにお願いします。

選者交代のお知らせ

九月号（七月投句締め切り分）から来年八月号までの選者を次の通り交代します。

水煙抄 川上大輪

檸檬抄 水野黒兔

鴨谷瑠美子（共選）

川柳塔社

「檸檬抄」課題

共選

発表	月	課題	締め切り日
元年	9月	歩む	7月15日
	10月	袋	8月15日
	11月	降る	9月15日
	12月	しみじみ	10月15日
2年	1月	メロディ	11月15日
	2月	糸	12月15日
	3月	走る	1月15日
	4月	花	2月15日
	5月	さすが	3月15日
	6月	文房具	4月15日
	7月	さらさら	5月15日
	8月	浅い	6月15日

## 坂の街尾道と筆の里熊野

小島 蘭 幸

麻生路郎先生の生誕の地、尾道の日谷寛さんに、4月21日付の尾道新聞をいただきました。そこには、尾道の情報と共に私の句集と川柳塔誌が大きく写真入りで紹介されていました。「尾道ゆかりの川柳作家・小島蘭幸さん秀句集上梓を」の見出しで幾野伝記者は、次のように紹介しています。

…尾道市立図書館で毎月例会が開かれている川柳教室の指導者で選評を行っている一般社団法人全日本川柳協会理事長、川柳塔社主幹の竹原市本町、小島蘭幸さんが川柳作家ベストコレクション「樹齢千年もう美しくなるばかり」（新葉館出版）を上梓した…。

尾道新聞には、おのみち川柳のコナーもあつて18句ずつ掲載されています。

ええじゃんのリズムで街が活気づく 日谷 寛

ノラ猫も我が家の顔になつて住む

飛田 陽子

万緑を歩く雑念透けるまで

村上 和子

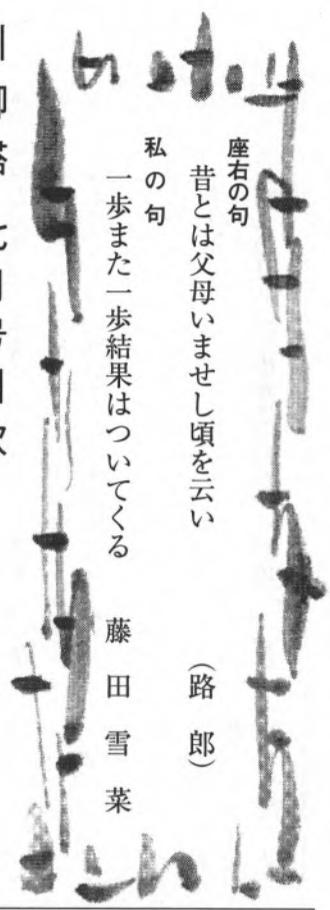
青春へ一度逆走してみたい

笹重 耕三

路郎先生の句碑がふるさと尾道に建立されて今年で18年になります。今年も尾道川柳会の皆様と一緒に句碑まつりを7月7日に開催致します。

安芸郡熊野市の筆の里工房では、現在、バクザン先生展が開催されています。5月5日、妻と二人で見に行つて来ました。今年の4月にリニューアルした筆の里工房、最初の作品展が筆を愛した榊莫山でした。バクザン先生の詩、書、画を見ていると心がほっと安らぐのです。作品「青イナツバ」は青い葉つ葉を真ん中に描いて、その上に小さなしいたけが三個、葉つ葉の下には詩と書、「青ヨリ青イ光ガユレテ小鳥モ青イボレロウタウ」。

漢字とカタカナで書かれたバクザン先生の作品、ひよつとしたら私でも書けるのではと思わせるところもまた、バクザン先生なのです。バクザン先生展は6月末で終わり、7月12日からアンパンマンの作者「やなせたかし展」が始まります。筆の里工房を出ると雲一つない青空が広がっていました。



川柳塔 七月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「岡山市後楽園」

座右の句  
昔とは父母いませし頃を云い  
(路 郎)

私の句  
一步また一步結果はついてくる  
藤 田 雪 菜

■巻頭言 坂の街尾道と筆の里熊野……………小島 蘭 幸 ……(1)

うねり……………森 山 盛 桜 ……(2)

川柳塔(同人吟)……………小島 蘭 幸 選 ……(4)

川柳塔の川柳讃歌(17)……………木津 川 計 ……(39)

自選集……………永 田 俊 子 ……(40)

句集の森……………永 田 俊 子 ……(43)

温故知新……………西 出 楓 楽 選 ……(43)

水煙抄……………西 出 楓 楽 選 ……(44)

橘高薫風句抄……………西 出 楓 楽 選 ……(63)

誹風柳多留一二篇研究 73……………新 家 完 司 選 ……(64)

愛染帖……………新 家 完 司 選 ……(66)

檸檬抄「添える」……………川 端 一 歩・山 岡 富 美 子 共 選 ……(70)

■追悼文(島田誠一さんの死を悼む)……………村 上 玄 也 ……(74)

英語 de Senryu (9)……………吉 村 侑 久 代 ……(75)

うねり  
森 山 盛 桜

地元新聞に毎週四十五句の入選句が載っているが、それを見ると名前も顔も知らない人が九割位ある。多くは未だ日が浅い人達であろうと思うが、それにして多過ぎる。多分無所属で活動しているのではないかと思われる。誰に気兼ねする事なく自由にやりたいという事であろう。三十数年前に私が川柳塔同人に推してもらった時は、とても嬉しかった事を憶えている。毎月句を提出する時もワクワクしたのだが、今は一人誘うのにも苦勞する。隔世の感がある。

最近は何個人情報の問題とかで個人名を明かさぬ人が多い。川柳界もその傾向で、代表格は「サラ川」であろう。これも、始まった頃はきちんと本名を名乗っていたが今は皆無である。主催者側もプライバシー保護から名前を出さぬと言って、名前が出ないから上司部下を抜き

一路集「虫」……………澤井敏治選 ……(76)

「知る」……………坂本加代選 ……(77)

初歩教室「のろのろ」……………高瀬霜石 ……(78)

川柳塔鑑賞……………前たもつ ……(80)

水煙抄鑑賞……………福西茶子 ……(82)

せんりゆう飛行船<sup>㊤</sup>……………新家完司 ……(83)

インスピレーション・ナビ 印象吟……………大西泰世 ……(84)

六月本社句会……………板垣孝志 ……(90)

句会燦燦……………徳山みつ子 ……(91)

■句集紹介「命のめぐみ」吉村久仁雄著……………(92)

各地柳壇(佳句地十選/牧野芳光・籠島恵子)……………(104)

七月各地句会案内……………(106)

柳界展望……………(108)

川柳塔WEB句会「英語」……………なかはられいこ・川上大輪共選 ……(136)

■編集後記(ひとこと/高柳閑雲)……………朱夏・憲彦 ……(136)

座右の句

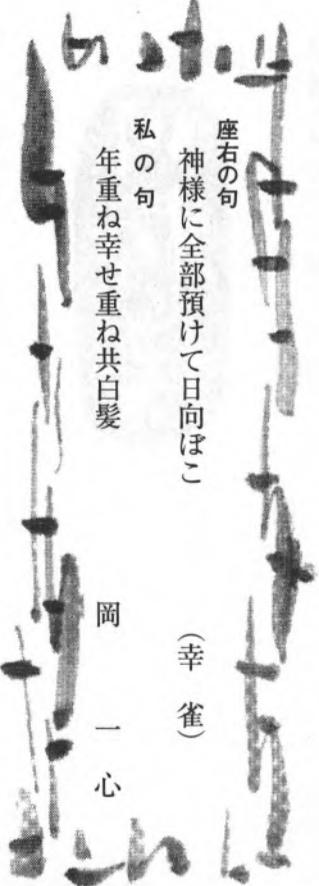
神様に全部預けて日向ほこ

私の句

年重ね幸せ重ね共白髪

(幸雀)

岡 一心



下ろす。単怯だと思ふ。私は三十年近く前にこの生命保険を解約した。ささやかな抵抗だったのだが、古希を過ぎる年齢になった今では若気の至りだったと反省する時もある。今や全国区となった鳥取県の「妖怪川柳」も然り。古い頭の私が時代の流れに乗れないのかもしれない。

川柳を勉強する場で一番身近なのが月例会であると思う。しかし、披露が終わればさっさと解散というのが多いのではない。もう一つ気になるのが、辞書を持たずに選に臨む選者が散見されるという事。それは自分の実力の範囲でしか選が出来ないという事なのだが、「読めないから没にする」は選者として最大の屈辱だと思っている。私にはそんな度胸はない。「誤字があります」「中八です。」位の指摘はして欲しいものだが、斯くいう私も若い頃は平気で中八を作っていた。というより、全く概念に無かったし、誰からも指摘をされなかった。しかし今は作っていない。

以上色々と言ってきたが、よる年波のせいか殆んどはやきで終ってしまった。



小島蘭幸選

河内長野市 山岡 富美子

紙飛行機任せることを知っている

花盛り人は余生というけれど

アールグレイ私にくれる句読点

寂しさは本屋の跡のケアハウス

コインにも言葉にもある裏表

菜種梅雨お元気ですか遠いひと

松山市 栗田 忠士

夢追って追って明日へ矢を放つ

火柱になって男の節くれ手

さすがだな縄文杉の名に恥じぬ

どう転んでも切り取り線の上である

散る時はせめて川面を選ぼうか

着地点風に任せている余生

大阪市 谷口 義

手刀を切って令和に入ります

妹にここ十年は会ってない

おばあさんは水曜日になっている

生前お経というのはどうだろう

良い時代だったしんどかったけれど

五十年前の身長を今も書く

鳥取市 両川 無限

母逝ってパズルひとつが埋まらない

折れた矢が山積みだった父の書架

D五一がここ一番で吐く煙り

男には女の山は崩せない

過去全て知る守秘義務のない鏡

父逝ってもう山彦が還らない

岡山市 丹下 凱夫

ノープランで鈍行の旅に出る

相談を持ちかけられて鬱になり

金の無いことが悩みのタネである

ご苦労さんと言うて一日を終える

快眠快食快便五月晴れ

九条を護る令和のこいのぼり

桜井市 安土理恵

十連休いつもと変わりない目覚め  
五月病とちがう痛みが離れない  
身の程知らず無理は頭と脚にくる  
雑草のひかえめに咲く花がいい  
かしわ餅八十歳にもこどもの日  
リハビリも休み午後から何しよう

八尾市 宮崎シマ子

古賀メロディ故郷は遠くなりにつけり  
昔のままの町何よりの宝物  
風除けになってくれた亡夫の背  
夜は大好き私一人の小宇宙  
朝の読経は夫に上げる音楽だ  
長生きしすぎ昔語りの友がない

広島市 岸本清

川柳の公開録画聞き惚れる  
弱者には情け知らずの十連休  
大クシヤミ居留守がばれた花粉症  
売り言葉返す気力はありません  
笑い種ポツケに入れて同期会  
高齢者アポ電詐欺が見抜けない

河内長野市 木見谷孝代

先人の手仕事見事着物解く  
着物リフォームときめく絹のしなやかさ  
友の詩集が届いて強い気を放つ

絵手紙のカーネーションは日持ちする  
喜んでくれる人いて筆弾む  
大往生と言われたくない身内の死

松山市 宮尾みのり

独りでは心細くて連む癖  
しあわせな人の匂ばかり目に止まり  
ふるさとは寂しと夢で亡夫言う  
骨折の電話へ自戒するも歳  
足元が揺らいでいます理想論  
ポツンと一軒そのうち何もかも埋もれ

岡山市 大石洋子

マザコンを育てて赤いカーネーション  
煮魚を拵る癖まで似てしまう  
一丁前に節樽立った手になった  
節樽の指からははずせない指輪  
浮き立った世に馴染めないアナログ派  
とりあえず強がりはまだ言える歳

河内長野市 森田旅人

開かれた皇室満ちていた慈愛  
新元号むかえ私の衣更え  
ちやぶ台に男を演じぬく昭和  
時代おくれ言われてもいいマイペース  
丹精の野菜に泥の香のやさし  
金魚にも名前をつけて目鼻立ち

三田市 堀 正和

十連休断捨離をする筈でした  
サクラサク子供も親も自立する  
よく喋る娘来た日は妻静か  
古民家が手打ちそば屋に化けていた  
パソコンは付度もせず誤変換  
改元へ日の丸気取り戻す

高槻市 片山 かずお

自分かわいさついつい嘘が出てしまう  
シャッター街に整形外科が店開き  
頑固者一人芝居がまだ続く  
あの人の居ない柳誌が詰まらない  
紫蘭咲き艶めかしさが増した庭  
起きなけりや起きなけりやあで五分経つ

鳥取市 岸本 宏章

令和でも昭和に直す指を折る  
韋駄天の家系の中に亀もいる  
法律に明るい人は騙されぬ  
散歩には手頃な距離にあるポスト  
競い合うライバルがいて上手くなる  
贅沢の極みゆつくり朝寝する

松江市 石橋 芳山

体調の悪さに混信が続く  
息継ぎの合間にのぞき込む明日  
円周を歩くことしか能がない

笑うしかないのか強い俺だから  
畳めないこの日をどこに仕舞おうか  
落ち込んだ穴から丸い空なぞる

鳥取市 夏目 一粹

ありがとう言う子に嘘は無いだろう  
人間の未来たしかに死で終わる  
止まる日のことには触れぬ夫婦独楽  
和やかな人だよ太鼓判を押す  
青い鳥会ったが色が薄かった  
杖一本買って思案の果てにいる

堺市 澤井 敏治

ころろ込め平成送るファンファーレ  
令和の旅人めざし充電する八十路  
風薫るリブセーターの眩しさよ  
ふるさとの原風景は崩れない  
少年に戻す草笛赤い糸  
偶にはと妻に新茶を淹れる午後

三田市 野口 真桜子

プライドの扉を少し開けておく  
人柄が貌に出るアンパンの膾  
世渡りベタなDNAが奏でる詩  
大丈夫B面に本音隠してる  
急がねばローカル線が出るチャイム  
無人駅舎ちちははを呼ぶツバメの巢

新元号へ感謝感謝の万葉集

松山市 古手川 光

性善説が通用しない世が恐い  
ポケットから失踪しました家の鍵  
人生行路しばしば遮断機が下りる  
十連休迷惑してる事もある

松山市 柳 田 かおる

歳だなんて言えないシャキッとした卒寿  
鍵の東シヤラリ淋しい音がする  
受け入れて自由になったのは心  
見えてないところで罅穴を掘る  
ふりむけばもう雑草が伸びている

大洲市 中 居 善 信

雑談を交わして一ヶ月過ぎた  
先生は息子と同じくらいかな  
同じ脳やられた人で四人部屋  
眠れない患者が一人咳払い  
病院の夜中どたばた起きている

西予市 黒 田 茂 代

大自然と生きて退屈など知らぬ  
藁屋根を描き続ける画家がいる  
天使の悪戯だろう時計を止めたのは  
マンホールの蓋の個性を見て歩く  
私のラストに華があるように

疑心暗鬼煙は横に這ってくる  
幾千の風にも母を嗅ぎ分ける

嘘抱いて嘘の重さに慣れてゆく  
嘘にすぎるかそれとも嘘を蹴飛ばすか

風だったのか呼ばれたような気がしたが

土佐清水市 辻 内 次 根

咲いているうちは引けない庭の草  
振り返るだけで現在地がわかる

また明日へ温み残した雑記帳

平成が令和になった朝の雨  
新元号飛行機雲の長い跡

高知県 小 澤 幸 泉

あのひとはもう居ないかも佐渡の鳥

孫生れ雛菊二株鉢に植え

寝ることも起きても居れぬ花粉症

五十年電話の声がふるえてる

ひたすらに夜明けの風を待ちつづけ

東かがわ市 川 崎 ひかり

平成最後いつも通りに過ぎてゆく

令和です生きてる事にまず感謝

寄り道で元気分け合う花談議

新しい家族待ってる春座敷

一日一笑我が家に出来た新ルール

西予市 西 田 美 恵 子

沖繩県 森山文切

モラルとは何か忘れたふりの舌  
あなたの胸から覚悟の音がする  
本音から時空が歪み出した部屋  
夢の中君は指先まで熱い  
ポジティブに生きよと鯨潮を吹く

北九州市 小松紀子

創意工夫やれば出来るわたしでも  
心わくわく夏野菜植えました  
追いつ追われつ雑草と根くらべ  
ボタンキユーばくすいの友すばらしい  
聞くだけで私見はさまざまぐち話

唐津市 坂本蜂朗

しつかりと異郷に根付く妻がいる  
にこにこと優しいけれどこわい妻  
君とならずとトンネルでも平気  
居るだけで家の柱になっている  
また今日も中途半端を積み上げる

唐津市 山口高明

改憲へ揺れて被災者そっち除け  
千本の鳥居潜って願いごと  
豚足を見ると鳥肌立つおとこ  
想い出の映写機回す通夜の席  
四十路でも子供を産んだ昭和の世

熊本県 岩切康子

血圧が安定したら旅恋し  
歩き出すと痛みが消える医者嫌い  
筒好きナンバーつけて日日配る  
皇室の行事連日テレビづけ  
十連休のんびり浮いて日が暮れる

熊本市 杉野羅天

やはりなあスマホが消えている即位  
令和成る後は心で生きるだけ  
草原の薄暮に夕晝は一人  
農薬フリーレンゲ畑が増えました  
五十年趣味それぞれの顔となり

札幌市 小沢淳

人間天皇戦ない旅終える  
翻訳者でストリー違うシンデレラ  
黄泉は渋滞再挑戦だ天下獲り  
聞いてやるだけでいい人だと言われ  
皆さんがあつての政治なんだとさ

札幌市 三浦強一

改元へ桜も意識してか華麗  
表題に「平和」平成回顧録  
震えてる地球の手当急がねば  
背が丸い言う妻の背もまん丸い  
幸せは隠れ上手で逃げ上手

弘前市 稲見則彦

ふる里はあの雪呑んで青々と  
じいちゃんは昭和生れと自慢する

クラス会「故郷」歌い涙する  
螺子山をつぶして悔いる腕である  
見栄を張りスマホ片手に街へ出る

美のシルエットノートルダムが炎上す  
八十八夜二分され出す冬と夏  
植えもせぬ葎が真白い花咲かす  
悉く加齢のせいとクリニック  
頻尿でも水分多くとれ言われ

弘前市 高橋洋子

夢夢夢総身に纏い子は巢立ち  
長生きの葉は趣味と人情け  
呆けぬよう暮らしに旬の味を盛る  
新茶の香り古郷思う五月晴れ  
プライバシー覗かれそうな十三夜

塩竈市 木田比呂朗

ジョギングの朝も弾んで梅雨が明け  
梅雨明けにカラオケまでもハワイアン  
のど越しを主張文月の大ジョッキ  
どうしてもタッチパネルに馴染めない  
爪を切るカウントダウンするように

男鹿市 伊藤のぶよし

明日はわが身かデーケアもりハビリも  
異じやない生きる術です蟻地獄  
蟻の行列なまける蟻も数の内  
なアロボよ忘れることも生きる智慧  
かれい臭ヒバの団扇でぶっ飛ばす

東京都 川本真理子

一からの僕と桜と新月と  
月を見るのに立ち止まるようになる  
眠れぬ夜つらつら考える未来  
輝かしくはないが未来は未来  
Tシャツの背にランドセル馴染みだす

八王子市 川名洋子

春めいて歩幅大きくなっている  
桜と雪の共演神の戯れか  
ハイヒール歳を忘れて春の中  
破れ傘繕いながら終章へ  
一日に点火ブラックコーヒーで

横浜市 菊地政勝

手ぶらでと言われかえって気を遣う  
時々喜劇に見える物忘れ  
夫婦での自慢話は許される  
五種類の葉へいつも礼を言う  
新元号迎え変らぬこの暮らし

さいたま市 星野育子

可児市 板山まみ子

ミサイルを飛翔体だと言いつれ  
便利だが一瞬にしてなる凶器

有難い話に睡魔押し寄せる  
傘寿過ぎ一番怖いのは老化

宝くじ買わない選択肢もある

他人様に言えぬ見事な忘れぶり  
楽しみが多く老後も忙しい

アポ電の才能活かし転職を

集まって笑いころげてまだ生きる

恩赦とはいかぬモリカケ統計ミス

静かすぎる夫婦の多いツアーバス

上尾市 中村伸子

犬山市 金子美千代

雷鳴と雹の真つ只中にいる

おとなしく客乗せドル箱のラクダ

リハビリの自主練などもあるのです

ブルーシートまだ残つてる街通る

ななつ星まだ乗れませぬえあなた

久し振り国旗掲げて祝令和

桜餅草餅食はず過ぎし春

祝令和姉妹で同じ誕生日

電子音聞こえぬ夫の耳になる

祝令和姉妹で同じ誕生日

朝霞市 前田洋子

犬山市 関本かつ子

十連休休めない社に休めた社

漱石の「こころ」に百円のシール

煩惱を流してくれる里の海

ニワトリが神社の中でかくれんぼ

起き掛けにホーケキョケキョと笑わせる

ラーメンが終わり冷麦になるお昼

母おもい今じゃどちらも加勢せず

家族葬など似合わないお人柄

ペーパーも洗剤も買う5倍の日

母の日と父の日等はいとまとめ

千葉市 海老池洋

愛知県 早川遯行

ひと雨で多弁になった初夏の森

主治医から妻の寿命を聞かされる

令和開幕よほよほなんかしてられぬ

見苦しい涙は見せぬ洗面所

灰汁抜きのいる筈のような僕

病床の妻の笑顔に告ぐ令和

息してるだけで税金払わされ

男とは弱きものなり酒浸り

留守電に切り替え食事準備中

退院の妻を労る台所

鈴鹿市 小 河 柳 女

骨折する寝坊菩薩になるだろう  
孤独というメニューを食べている食卓  
リハビリに笑いがあふれ傷忘れ  
いよいよ八十路わがままをぶらさげて  
それでも歩く険しくて遠い道

富山市 島 ひかる

平成を日に日に遠くする令和  
留守電へ死亡案内ある二件  
西ひがし別々に行くお葬式  
遠来の友が笑いを置いてゆく  
同じ日に泣いた笑った喜んだ

京都市 清 水 英 旺

何となく令和の空気輝いて  
一日にして天皇の顔になる  
十連休何もなかったしなかった  
大聖堂焼けてカジモド泣きくずれ  
雑草と思えぬ花を咲かせている

京都市 藤 井 文 代

兎と亀の差思い知ります喜寿の今  
消費税来るなら来てとせぬ消費  
右の耳ばかり狙ってくる苦言  
節約しても値上げで膨れない財布  
沢庵漬舌は肥えても好きは好き

京都市 榎 本 宏 子

学校で掃除の仕方習わない  
ライバルはまだ勉強中窓灯り  
悲愴感をアピール介護相談所  
お経より讚美歌がいいお見送り  
あほやなアすげない友が温かい

京都市 三 宅 満 子

赤い糸洗い直してまた結ぶ  
建て替えの生家スケッチノスタルジー  
おばあさんと他人に言われムツとする  
薄給の若い世帯にステーキを  
ゲーム漬けホッペの赤い子を見ない

長岡京市 山 田 葉 子

家族揃った余韻の中に残される  
がむしゃらに若さで駆け抜けた昭和  
ひと呼吸おくと反響ゆるやかに  
油断するとすぐ身体からのサイレン  
あじさいが咲いて追伸終らない

八幡市 今 井 万 紗 子

病室から人の浮世を見てしまう  
自画像にたつぷり描こう笑い皺  
この所妻がやさしくなってきた  
次の世もどうかこの手を握ってね  
昔はね夫婦喧嘩も派手でした

大阪市 磯 島 福貴子

まだ五月猛暑の予感ひしひしと  
ジムデビュー筋力つけて八十路へと  
夫倒れ私パニック落着かには  
相方の不調私にうつりそう  
仲睦まじ上皇夫妻鑑とす

大阪市 井 丸 昌 紀

運命の人だと信じ込んでいた  
カッサンド主役は焦げたパンである  
深夜放送真つ暗闇で息詰めて  
真つ直ぐなキユウリを事情聴取する  
百時間ほどはぐっすり十連休

大阪市 岩 崎 玲 子

孫の世話そこそこできた私なり  
こいのほりいい風吹いて嬉しそう  
十連休いろんなことを考えた  
財布中テレカ淋しく入ってる  
ライバルの刺激がサブリ若返る

大阪市 内 田 志津子

挽ぎ立てのトマト類張るカフェテラス  
絵手紙に優しさたと添えてある  
嘘少し混ぜて自画像出来あがる  
ポケットに昭和を入れたまま令和  
ヒョウ柄で緩んだ顔をひきしめる

大阪市 宇 都 満知子

目も耳も初夏を遊びに一万歩  
言葉を紡いで遊ばせていただく  
化粧より今は丁寧な歯磨き  
泥酔まで怖くて飲んだことが無い  
ホームの義母へ絵手紙の定期便

大阪市 江島谷 勝 弘

誰も気づかないメガネ替えたのに  
賭事とケンカはしない弱いから  
足の踏み場もないのにながれと言う  
なんと言っても私はモンブラン派  
心ではあいつと互角だと思ふ

大阪市 榎 本 日の出

よく眠る孫だよきつと大物に  
故里が呼んでいるのに帰れない  
野良猫がとつてもきれいな初夏が来た  
誕生日あと何回か楽しまん  
夜寝ずに昼眠くなる此の頭

大阪市 大 川 桃 花

今日一日乗り切るために化粧する  
東大出の嫁さんもろてまだ不足  
グレイヘアー選んだ友の潔さ  
フェルメール人の頭を見て帰り  
十連休終つて主婦の慰労会

大阪市 大 治 重 信

越えて来た薫風受けてにぎりめし

我が子より孫の自慢の同窓会

訳もなく乾杯してる花の莫塵

人生の第何章か夢枕

薫風や緋にしめる紅襷

大阪市 奥 村 五 月

何一つできぬ夫を置いて逝く

断捨離も区切りのつかぬ物ばかり

悪友と時間気にせず午前さま

幸せは金ではないと夢を追う

手を合せあの世の妻に侘びを言う

大阪市 小 野 雅 美

母の名を借りるこの世を見せたくて

ちぎり絵に数多の罪を眠らせる

次世代に戦争の絵は描かせない

笑えない私へ星よ降りたまえ

空からも褒められるよう磨く床

娘と一緒に吉野の花見いざ行かん

金峯山寺権現さまも美しく

くずきりを食べて一服昔めく

新天皇即位の儀式正座して

十連休令和を祝し百合活ける

大阪市 金 川 宣 子

お好きにと放り出された母の日に

運動会凜々しい行進かつこい

むず痒い補聴器外し耳掃除

ブランコの影が伸びたり縮んだり

乗り鉄の十八切符乗りこなす

大阪市 川 端 一 歩

雪溶けて山が田植えの季を知らず

右ひだり聞かため耳は二つある

生き方は下手と言われる方がよい

孫のお古着で颯爽と出る句会

貯金箱いっぱいならぬ訳がある

大阪市 古 今 堂 蕉 子

五十年天使のように仕えてる

不思議な程カラオケで生きかえる人

うますぎる歌もはずれるのも困る

溜飲が下がる話に出合わない

大阪市 近 藤 正

九条が安倍晋三を追いつめる

都にはなれない一丁目一番地

知床にシヤチが群れ成す訳がある

五重塔地震に強い心柱

義理堅いところがほんに魅力です

大阪府 坂 裕之

公園に子供らの声久しぶり  
意識して欲しいから子はやんちゃする  
真つ直ぐに歩いて喜寿に辿り着く  
近場でもいいからちよつと旅気分  
町歩き美味しい店に出会えたよ

大阪府 高杉 力

影だけが味方のように思える日  
好き嫌い好きとブランコ揺れている  
順不同でもなさそうな順不同  
呼び捨ての友と今宵は大ジヨッキ  
メル友も良いが文通懐かしい

大阪府 高杉 千歩

ピリケンさんの足を撫で撫ぜ車椅子  
星に願いをお星さま何処へ  
いつものようにいつものところ車椅子  
明日あしたと待つほどでなし九十三  
組の鯉コールに気兼ね車椅子

大阪府 田中 廣子

母と来た夜桜見物通り抜け  
勧められ派手な服買う私です  
派手な物良く似合う人徳な人  
広い空核の無い日が来ると良い  
記念にと取っておいたらごみの山

大阪府 田中 ゆみ子

友達つていいね本屋で待ち合わせ  
カーネーション母にも父と母が居た  
熱っぽく理想を説いて青テント  
老眼鏡かけて子が来た子どもの日  
令和開くマツチを擦って修司の忌

大阪府 津村 志華子

運とはね落ちては無いよ努力だよ  
いい仲でないが医者とは仲が良い  
今日は奮発ビフテキトマト春キャベツ  
ネギ刻む音ご機嫌なりズム感  
早世のはらから胸をしめつける

大阪府 寺井 弘子

ドタバタと騒いだ子らのいい寝顔  
諸行無常ひらひらしない選択肢  
血縁の切るに切れない裁ち鋏  
気がつけばピエロにされているトップ  
元号の令和に気分一新す

大阪府 寺本 実

風を読み狸寝入りと決めている  
痛み止めください浅い傷ですが  
居酒屋で傷は浅いと慰める  
どの花も付度せずに咲いている  
追憶へやつと貴女を送り出す

大阪市 中井 萌

職を辞し免許返納まる裸  
父と子の男同士の鬨ぎ合い

欲拾てて視界が広くなりました

小競り合いちよこちよこあつて二人居る

老いも良し尖んがる事もなくなつた

大阪市 原田 すみ子

紫に染まる雅な藤の下

わたし色押し付けぬよう消さぬよう

目の前から心に居場所変えた兄

痛みには弱く淋しさ尚弱い

大都会夜景は空を広くする

大阪市 平井 美智子

近所まで来たと言いつして鬼

私の淋しいとこを突く笑顔

さよならとピアスの穴を抜ける風

帰ろうかケーキを買つて花買つて

明日笑うための別れを繰り返す

大阪市 平賀 国和

熟年も胸膨らまず初夏の風

連休に孫を迎えた鯉のぼり

明るくて生前退位悪くない

異論疑問がゆるむ空気を引き締める

九条と令和の調和願いたい

大阪市 藤田 武人

走攻守揃え大リーグへ挑む

百歳の会話通訳する玄孫

デコとデコ合わせて母は子を叱る

アルバムを眺め遺影を決める父母

ガス抜きの一合目からボヤキ節

大阪市 山本 加お里

いそいそと出掛けています今日の幸

ゆつくりと歩けば出合う花がある

肩車している親はもういない

生きてきた生かされてきた傘寿まで

寝ときや毎日顔見にくる息子

大阪市 若本 安代

介護には連休なんて夢の夢

花追うてローカル線を賑わせる

アホやなあ言つて笑えるいい仲間

アホやなあ意地を張らずに泣けと亡母

カーネーション添えたカードにありがとう

堺市 奥時 雄

今の世が働きすぎと思わない

昔から食うためだけに働いた

十連休どころか有給さえ取らず

終身雇用トヨタに無理と言われては

ノルマから開放されてタガ外れ

堺市 柿花和夫  
ケアハウスで母が描く絵に僕がいた

吉本の舞台が似合うおわび劇  
葱洗うピンチに強い妻の朝

貧困の連鎖政治に届かない  
被災地に主の戻らぬ燕の巢

堺市 加島由一

仏壇に花をそなえる令和です

朝顔を植えて令和の初仕事

ミツバチが一匹飛んで来た令和

水槽の水替えドジョウおどろかす

風邪引かぬ前に二合の卵酒

堺市 源田八千代

巨大絵馬と美智子妃の歌碑仰ぎ見る

雅子様の晴れ舞台なり令和の世

五月の庭に真紅の牡丹凜と咲く

新緑の中孫のガイドで古寺巡り

収集の人の身になりごみを出す

堺市 齋藤さくら

肉よりも野菜目当てのバイキング

大阪城に外国人の長い列

十年は元気なつもり羽広げ

忙しいことも無いのに疲れてる

お婆ちゃん孫の笑顔で元気出る

堺市 坂上淳司

傘寿過ぎ曾孫抱かせてもらう幸

ガラケーの待ち受け画面には曾孫

アイパッドの動画で笑う初曾孫

保育所で病気の授受をする曾孫

保育士とニコニコ散歩する曾孫

堺市 遠山唯教

五十年まもつて欠けた鬼瓦

月例の友達がこころを救う

友とみた心を癒す剣岳

やる気だなステイック二本もつた妻

平成におくられ友がふたり逝く

堺市 内藤憲彦

昇進をはにかむ名刺息子から

令和始まる10連休も妻の傍

引退します新しい夢持てました

あかんとは一度も言わぬ父の恩

ひとり勝ちではマージャン仲間続かない

池田市 栗田久子

改元で今万葉に向く心

昭和平成令和を生きるのも果報

苺が店に心やさしくなる季節

街に出ればすべてがすべて夏モード

慢心はせぬがゆるりと生きている

貝塚市 石田ひろ子

予定通り今朝も片付き朝ドラを

念入りに薬数える小旅行

時々の命洗いに乗る電車

古い人間ですがラケーが手に馴染む

連休に備え病院はしごする

河内長野市 大島ともこ

柔らかな寝息が語るママの胸

誕生餅背に社会への第一歩

誰も皆持つて生まれる光る石

スタートもゴールも独り闇を抜け

少し待ってまだサヨナラは早過ぎる

河内長野市 梶原弘光

改元の前日ぶらり散髪屋

うちのボチボールを取りに行つたまま

ゴメンとはなかなか言わせない沽券

チャップ台で勉強する子よくデキる

後期入り孫のクラブに未だ届く

河内長野市 黒岩靖博

近頃の夢は仕事をしたこと

AIが仕事を奪う日もま近

百歳時代十年あれば一仕事

机上の計画書は夢芝居

号車違いの座席に座り一乱

河内長野市 辻村ヒロ

不摂生結果がどんと顔を出す

あのねのね幼い口に爺トロリ

マンネリの日々が住みよよい老い一人

ときめきに白髪ゆらゆら老い知らず

やんわりと皮肉言つても届かない

河内長野市 中島一彌

青い目の女人に出会う金剛寺

人の性過去は問わないなんて嘘

子らの目と同じ高さで探す春

板の間の素足が心地好い季節

よく笑う人が隠している余命

河内長野市 藤塚克三

平成の転ばぬ杖は妻でした

図太さが余生元気の栄養素

放言は心のゆるみでも本音

口が悪い医者忠告受け入れる

いい湯だなまるでカピバラうつとりと

河内長野市 村上直樹

朝風にふわりパン屋の香が届く

ひね胡瓜でも丹精の味の濃さ

派手に嘘派手に笑ってきた見舞い

国境のない地図に令和の虹が立つ

百歳時代それが幸せなんです

河内長野市 山室光弘

胸いっぱい入れて令和の風が吹く  
卓球の据野広げた愛の「サーアー」  
ほどほどに人生の岐路越えてきた  
電源ひとつ止めれば闇の都市砂漠  
勝ちゲーム明日に残せトラ打線

岸和田市 岩佐ダン吉

サポーターだあれもない道歩く  
来客ゼロおぼちゃんの店暮れている  
言い尽くし少し淋しくなっている  
我慢などやめた私が辛くなる  
本当のひとりになって腹決まる

岸和田市 宮野みつ江

摘花されなかった桃の子だくさん  
ティータイム思考回路に風入れる  
水漏れる蛇口の愚痴を聞いてやる  
裏通り猫には猫の集会所  
雌猫が一匹もいぬ猫だまり

四條畷市 吉岡修

ポケットの奥に寝ている正誤表  
サプリメントすっかり主役ぶっている  
ロボットに比べ飯喰う酒も飲む  
選挙カーに蒔かれた毒が利くころだ  
雑学にスポーツ新聞かせない

吹田市 木下敏子

自転車に乗れなくなつて押す車  
スパーへころころ車押しして行く  
ゆつくりと連休本を読み終る  
大変なこと乗り越えて来た踵  
今聞いた事も忘れていた笑顔

吹田市 野下之男

離婚する妻に四兆円しわけだ  
先生もくちびる寒しご注意を  
ああ良いねえ寄附した桜いつ迄も  
せんべいをけちって鹿につつかれる  
海獣が筆で字を書くこの不思議

高槻市 島田千鶴子

駆け抜けた昭和平成いとしくて  
令和の世歩幅ゆるめて楽しまん  
若葉青葉里は田植えの準備中  
贅沢ね取れたて玉子かけごはん  
ジタバタとしても明日は来るのです

高槻市 初代正彦

人生も景気も後で知る時  
暇人の野暮用だけはてんこ盛り  
ゆつくりと写経をしたくなる齢  
ずばずばとおっしゃるだけのことはある  
時の流れ令和もなんと早いこと

拔擢を微力ながらと言う自慢

高槻市 富田美義

女には直ぐフニヤフニヤの力瘤

雲雀並み浪速オバちゃん会話力

鬼の手は意外と柔く温かい

杉花粉に生きる力を鍛えられ

高槻市 富田保子

来客に旦那見せぬが子は見せる

ボケ予防と強がり歌う昭和っ子

もぎたての朝のサラダが元氣くれ

掘ったまま姉から届く里の匂

孫が来るドリンク飲んで身構える

高槻市 原洋志

あの世での落ち合う場所は決めてある

転び方だんだん上手くなる余生

噂などどこ吹く風のスニーカー

十連休ごろ寝するには長すぎる

四元号生きてる母の手を握る

高槻市 松岡篤

勲章のように持病の二つ三つ

整形の五十年後が気にかかる

くじけたらヤケ酒を飲むあかんだれ

仕事して居ればご機嫌仕事好き

おばちゃんの団体避けて座席取る

年重ねだんだん派手になるお洒落

高槻市 安田忠子

捨てられぬ貧しい時代生き抜いて

三時代生きて昭和が懐かしい

吊り皮を持つとどうぞとゆずられる

私の顔孫が画いた絵ピカソ並

豊中市 池田純子

新しい空はどうだい鯉のぼり

改元と共に祝った誕生日

新茶にも令和の香り付いて来る

衣替えタンスの中に春が来た

キッチンに連休明けてほっとする

豊中市 上出修

10連休何かせねばと老い二人

古希過ぎて医者とは長いお付き合い

そんなんで悩んでいたのアホやなあ

オバチャンも親善大使貽取る

腕を組みうなる主治医に胸騒ぐ

豊中市 藤井則彦

富士山の後ろ姿も見てみたい

歯が疼く人の笑顔はいじらしい

世の動き聞くならタクシー運転手

行き届く世話に夫は柔になり

いつの間に見知らぬ僕が居る鏡

豊中市 松尾美智代

テレビ見ない一日片付けに回す  
戦争を知らない平成は宝  
一本のエンピツで画く夢の地図  
三角形の定辺にいる安堵感  
夢ひとつ又ひとつ積み今日終える

豊中市 水野黒兎

妖怪は人の分身かもしれないぬ  
大関が全員勝つとニュースです  
武器ひとつ使わぬ勝負じゃんけんぽん  
ストローで吸い上げている若い夏  
深いシワに四代の御代刻む母

富田林市 片岡智恵子

災害の多い平成いくさ無く  
父の忌にある日の声を胸に抱く  
ベツトは飼わぬわたしも共に歳をとる  
花散つて喋り出す男の背  
無駄な時間と思う位がいい塩梅

富田林市 関よしみ

旅の宿令和の月に願う僕  
千年の美人観音苔むしろ  
深呼吸して少年が脱皮する  
再会へ記憶の月を膨らます  
辛うじて闇路を抜けてダツシユする

富田林市 中村 恵

羨望は育ち盛りという若木  
すぐそばに地獄極楽あるこの世  
弁解が軽くてしかたなく笑う  
五欲に塗れて元へ戻れない  
思い出の昔が遊ぶ玩具箱

寝屋川市 籠島恵子

せめて葉ざくら夫を無理に誘い出す  
葉ざくらに同じ想いの人にあう  
もしもなんて言われつづける現在地  
思い出をたどれば麦秋が揺れる  
勉強が足りないサギ師から電話

寝屋川市 伊達郁夫

熱帯夜じわり指輪が緩みだす  
モノクロの汗に私が溶けていく  
年金の枠でチビチビ屋台酒  
嫌われぬ様にとつてる車間距離  
俄雨カンナの吐息聞いて夏

寝屋川市 富山ルイ子

テレビ見る再生医療びっくりす  
寝た切りが歩けるようになるを見る  
年号が令和うれしく使ってる  
あらたなる令和仲良く元氣よく  
次々と親しい友がいなくなる

寝屋川市 森 茜

肅々とはこぶ階 即位の礼

十二神將の慈愛湛えている怒り

蘭の名はモンローひらく七年目

やさしさがすとんと胸に子のジョーク

心決まってひらひら昇る紋白蝶

羽曳野市 安芸田 泰 子

深呼吸させてやりたい水中花

未だ元氣と思っているのは自分だけ

自己嫌悪心の闇を深くする

ご近所へ落花狼藉詫び回る

流し目で朝を急かせる目玉焼

羽曳野市 宇都宮 ちづる

母の日商戦何かあげたい母は居ず

渋滞をテレビで見てる十連休

子供の日老いた二人でかしわ餅

ペンだこを知らぬ大人のキーボード

向日葵の芽が出て夏を覚悟する

羽曳野市 徳 山 みつこ

まずご静養を上皇上皇后

地に足をスマホへ指は程々に

緊張がゆるみボロリと出た本音

安寧を注ぐかのごと藤の房

平凡という神様のプレゼント

羽曳野市 中川 ひろ介

ほこ先はどこを向いてる消費税

互角なら勝ちあなたはあなたに譲ります

またたきは默契のよう父母の星

帰りましたベアの燕が軒下に

花暦立ち止まること赦されず

羽曳野市 藤 原 大 子

不自由ない暮らしでこぼす愚痴あまた

物忘れ付きあい方を試行中

迂闊だったまともに話受けていた

落ち着かぬ心髪までおさまらず

母の日のチャイムに顔がほころびる

羽曳野市 三 好 専 平

鴨の水脈記憶のすみに散るさくら

ロングからミニまであるく花の道

花泥棒芋泥棒でありにけり

地球まだ戦国時代を抜け切れず

まずハイという癖やっとなつてきた

羽曳野市 吉 村 久仁雄

生き抜けば大病だつてかすり傷

後悔の多さが視野を広くする

遅れても僕らにきつと春が来る

以心伝心無言の愛は揺るがない

手を伸ばせば届くとこゝろに愛を置く

東大阪市 北村賢子

籠もらずに外出しよう風みどり

表情で解る水不足の紫陽花

息抜きをしては繋いでいる命

首つ引きでテレビ鑑賞十連休

葉桜もいいもんだねと小鳥たち

東大阪市 佐々木満作

全盛期過ぎた平成を惜しむ

敵かに令和が明けて引き締まる

キャンバスに血潮が滾るゴッホの絵

人生の終着駅にある儀式

箱根八里唄えば青春甦る

枚方市 丹後屋肇

会費制になる妹の一周忌

亡妹と小突き合いする夢の中

色即是空駄句もろともに千の風

鉢巻の八十路が挑む五七五

無我夢中勝ってしまった稽古量

枚方市 二宮山久

杉木立パワーを浴びて高野山

素っぴんで自分探しの一人旅

脳トレで始めたカラオケ生きがいに

自己紹介お国なまりで場がなごむ

妃殿下のさわやか笑顔にエールする

枚方市 山口弘委智

連山がグリーンサラダになる五月

ばら抱いた謝辞に涙腺刺激され

新元号一病息災生き抜かん

草笛にふるさと恋うる音色聞く

薫風に洗い晒しの更衣

藤井寺市 太田扶美代

エプロン紐可愛いく結び今日は主婦

買った日の倍の勇気で捨てました

生きてきた節目節目に風の音

同じ事何度聞いてもいい人と

亡母の形でわたくしを終りたい

藤井寺市 鴨谷瑠美子

どの道を行つてもついてくる迷い

こだわらぬ時計とならば旅に出る

平行線どこまで続く静と動

空廻り続ける雨の日の頭脳

歲月のどこを切つてもわが歩み

藤井寺市 鈴木いさお

妻とふたりのなにわの恋のものがたり

寝たふりも聞こえぬふりも芸の内

神様のメッセージにも誤字脱字

千羽目の鶴折る万感を込めて

十七年天寿全うボチ見事

藤井寺市 吉田 喜代子

古里の桜待つてた誕生日

山路の香りも旨し春の味

新元号になつても庶民変らない

新元号見極めたいな十年後

令和元年疎遠な人の墓まいり

松原市 森 松 まつお

八十を過ぎたら赤を着てみよう

信号は青でも油断なく渡る

ハンカチを黄色に変えてみる令和

雑字を広く浅くという家訓

水割りをチビリ火の鳥読みかえす

箕面市 大浦 初音

助け合い信じ合つてのこの世です

俗念を去つてきままな一人旅

デザインより使い勝手を選ぶ歳

老いの知恵使われ上手生き上手

母白寿集う子供も高齢者

箕面市 酒井 紀華

待ち人来るおみくじ買つて弾む靴

去るものは追わず真冬の地平線

うっとり夕陽が沈む孤の時間

多作から名句がほしい太いペン

決断は私がいりますメガネ拭く

箕面市 出口 セツ子

迷惑をかけて頼りにする息子

親と子の適度な距離で居る温み

入院の荷物とかず置いておく

早く出てまた入院をする夫

お茶一つ自分で入れないのが夫

箕面市 中山 春代

添え物になつてしまつた平和の和

元号の令のあたりに父の顔

イケメンの遺影の父は二等兵

アルパムに残る穂高の縦走路

せつちかな四月の令和パンケーキ

箕面市 広島 巴子

カーネーション優しい子らの笑顔です

カーネーション恋しい亡母の笑顔です

薫風に雀と遊ぶカフェテラス

鉄博でタイムトラベル老夫婦

古寺巡り自分らしさを取り戻す

八尾市 内海 幸生

見納めと思うた桜に会えた幸

もの忘れしない薬を飲み忘れ

十連休どころか生涯長連休

此処行つた行つたと叫ぶ旅テレビ

令和よし万葉集を開かせる

脱線が好きで本論始まらぬ

八尾市 寺川 はじむ

入学祝い論吉ひとりじゃ寂しがり

花は皆蕾になると脱ぎたがり

春ださわやか仕事も恋も助走する

士に一札令和へ馳せるトラクター

八尾市 村上 ミツ子

十連休なんぞ大したことはない

先ず五月から始まった令和元年

うるわしい世でありますように令和

平和だけ連れて令和へお引越し

きのうの新聞読みなおす休刊日

八尾市 山根 妙子

カレンダー捲れば令和緑雨の絵

フェルメールペン持つ女に射す光

合服を着る間もなく夏はじめ

朝ドラのつづくで体オンになる

上皇もほっとなさるか午後のお茶

大阪府 米澤 淑子

今にして免許返納は正解

母憶う今年最初の豆ごはん

先々を読んで苦勞を背負いこむ

老人と世間話ではやる医者

気力だけは持ち続けてる終の章

人生百年頑張りますとスニーカー

神戸市 上田 和宏

加齢度が同じこれが一番話しよい

雨が降る蟻さんいかがお過ごしか

雨だから今日はもうちよい飲みますよ

自分史にご破算と言う最終章

神戸市 奥澤 洋次郎

オルガンの音色が残る廃校舎

何の為の今日であるのか春炬燵

牙抜かれ他人の振りの仮住まい

止まらない口生返事している耳

一幕は自分に還ってゆく時間

神戸市 富永 恭子

今ここで蓋を取ったら煮くずれる

様子見てみようか立ち上がる日まで

入門編へ何度も戻る会話力

カーネーション売っている今日は母の日

カーネーション一本を買う赤を買う

神戸市 能勢 利子

デイズニールランド目指すリユックとスニーカー

メリーゴランド手始めに乗る三世代

ジェットコースター恐かったけど癖になる

帰って来て三日後はあばダウンする

デイズニールランド長い列でも皆笑顔

神戸市 山口光久  
いらっしやい皆やさしい人ですよ  
公園で子らの元気な声を聞く

福耳の逆転劇を信じてる  
言い過ぎて阿責に悩み繩のれん  
顔色が本音じゃないと言っている

神戸市 山口美穂  
散歩道三日会わない人思う  
葉桜が昔話をしてくれる

ありがとう西日が笑ってくれました  
雨が降る散歩に代えてスクワット  
散歩道日日上達のホーホケキヨ

神戸市 細川花門  
お兄ちゃん振って飲んでる缶ジュース  
元気ですラジオ体操しています

どう見ても恐妻家だと思えない  
生命線辿れば亡母の顔がある  
生命線ほんやりと見て日向ほこ

南あわじ市 萩原狸月  
新元号事前に告知する異例  
連休で区切りをつけてさあ令和

風鈴で涼しくなれた昭和の子  
老いの坂気力と友と金少し  
囁む音が若さを誇るおつけもの

しがらみが解けず結び目ひとつ増え  
あきらめるか粘るか迷う最後尾  
鍵括弧取れてようやく一人立ち

明石市 梶谷和郎  
チャンネル権譲って戻る子の笑顔  
おばさんに効くのはサブリよりしゃべり  
満月がきれいで母に電話する

芦屋市 竹山千賀子  
ティータイムポチもちゃっかり座ってる  
病床に優しい風の訪問者  
蓮の花仏心にしてくれる

待ちぼうけ愛の双六五歩もどる  
表札の男名前が用心棒  
失言のふりして本音語る人  
悩んだらつい口ずさむケセラセラ

尼崎市 永田紀恵  
ワンコイン三つ溜まれば繩のれん  
検査結果は良風が心地よい  
生真面目で香車のような父でした

撮り鉄がホームの端に陣をとる  
酒好きは他人のような気がしない  
ジャンプは無理迂回して行く水溜まり  
尼崎市 藤井宏造

尼崎市 藤田雪菜

一人分スティック緑茶ほっこりと  
揚げたての旬の野菜は主役とる  
疲れると優しい気持ち欠けて行く  
看護師のこぼれる笑みに救われる  
旅する度訛り言葉に癒される

尼崎市 山田耕治

ニワトリはどうぞと言っていない卵  
お雛様と記念撮影しておこう  
憲法記念日行楽地へ急ぐ  
祝傘寿いただきました籐の椅子  
あの方も定年らしい朝歩き

川西市 山口不動

即位の日十連休を引き締める  
連休のうちに始まる令和の世  
孫の背がみな妻を越す令和かな  
散ってゆく私も花も散ってゆく  
菜の花や黄色絵具を押しつぶす

三田市 足立つな子

駆け足でいや飛んできた傘寿の日  
子の声を煩いなんて哀しいな  
そりゃないわドラマのような嘘くさい  
秘密主義行き着くところ仲違い  
消したいしくじり頭の隅に置く

三田市 上田ひとみ

うぐいすも鳴いてまあまあ佳い住処  
バイキングもうしんどいな遠慮です  
子の傍へ転居しましたとの便り  
よく晴れた日の鏡ふと母の顔  
ほんやりと残り時間というコトバ

三田市 尾崎一子

昭和平成令和時代しみじみ  
就活部活孫の休みはありません  
息子と二人ふる里へ墓参り  
亡夫自慢の山も子は花粉症  
清貧に生きる笑顔に母の幸

三田市 北野哲男

桜散り一つ歳とる木も人も  
母の日に三頭身の絵を貰うた  
もてなしに外食出前とる時代  
脳味噌の隙間予防に匂を埋める  
お互いによく飲んだなと遺影の日

三田市 多田雅尚

節句より早く届いたランドセル  
ベビーカー乗っていたのはおばあちゃん  
補聴器を付けて分かった裏おもて  
辞書を引く時は欠かせぬルーベ鏡  
被災地のブルーシートは取れぬまま

三田市 谷口修平

来年の春まで会えぬお雛様  
山菜を摘みに来ぬかという緑  
広い海見てきた鮭が遡上する  
流される理由が分からぬお雛様  
記念日を葉書きで知らすお寺さん

三田市 福田好文

母の肩持つと家内がへそ曲げる  
それぞれのドラマ持ち寄る同期会  
帰る娘に諭吉一枚折りたたむ  
肩書きが合格させた某医大  
迷ったらロダンのポーズとつてみる

三田市 村田博

またチヨンポお前らしいと無二の友  
利酒をまた飲み込んでやり直す  
切り捨てた過去連れて来るお線香  
七百万の空家が眠る日本国  
地方痩せ東京だけがまだ肥える

高砂市 松尾柳右子

行列に馴れて令和の幕開く  
親戚と集う食事は博多弁  
八十路にもやさしい笑顔小倉城  
追いかけるカメラにピースお茶目な子  
亡夫には申し訳ないお湯めぐり

宝塚市 丸山孔一

川柳塔誌読むは「編集後記」から  
カラオケでエアークターの調子好き  
死んだふりしていた樹樹に春の雨  
陸橋だ横断歩道何処に有る  
あの頃は自作竹馬水鉄砲

丹波篠山市 酒井健二

生臭い風が吹くから身がまえる  
山頭火あなたと一緒一人呑み  
時どきは笑う自分の顔を見る  
トンボさえ舞ってトンボを主張する  
改元で僕は何にも変らない

丹波篠山市 北澤稠民

三時代生きて不足は罰当り  
野良仕事あるから旨い酒飲める  
風みどりお辞儀の深い人と逢う  
あと少し夢を見たくて本を読む  
同世代みんな同じ修羅くぐる

西宮市 秋元てる

桜散る時の流れに身を委ね  
床離れ心行くまで髪を梳く  
笑い顔絶やさぬ人だ手強いぞ  
その時はその時何とかすると言い放つ  
切り干しの味では祖母に追い付けぬ

西宮市 緒方美津子

誇らしげ令和を泳ぐ鯉のほり  
子育てに頑張った足踏みミシン  
テールを使いまわしている暮し  
裏道も確かめておく避難場所  
となりに拾われたホームランボール

西宮市 亀岡哲子

お喋り代込みで薬局美容院  
怒られず怒りもしない歳となる  
六甲山望む窓ありストレッチ  
まずはよし介護入院未経験  
目標は姪四十のウエディング

西宮市 福島弘子

恵まれておいしく食べる日に三度  
閃いたレシピの元は亡母の味  
伝言板時はゆつたり流れてた  
恙無く令和を生きる心意気  
殖え過ぎた鈴虫なんと姦しい

西宮市 福田正彦

古の歴史を辿り誇り得る  
浮かんではすぐに消え行く句をつかむ  
核廃絶これが唯一抑止力  
悲しいなあ平和を知らぬ自爆テロ  
寡黙だが酒が饒舌誘い出す

西脇市 七反田順子

連休を孤独と思う得手勝手  
諭吉さん親しんだのにバトンとは  
夜明けにはウグイスが鳴くパラダイス  
母の日はきっちり届くプレゼント  
稚魚流す子どもの活気もらいうけ

奈良市 阿部紀子

最近の家スペインの白い家  
新しい皇室迎え参賀増え  
イギリスは第一子男女継承者  
アマリリス一杯増えてご近所へ  
満開のボケの花盆栽鉢に植えかえる

奈良市 宇賀史郎

どの友も人間味あるクラス会  
まだ夢を持つ八十の知識欲  
演技から本物になる物忘れ  
病院に行くまでやろう役を受け  
妻と旅老いた母見る如き脚

奈良市 大久保眞澄

陰口だけ聞こえる残念な耳だ  
エラそうにしないほんとに偉い人  
座ったらクセになる窓際の椅子  
診察券ポインント付けてほしくなる  
十連休鹿もせんべい食べ飽きる

奈良市 高橋敬子

夫の三食作る不満ももう言えず

ロボットと同じノルマで競わされ

家系自慢昔むかしに遡る

流行にすぐ燃えどれも未完成

いつかきつとと意気込んでいる若い夢

奈良市 辻内 げんえい

喜寿目指し伸びしろ僅か残ってる

椅子席があるかまず聞く店選び

燃えていたあの頃夢に今昼寝

通知表満面の笑み連れ帰る

一年生の孫より劣る議員さん

奈良市 山本昌代

おみそ汁今日も元気をくれました

ほろ苦い脱線ぎみの脳回路

張り合いが生まれ明るくなった眉

光り降る花から花へ蝶の旅

藤棚へ蜂の羽音が通せんぼ

奈良市 米田恭昌

十連休陛下は休む暇もなし

意外性秘めた息子の頼もしさ

一人でも待つ人がいて続く句座

絵本開けば亡祖母の声亡母の声

エピソードエロもちよつと背伸びする

生駒市 飛永 ぶりこ

令和です平和の神輿わっしょいと

ああ無情おせっかいは如何せん

若さって懐い回りを派手やかに

ええじゃないか舞台の踊り皆弾け

若葉風両手を天へ意欲乞う

香芝市 大内朝子

万緑のシャワー魂まで洗う

新元号わたし昭和のまま生きる

嬉しいなときめく心まだあった

善行を積んで天国への貯金

はや傘寿まだ傘寿だと柿若葉

橿原市 居谷 真理子

頁繰る逝きても兜太ここに在り

恋人の賢さがふと邪魔になる

つぎ逢える日を確かめて一人寝る

喜びの日の酒影と飲みなおす

縄飛びをまだ続けてるまだこの世

奈良県 安福和夫

長元坊見つけ喜寿の眼らんらんと

旅終えたつばめ巣作り超多忙

鳥たちの棲み分け見事学ぶべし

猛禽の鳶も決まった層を飛ぶ

魚狙うサギカモ川鶉争わぬ

奈良県 中堀 優

円らな目の奥に光ったものは何  
嫁はんに追ひ掛けられて逃げる夢  
過ぎし日の香りふんわり蘇る  
私って閻魔堂から来た忍者  
樹々はいい新しい芽をふき咲かす

奈良県 谷川 憲

有頂天平らな道に蹴躓く  
台風の傷痕癒し新芽吹く  
まるで自分史を見るよう内視鏡  
じたばたして貧乏神に居つかれる  
菜の花忌臯の城読み返す

奈良県 長谷川 崇 明

巡る四季日本令和も謳歌する  
花は葉に力令和に蓄えて  
石楠花の女人高野の風嬉し  
籐椅子に誰も座らぬ三回忌  
隠せない後ろ姿にみる本音

奈良県 渡 辺 富 子

まっさらな画布へ令和をどう描く  
五月晴れ一気に憂さを解き放す  
疑問符に体当りしている若さ  
花は散りおぼろの記憶消えました  
自分史の余白を埋める色捜す

和歌山市 上田 紀子

ひとつ覚え二つ忘れて長い坂  
不思議だね人の欠点よく見える  
気まぐれでリバーシブルの生き上手  
ライバルと想ってもらう内が華  
これからはマナーモードでゆったりと

和歌山市 喜田 准一

友からのテレもめつきり減って齡  
10連休知った生き方過ごし方  
死亡事故起こして気付くルール無視  
与那国の雨が気になる娘の旅行  
戦争が残した土地を守り抜く

和歌山市 坂部 紀久子

快眠に今日一日が満たされる  
連休の話ばかりを聞かされる  
快晴続き洗濯物はありません  
祝日が増えても何も変らない  
同じ話聞かされ紅茶かき回す

和歌山市 武本 碧

遺伝子のおもむくままに咲く親子  
それからは虚像ばかりが身をよぎる  
前置きが邪魔しすんなり出ぬ本音  
ネットから零れた噂火と燃える  
らんちゅうの誇り大海知らぬまま

和歌山市 土屋 起世子

同窓会暇な人等で盛り上がる  
聞き役の笑顔で和む四世代

黄昏る今言っておくありがとう

返納で歩けば靴も身も弾む

良い事が続き睡眠不足です

和歌山市 福井 菜摘

日日新た余生に挑むスクワット

シナリオのない人生だから羽搏ける

明日という白い頁に描く夢

躓きを悟りに変えて楽に生き

平凡な暮らしの中の浮き沈み

和歌山市 古久保 和子

紋白蝶の羽化はさながらメヌエツト

人間が湧いて出てくる交差点

着ぐるみの中はバイトのお兄さん

常温に戻すと他愛無い話

削除キー押さなくたってもの忘れ

和歌山市 堀 富美子

あやかった令和が楽しシヨッピンク

連休の出費は生き金と思う

襲われた燕の無念増すばかり

強がりも足腰の萎え悔しくて  
様ざまな老いをみつめる幸せ度

和歌山市 松原 寿子

匿名の善意が胸に沁みてくる  
本音わかっている直球は外せない

前進へ失せぬ根気を持ち続け

潮時を知りわきまえて席外す

便り緋き遠いドラマ抱き寄せる

岩出市 藤原 ほか

線と線交わるところに居るわたし

線引きをされてもきつと這い上がる

新しい花を咲かせて根を張ろう

エラーでも何度も壁をよじ上る

エラーしてぐんと成長できている

海南市 堂上 泰女

老鷲に兄の声聞く三回忌

ケセラセラの夫の後をみんな拭く

母の日に愛を凝縮してくれる

連休に毎日誉めにゆく牡丹

エンディングノートへ明かしてる<sup>(秘)</sup>

海南市 小谷 小雪

家持も令和の春に御満悦

うとうとするとこの世の音おほろ

きら星のような言葉を母遺す

ゆつたりとお好きなことをなさいませ  
輸入ものの炭でも旨いパーベキユー

紀の川市 山東 日出男

監視カメラにあつかんべえをする男

大化から幾つ元号言えますか

初節句村は総出の五月晴れ

生半可ではない万里の長城

人間を拒み続ける未開の地

橋本市 石田 隆彦

台所にひっそり妻の涙壺

山の道五感開いて春を掴む

絵の中に入る錯覚上高地

経済も政治も語る屋台酒

少子化を嘆く苦心の体育祭

鳥取市 池澤 大鯨

川柳仲間夫は未だ私誘わぬ

仲間入りするに土産など要らぬ

飲み仲間居なくてひとり晩酌す

山登り傘寿を過ぎてはずれてる

友達以上恋人未満つるんでいた

鳥取市 奥田 由美

悩まない娘が親のシワまた増やす

十連休の帰省で足りず残る孫

二千歩目からレッドカードを出した膝

鳴りやまぬ拍手が恐いミュージシャン

若い顔の写真はダメとパスポート

鳥取市 加藤 茶人

時差ボケと年には勝てぬ旅疲れ

膝枕ちよつと甘える耳掃除

照れ笑い時に誤解の種を蒔き

あわよくば楽観論が僕は好き

逆もまた真なり好きとまだ言えず

鳥取市 岸本 孝子

長男の嫁で宿屋の役もする

変ったことないかとまずは聞く主治医

昭和の演歌夢と希望に満ちていた

問われると歳はいつでも鯖をよむ

童心に返り塗り絵はボケ防止

鳥取市 倉益 一瑤

面相筆の細さに油断した指よ

墨を摩るただただ人が恋しくて

落款を押して私の顔になる

よく笑う人の隣で花疲れ

令和まで昭和の影を曳くなかれ

鳥取市 田中 天翔

灯を灯す石露の黄庭の隅

夏の川ランプ灯して亡夫と漁

ワクワクだはやぶさ2の玉手箱

盆花を庭で育てて両得だ

改元で今年リセット二回出来

鳥取市 棚田 大

教科書もデジタル化とは時代かな  
令和の書ながめて昭和浮かべてる  
箱庭を作ったところが懐かしい  
心するライバル意識いつまでも  
よく思やライバル俺を鍛えてる

鳥取市 谷口 回春子

二画目でやつと私も人になる  
遺句集が語りかけます枕元  
晩酌の相伴はいつも妻の愚痴  
笑顔が灯す一家団欒青い鳥  
お節介の虫がごそごそ顔を出す

鳥取市 永原 昌 鼓

新しい風が吹くかな令和の世  
程々に降って欲しいと祈る梅雨  
逆風を受けて出て来る底力  
鳥取も住めば都と人が寄る  
老い独りテレビにお守りしてもらう

鳥取市 中村 金 祥

さあ令和第三章の始まりだ  
令和初みんな新鮮にも見える  
やすらぎの筈が地獄になる油断  
正直な大臣だから憎めない  
人生はリセット出来ぬから悩む

鳥取市 平尾 菜 美  
ぬくもりが通うあなたと妥協する  
顔知らぬ父の遺影は年とらぬ

癒されている土は逝くまで手離せぬ  
裏方のバトルを知ってからの鬱  
許し乞う父の眉間がゆるみだす

鳥取市 福西 茶 子

貧乏はみじんも知らぬ赤い傘  
ピッタリの靴でジョークもボケもない  
湿布薬貼ってあなたに着いてきた  
身体は丈夫脳味噌やや不安  
紙おむつ無しで生きれば万歳だ

鳥取市 前田 楓 花

叩かれる時は静かに死んだふり  
楽しいが辛いに変わる新社員  
ライオンのままじゃいけない爪を切る  
成長の過程で起こるのは摩擦  
葛の蔓絡みつく日の胸さわぎ

鳥取市 山下 凱 柳

新元号に平和な御代を託す民  
少子化で令和の日本先憂う  
後期高齢有難くない節迎え  
自分守ることに汲々して生きる  
美辞麗句並べ付度裏目出る

鳥取市 吉田 孔美子

御先祖の植えた茶葉摘み飲んでます

良かったな結果同意に成った顔

有言実行同意確かなものとす

亡母さんに聞きたいし自慢もしたい

虫病野菜のバトル引受けた

鳥取市 吉田 弘子

かかりつけ医徒歩十分にある幸よ

クスリ飲むほどで咳き込むあ老化

三年日記去年の今日の鮮明さ

令和とや一足飛びに齡をとる

収穫のよろこび土へ感謝する

倉吉市 猪川 由美子

家族失ったが自死するわけにはいかぬし

紙幣の顔アレコレ学ぶ事多い

令和令和のお祭り騒ぎいかがかな

大型連休喜ぶばかりではないよ

雅子皇后御身大事に末長く

倉吉市 牧野 芳光

頑張らぬように生きてたらつまらない

種播いてからの時間が長すぎる

白旗を上げていのに見てくれぬ

雨の日は遙かな人に会いに行く

終止符を打つまで数多句読点

倉吉市 山中 康子

令和にどれ程生きるか九十三

杖持たず姿勢くずさず歩きます

川柳を追いかけてぎりぎりセーフ

朝夕のお経がるる唱えます

人並に動くことやけにくたびれる

米子市 後藤 宏之

猿芝居バレないうちにもうやめる

年とつて危ない話もうごめん

この波に身をまかせてもよさそうだ

なんとなくお呼びでないの空気する

サムライを引き継いでいる外国人

米子市 後藤 美恵子

人生の乗り換え駅の一呼吸

君偲び聴く海鳴りはレクイエム

クラス会老いた膚にも化粧のる

兎の手品種見え見えに喝采す

金に動く心待ってる落し穴

米子市 竹村 紀の治

住む家も顔も解って名が出ない

休めない人が支える十連休

連休に神経痛も気を遣い

老人よ人の会話を割り込むな

令和へと引摺ってゆく血糖値

米子市 中原 章子

自販機の温いのみもの減ってきた

自信ある人ほど穴に落ちてゆく

自分だけの踊るよろこび生き甲斐に

忙しい時間を割いて愚痴を聞く

過ちを笑顔で許すゆとりもつ

米子市 成田 雨奇

帰省してまず自転車の子は磨く

慰める言葉を練って帰り待つ

八十歳お悔み欄に相応しい

植えてさえおけば実がなるプチトマト

先輩でなくてもさんをつけて呼ぶ

米子市 吉田 陽子

ハイヒール無縁どこへもスニーカー

老斑ができた自慢の掌になった

父偲ぶコケシも歳を滲ませる

認知症の義兄が私の名を呼んだ

前向きに生きる桜が知っている

松江市 藤井 寿代

ハートには1000人の友入れます

好きな事して大胆に逝くつもり

日記には書けない悩み増えていく

ほつれた縁を繕った木綿糸

カラスカア オレオレ詐欺を嘲笑う

松江市 松本 知恵子

見かけない親子で泳ぐ鯉のぼり

隣から長唄ゆるり連休日

外面がとてもし猫飼っている

連休は相も変わらず草を取る

インフルエンザノックアウトの古稀の坂

松江市 松本文子

おーいお茶はーいと自分で入れる

おてんと様が助けてくれる見てくれる

リアルに生きた証 骨は白かった

呼べば答えた行方不明の餅

青葉の中で深呼吸してみどり色

出雲市 伊藤 玲峰

歯刷子が五本並んでいる平和

思いきり遊んでたわいなく眠る

初参り小さな数珠と式章と

小さな手に数珠もち南無南無と称え

令和元年出雲大社は大賑わい

出雲市 岸 桂子

ありのまま生きると温い風に会う

回覧板最初一晚泊めてやる

刻まれた句碑に癖字が生きている

晩学の翼まだまだ畳めない

ジャンケンポンこの簡単なこの非情

雲南市 菅田 かつ子  
氣をつけて行けよと祖母の涙声

しゃきしゃきとこなせた頃をふと思う

仕事とはいえど白衣の優しさよ

病床へ人の情けが身にしみる

また明日来るよの声にさみしそう

島根県 伊藤 寿美

連綿と皇位が続く二重橋

「極上の孤独」を読んで独りの夜

何がめでたい米寿の舌は甘え下手

竹に花咲いて憲法改正論

働き方改革昭和遠くなる

鳥取県 斉尾 くにこ

賞賛も批判もネコはネコでいる

ごもつともですと微笑む五月晴れ

手短で安価な幸をはしごする

緑陰に二つの椅子とマグカップ

きみと居るときの私がいいのです

鳥取県 竹信 照彦

鯉二匹女雛を二つ授かった

授かった鯉も女雛も倍に増え

池跳んで夕陽を浴びて光る鯉

鯉のほり泳ぐ家にはある未来

明日へとつなく我が家の鯉と雛

鳥取県 細田 裕花  
月曜日朝ドラを見て始動する

歯科通いやれやれ先が見えて来た

土曜日はゆっくり明けてモーニング

日曜日整理整頓日が暮れる

十連休親子のキズナ確かめる

鳥取県 山下 節子

初対面の上話聞きたがる

一生懸命寿命の止まるその日まで

ボランティア自分で進むのが一番

ボランティアするかどうかと休暇とる

きつかけは傘さしかけただけの事

岡山市 工藤 千代子

行程のほどのあたりで転けました

「ヨッコイショ」となりで夫の「ドッコイショ」

だとしても妥協はしないフライパン

着メロが響くデバ地下のトイレ

ふる里に時計を止めた場所がある

岡山市 永見 心咲

付録からも虹立つ様に編む本誌

付度が匂う乾いた喉仏

優しさを本物にする雨後の空

さあどうぞ三百六十度の風

ひらがなで通れば楽に抜ける穴

岡山市 前田 恵美子

昭和の子田植え稲刈り手伝った

昭和には野山を走る子等の声

昭和にはテレビ見に来た近所の子

平成は娘嫁がせ孫の世話

令和にもどうにかなると笑う婆

笹岡市 藤井 智史

失恋のメンテナンスに五日間

失恋の度に魔法の水を呑む

お相手の気持ち顔色にてわかる

婚活の上から目線突き刺さる

両翼を広げてポジティブに生きる

岡山市 高岡 茂子

山頂で大きな声でさけぶ夢

山彦が待っているのに膝が拒否

駄菓子買い昭和に戻るバス旅行

帰郷の子に蕨筍茹を炊く

孫台風空っぽになる冷蔵庫

岡山市 田中 恵

清流に胸の重石を捨てて来る

喧嘩して荷物まとめた日は臍

悩み事あったら言えという鏡

滝登る夢を描いている稚鯉

梅茶漬ほどの幸せ抱いている

岡山市 藤澤 照代

喉元を過ぎればすぐに次が来る

エンジン音煮物温めなおす母

ゴミ出しに一櫛と紅さして行く

娘が作るまじいとやわらず食べる夫

千枚の月映す棚田は静か

岡山市 山縣 のぶ子

お出かけを飾り過ぎたか問う鏡

美容院魔法の鏡にはめられる

隅ずみを見ろとルンバが叱られる

雑草に届かぬ悲鳴上げている

難問を解いた快感バネとなる

竹原市 石原 淑子

令和元年お母さんの詩嬉しくて

小農の楽しさ未来夫の汗

感謝感謝背を押されますアンソロジー

風みどりカープよ景気も上向きに

被災地にやとと田植機音高く

竹原市 岩本 笑子

春うらら花の祭のまん中に

負けるのは嫌です治療中の指

イヤリング娘とお出かけの私

乳ガンは卒業しましたおめでとう

ガンを眠らせもう少し生きようと

三原市 鴨田昭紀

弱音など吐かずに老いと向かい合う

足の位置よく確かめる古希の坂

ゆつくりと動く時代の音を聞く

レットテルを貼ってリアルにする模造

生かされた日々丁寧に折り畳む

岩国市 上村夢香

令和初日いつものように歯を磨く

今朝もまた番いの鴨はすいすいと

本当の自分みつめるみつをの詩

母の日に大勝というプレゼント

イノシシのおこぼれもらう筈の

宇部市 平田実男

迷惑をかけぬ長生きならしたい

停電が星をきれいにしてくれる

犬掻きで米寿私の人生譜

天災にして人災が葬られ

赤字国債が重たい日本丸

下松市 有海静枝

母に似る頑固短い睫毛まで

記憶消し欲消し苦悩消す眠り

最後の息は安らかに安らかに

母を焼く焔のスイッチが入る

西方へ旅立ったのか染む夕陽

防府市 坂本加代

軸足はぶれない里に置いている

初対面それは運命たいせつに

ニンゲンの芯には父母の教えあり

お守りに愛の証を入れてある

肩の荷を下ろしてたんぼの綿毛

(前月分) 和歌山市 喜田准一

掛け持ちの仕事で今日を食いつなぐ

古日記幼き夢が甦える

叱られた先生ほどになつかしい

躍動の女の肌艶がある

今ここで辞めればきみも消え失せる

### 第50回 奈良新聞川柳大会

日会	時	7月20日(土)	10時受付開始
会場	奈良県文化会館 小ホール(奈良市登大路町)		
宿題	バス(市内循環・他 県庁前下車北へ3分)		
	(席題なし)		
	「ニュース川柳」	吉富ひろし	選選選
	「ま ず い」	居谷真理子	選選選
	「わ く わ く」	大楠 紀子	選選選
	「指 指」	松本 柁子	選選選
	「ス リ ル」	米田 恭昌	選選選
	「開 う」	阪本 高士	選選選
	「味 方」	山田 順啓	選選選
	「お か げ」	田中 新一	選選選
会費	各題 2句	出句 締切	11時30分
出席申込み	3000円 (昼食・発表誌呈)		
	7月10日まで 下記へ		
	〒630-8686	奈良市法華寺町2番地4	
	奈良新聞社	企画部 営業課	
	「川柳大会事務局」係		
	TEL0742-32-2115	FAX0742-32-2774	
欠席投句	1000円(無記名の小為替)同封		
	して下記へ(発表誌呈)		
	〒639-1101		
	大和郡山口市下三橋町323-61		
	阪口 幸若 宛		
締切	7月10日(水) 消印有効		
主催	奈良新聞社		

# 川柳塔の

## 川柳讚歌

(174)

上方芸能評論家 木津川 計

ぶらんこの揺れに任せる花の午後

山岡 富美子

宮本輝の『花の降る午後』は、「異国情緒にあふれる街神戸」を舞台にした恋愛小説だった。神戸に花が降るのなら京都には何が降るのかを問うと『雪の降る午後』が似つかわしかろう。ことにうすらと雪化粧の金閣寺がよい。すると大阪には何が降るのか。遺憾ながら、『銭の降る午後』という他はない。どの都市にも町にも降ってくるものがある。愛情は降る星の如く、そんな街で富美子さんは幸せのぶらんこに身を任せたに違いない。

故郷の山よ少年老いました

平賀 国和

男児志を立て郷関を出す。学若し成らずんば死すとも帰らず。明治から昭和戦前の男たちにとって故郷は大いなるプレッシャーだった。なにしろ「志をはたして、いつの日にか帰らん」父祖伝来の地であった。その故郷へ

国和さんは帰ってきたのだ。功成り名を遂げ錦を飾ったかどうかは問うまい。たとえどういふ身にも「ふるさとの山に向かいて言うことなしふるさと」の山はありがたきかな（啄木）。やはり苦難の幾星霜、国和さんの涙です。

こぶし満開コーヒーカップ買いました

吉田 陽子

戯れに背負われ、はなれ警女おりんは歩いた。「あ、行き過ぎた」に手引き男は立ち止まった。おりんが言う。「もとの道を右手さ入ってしばらく行くと、こぶしの花あいつぱい咲いている春の小径さ出るんであんです。盲目のおりんにも見えたこぶしの小径である。八つの年、足を痛め、姐さんの警女に負われて歩いた記憶だった。おりんのうれしさを察して陽子さんはコーヒーカップを買った、と思いたい。幸せな春のあたたかい一日でした。

出世する人もいるだろ入社式

板山 まみ子

あ、このクンは生涯のヒラだろうな、と思うせみ生が毎年いた。けつして前に出ず、友達の下に隠れてひっそり。羞ずかしそうに笑い、からだも小さい。レポートは平均点で、指名すると俯き、小声で答える。こんなクンが私のゼミを選んでくれた。卒業式である。がんばって生きていけよ、格別の思いで送り

出す。そんな一人に鍼灸師に転向したクンがいた。涙が出そうになった。「はやってます」の手紙に、ホットして彼のため祝杯をあげた。

ひらがなで唄ってほしい愛の歌

榎本 宏子

「漢字はだまっている／ひらがなはだまっていない／ひらがなはしとやかに囁きかける／いろはにほへとちりぬるを」。谷川俊太郎の詩である。だから愛の歌はひらがながふさわしい。都市にも相応じた語感がある。京都は「はひふへほ」、神戸は「パビブペボ」、大阪は黙っていず、「ばびぶべほ」という違いだ。「あなたの燃ゆる手で／あたしを抱きしめて」、越路吹雪の絶唱でした。宏子さん、いつまでもお二人で幸せにお暮しください。

払う気がないのに財布ださんとき

寺本 実

新国劇の名作「一本刀土俵入」である。江戸へ向かう一文無しの駒形茂兵衛は、見ず知らずの酌婦・お蔭から財布ぐるみ金を貰った。それでは足りなからうと櫛・簪まで与えた。同情したお蔭の心意気である。だから芝居の名舞台になった。片や、思わせぶりに財布を出すだけのケチで、しみつたれた男である。芝居には絶対ならない。実さん、貴方の気持ちがよくわかります。金払いはきれいでこそ。

# 自選集

小島蘭幸

納骨の母を待つたのか亡父よ  
納骨が済むまで天も耐えていた  
七七日やさしい雨になりました  
母の日の亡母に朝顔植えておく  
宣誓は孫で運動会終る

西出楓楽

納豆を混ぜすぎている物思い  
猜疑心持たない人に負けている  
同い年ただそれだけで口軽し  
まっすぐに生きる素描を子に遺す  
十一月にひいばあちゃんと呼ばれる身

仁部四郎

一円が銀貨であった頃がある  
円タクに乗ったと祖父の上京記  
円本で「小僧の神様」読みました  
病院のレジで一円にない出番  
病院の売店一円モノを言い

前 たもつ

米寿来て普通に生きるコツ覚え  
閉店しても旗日忘れぬ律義  
ペランダへ雀覗きに来てくれる  
好奇心に引かれ人間続けます  
恵まれて血液検査みんな丸

政岡 日枝子

私の頭の中を見せられる  
脳味噌はどこにあるかと眼をみはる  
わからないままに頷いてはいるが  
本当のことを娘が聞いている  
最後まで医者は脳味噌には触れず

三宅 保州

ごめんなさいあなたの名前知りません  
一流のホテルに泊り寝つかれず  
選択肢多すぎるのも迷います  
それにしても煙ばかりが出る噂  
香典は故人の遺志でもらいます

福士 慕情

我が津軽さくらの彩で染まる春  
満開へようこそ桜お出迎え  
浄土とはかくもありなん花吹雪  
花びらの絨毯かぜに舞い上がる  
平成に別れを告げる花筏

宮 西 弥 生  
シヤネル匂う女ひとり住む空き家

一滴の水に詩あり回復期  
青によし奈良の草花みなうらら  
無人駅の梢で詩人になるわたし  
パン食で大和魂思い出す

村 上 玄 也

柳友の訃続き感じて無念  
寂しさは柳友ふたり共に逝き  
懐かしいアルパム故人ばかり増え  
知り合いが次々黄泉へ移住する  
八十路坂ゴール近いと感じだす

森 山 盛 桜

亥年など忘れ去られている令和  
最近の心模様は無彩色  
あなたは粘土本心が見抜けない  
沢山の触手が無駄に伸びている  
戦った証に包帯を見せる

八 木 千 代

腐葉土  
羽根すこし乾く同居のせいかしら  
子には子のリズムわたくしにもリズム  
深海魚になろう独りの木の机  
年寄りと暮せば子でも重かろう  
腐葉土になります それからの椿

山 本 希 久 子

新しい芸居はじまる令和元年  
生き方は変らぬ元号変つても  
想い出の箱小さいが深い底  
榎山へ行く足腰を鍛えねば  
とりあえず描こう今日の絵あしたの絵

板 尾 岳 人

万葉集どこを読んでも万葉集  
流鏑馬の弓矢で父を撃つなかれ  
むこうでは与謝野晶子に逢うつもり  
一服一生仲良く酒を呑み給え  
いろはにほへとちりぬるをわかたけと

川 上 大 輪

味噌汁に入れたら美味しそうな苦  
思考停止十連休の後遺症  
触つたらすぐに纏れる赤い糸  
場の空気読めぬドミノが立っている  
令和ですちよつと一服しませんか

木 本 朱 夏

風みどりひらりと渡る交差点  
フリルひらひら今日の主役はわたしです  
振り向けば風ふりむけば影法師  
カノン聴く泡立つものを鎮めんと  
パプリカの赤が勇気を出せと言う





## 『鶴の瞑想』

永田俊子

赤い待針でとめておく女のうわさ  
よその時計が鳴っているよその幸せ  
わがままを通したあとの白い風  
幸せを逃さぬように窓をしめ  
愛の琴線鳴らして去った憎い風  
美しい嘘にストロー屈折し  
日傘開いてから女隙見せず  
虹消えてからの女はよく眠る  
一心不乱は美しい水車  
菊人形花の命を立ちつくす  
足裏に秋を感じる病みあがり  
時が描く風紋過去は美しい  
白蓮の寂にもひびくミサの鐘  
うるのおくやま越えて来ました座りだこ  
さびしさを虫袋にためている

(昭和63年8月吉日発行)

## 温故知新

小出智子川柳集『落の臺』から

一緒には死ねない夫婦茶碗かな  
道連れが必ず傘を持っている  
正直者のさみしさを抱いて寝る  
葉ざくらや女同士がいつそよし  
おばあちゃんになるのを急ぐことはない  
諍うた夜も枕が二つある  
言いたいことあるまま夫婦三日過ぎ  
他人ほどに母にやさしきこと言えず  
母危篤髪のもつれが梳ききれず  
遠い記憶の母によく似た手のかたち  
やさしい夫になってしまった栗のイガ  
八百屋には良妻賢母で通る顔  
砂糖壺の中で惚ぼけている私  
食欲がないとは言うたことがなし  
蜜柑の安いこともうれいもののうち  
四月馬鹿山の雪ならまだ溶けぬ  
故里へ踵の高い靴履いて  
秋が来て沼は深みを増すばかり

水煙抄

西出楓楽選

今治市 永井松柏

酸欠の街は昭和の夢の跡  
男の嘘に相槌を打つ江戸切子  
酸漿は昭和のかたちとして熟れる  
戦争を語る昭和の重い口

美しいことばに添えて紅い薔薇  
美しい星のまたたき夜明け前  
美しい生き方上手褒め上手

三木市 山口ヨシエ

平成の惨禍が静止画で残る  
平成から令和へ始発バスに乗る

横浜市 加藤佳子

マンネリに風穴明ける好奇心  
鯉のぼり令和の風はおいしいか  
返納後未練が残る免許証  
グレイヘア曝して生きる五月晴

千曲川初めて渡るときめいて  
八号線アルプス仰ぐ肅肅と  
軽井沢若者の群れ走り去る  
地図を手に山の名高さ知り見仰ぐ  
無言館時間絶たれた深い闇  
柔らかくゆったり生きる第二章

奈良市 尾畑なを江

連合いに笑い袋をプレゼント  
お互いに優しい言葉欲しい風

尾道市 日谷寛

美しい石風雪を刻んでる  
美しい水平線にヨットの帆  
美しい鏡だこころ丸映し

朝の茶がことさら旨いやル気出る  
想い出がから廻りする手紙束  
とりあえず今すべきことから始め  
吠えたいがプライドもあり止めておく  
当てになど出来ぬ人から頼みごと  
主治医から高血圧の悩み聞く

古里は草が一番元氣者

ふるさとは蟻もまどろむ昼下がりに

田舎道通りすがりの長談義

風日差しいずとも同じ田や畑

勤勉の上げ底ばれた十連休

職ないが十連休はあれこれと

白寿までサブプリメントで頑張るよ

もう変る昭和も遠く令和来た

モフモフ君人のご機嫌知りません

地獄への往復切符願いたい

優しさに生まれすぎて運逃げた

芋粥の戦後生き延び卒寿です

親子孫付かず離れずのほほんと

定位置にニコリともせず二人お茶

苦も楽も老いに向かつてアツちゅうま

妻の愚痴眠りを誘う子守歌

過疎じゃない客ただ一人路線バス

孫の顔男を泣かす予感する

ランドセル朝の挨拶いい笑顔

ブランドの靴に嫌われ水ぶくれ

連休のしっぺ返しに四苦八苦

高知市 三谷 松太郎

枚方市 谷 英也

堺市 楠井 輝子

鳥取市 上山 一平

内緒ごと寝言がばれて大目玉  
獅子が舞う横笛胸に沁みわたる  
いい季節プシュツ爽やか缶ビール

八尾市 田邊 浩三

高齢者犬に引かれて散歩する  
初曾孫名付けは固くお断り  
偏食をサブプリで済ます独り者  
まだ続くカッププラーメン妻旅行  
信じれぬ中高年の引きこもり  
投票日老人の列若者は

生駒市 児玉 規雄

髪の毛を切つて気持は五月晴れ  
街中に泳ぐ場所無い鯉幟  
平成の格差社会という遺産  
墓参りまだ逝けないと告げに行く  
米中の余波で揺れてる日本丸  
夢洲のカジノで悪夢見ぬ様に

大阪市 宮本 千恵子

のんびり生きや窓辺で笑うネギ坊主  
グレイヘア美人だったら似合います  
足遅いので赤から渡るおばあさん  
梅雨入りが待ち遠しくてジャカランダ  
冬物まだか今日も押し入れ叫んでる  
半額タイム馴染みの顔が続々と

沖繩県 あら さくら

気兼ねなく話せる友と時忘れ  
世替りに髪型変えて闊歩する  
ニコニコと世渡り上手今を生き  
恋恋と若さを保つ姥桜  
出直しがきいて明日へと望みわく

沖繩県  
下地香子  
(下地香代子改め)

今日も雨洗濯物も嘆いてる  
夜明け前澄んだ空気ですトレッチ  
一生の頼み何度も使い分け  
プライドも時には捨ててありのまま  
お見合いはした事ないがしてみたい

札幌市 斉藤宏子

背を伸ばし太陽浴びる北の春  
生きぬいて土の香りを無事に浴び  
ふんわりと風も軽々ピンク色  
寒さ越え生命の炎燃やす木々  
水芭蕉貴婦人のごと白々と

黒石市 北山まみどり

ジャンパーとマイクと白い手袋と  
飛び出した本音は風に乗ったまま  
虫歯でもよろしいかしらウグイス嬢  
衝撃を和らげるため低姿勢  
思うほど他人は意識していない

富士見市 中島通則

倦怠期乗り越え悟る老いの道  
プライドも断捨離すれば身が軽い  
「加齢です」ホッとしたけど割り切れず  
思い出は悲喜こもごもの走馬灯  
青春の答え合わせのクラス会

横浜市 川島良子

肩書を脱いで問われる人間性  
考えてみまはすNOのサインだな  
「たれば」の話女子会盛り上がる  
小麦色に焼いた昭和の枯れすすき  
肩書がボクを支えていた時間

神奈川県 小田幸子

目ざめれば枕並べて犬眠る  
ゆっくりと歩く足元犬つづく  
知らないでいるのもきつと思いやり  
年齢がいくほど寡黙人生論  
句をひねる叔母を想って久々に

名古屋市 山本三樹夫

天空の宝石掴む露天風呂  
横断に禍根残した車事故  
信号の安全神話消えかかる  
座っても立っても答えただひとつ  
小手先の政治に夢が託せない

豊橋市 小松 くみ子

ブランコがゆれると遠い過去が見え  
塗り香水試しヒンシユクバスツアー  
診察へ大雨の日が目玉です

鉛筆をツンと尖らせ刻を待つ  
うれしいとユラユラゆれるイヤリング

豊橋市 西郷 紀美代

また茄子か野菜ぎらいの人と居る  
自宅葬私の机受付だ

落としてもベットボトルが壊れない  
励まされ恩師の色紙克己の字

京都府 北野 クニオ

踏みつけた靴の踵がひねくれる  
鯛釣草君子蘭との競い咲き

過去のこと振り返らずに前を向く  
柏餅食えば昭和の味がする

大阪市 柴本 ばつは

待つ身には時の経つのが遅過ぎる  
十連休見せた論吉の底力

十連休怖くてジッと家ごもり  
川風に鯉の乱舞だ村おこし

作業服汚した頃は華だった  
白髪と皺もう隠さないほつとこう  
花冷えがひしひし解る歳になる

大阪市 樋口 眞

葛蒲湯で令和元年息災に  
妻律儀子どもの日とてかしわ餅

習俗と情緒を妻は大事がり  
顔見えぬ通販やはり馴染めない

大阪市 降幡 弘美

次々と友逝き募る無常観  
園児らのアイドルになるダンゴ虫

いい夢を見て気持ちいい朝迎え  
楽しんだ後に待つてるお片づけ

大阪市 松田 聰

寝ころんで木陰から見る青い空  
亡き祖母と会話しながら墓掃除

付度を悪い意味だけ使つてる  
事件事故ひと月たてば忘れられ

大阪市 森 廣子

センバツと雨の外苑だぶる父  
十連休非正規にまで気をかけぬ

十連休被災地で汗逞しい  
神様に恩返しする鶴を折る

陽炎に人も明日も溶けて行く  
泣き顔で見るとぐんにやりダリの月  
騙し絵の中に隠れているうつつ  
疑って針の筵を行き来する

大阪市 横山里子

吹田市 岩口のぞみ

見てしあわせ食べて幸せさくらんぼ  
バンクシー謎が謎呼び値も上がり

清貧と言わざるを得ん年金者

ほっといてほうつと生きて何故悪い

行方不明の結婚指輪 やばい

貝塚市 吉道 あかね

鮮やかな五月みどりの声がする

薫風に抹茶いただく月照寺

私を洗ってくれる若葉風

満開の桜待つてた五稜郭

老いもいい見えないものが見えてくる

門真市 坂本星雨

チューリップの笑顔へ揺れるランドセル

重咲くトツプスターの凜と咲く

女子会のような躑躅の花盛り

菖蒲湯につかり百歳まで生きる

紫陽花は不服だらうな花言葉

河内長野市 原熊 知津子

句の中へ潜り込んで息を吐く

腐葉土となった言葉が降りつもる

コップから零れる声にならぬ声

相性の悪い言葉を採みほぐす

背なを押す五月の風があたたかい

五月病そりやなるでしょう十連休  
十連休家事も一緒に休ませて  
受験終えゲーム三味大学生

歳重ね整骨院がマイサロン

市長から知事にならわってまぎらわしい

90歳まで生きたら足りぬ預金残

コーヒーにも向いていますと和菓子店  
首の皺私の歳を隠せない  
固定でんわケータイ探すためにある  
日本晴れ空が自慢をしています

豊中市 木藤 こみつ

年の功腹芸ばかりうまくなり

病院に集まる仲間みな達者

今日あたり竹の子くると糠を買う

目力にひかれて鯛のアラを買う

ぼろぼろにされても通す俺の意地

ついで笑う隣も笑う皆笑う

ときめきが明日の私連れてくる

一三七 年忌済ませた老い独り

根も帯も勿体なくて味噌汁に

この水を砂漠の子等に飲ませたい

寝屋川市 川本信子

寝屋川市 川本信子

寝屋川市 川本信子

寝屋川市 川本信子

寝屋川市 川本信子

寝屋川市 川本信子

羽曳野市 磯本洋一

年金を待つて外食孫連れる

プロ野球助っ人ばかり勝負する

春の風風情を生んで花筏

食材は海外なれど和食宴

十連休祖母と母言う休みくれ

代替り暮し彩り変化なし

蘇る万葉集と憲法と

青信号前後左右を見て進む

十連休僕は一年中休み

汗かけば稔りが楽し自家菜園

大阪府 奥野健一郎

ごめんねが言えぬやつかいなプライド

言い過ぎて朝一番に詫びを入れ

日本語も拙い小五から英語

手作りバイで鯛を釣りに来る娘

意のままに事が運ばれ怖くなる

大阪府 高木道子

助手席に娘のカーナビは眠らせん

令和の世に程度の幸願うのみ

待ち合いでおしゃべりが舞う病み仲間

今年また同じ場所の路を摘む

散る花に願いを託す樹木葬

神戸市 斎藤隆浩

パトカー見るとブレーキ踏む癖がある

晩学も妻の応援やる気です

担当の当たり外れを嘆く母

ごめんねにけれどが付いてまた揉める

売った後株価値ないと決めている

神戸市 敏森廣光

パソコンを開くと友の声がする

紫陽花に風情を添えるカタツムリ

五月晴れ鯉の口にも青い空

妻と僕主役を競う孫の前

ゆつくりと急がず行こう令和の世

尼崎市 清水久美子

R慣れせずに日と書く年号

同郷で違う令和のアクセント

花粉症治った5月15日

ユニークな人が心底笑わせる

別腹が肥満の元になっている

尼崎市 山田厚江

段々畑草にまみれて泣いている

亡くなってじんわり気づく父の愛

一休み少し動いて二休み

二番咲き小さくなくても薔薇は薔薇

どうしようと思つた時は空を見る

伊丹市 延寿庵 野 鶴

新しい流れ令和に溶けて行く  
割烹着つけるとシェフの顔になる  
歯車のひとつで生きる二度の職  
引き際の美学を知った花筏  
二の足を踏んでいつでも虎穴掘り

伊丹市 岡 村 風 琴

木洩れ陽へ葉桜ひかるスニーカー  
ぶつかって始めて知った心意気  
疑問符が解けて足元リズムカ  
青い鳥追ってひとひを森の中  
脳味噌の贅で生きてる隠れん坊

小野市 田 中 辰 夫

帳尻が合わずジタバタ嘘重ね  
ペコペコの飯盒悲し記念館  
十連休仕事恋しく過ごす日  
仏にも夜叉にもなれる妻とい  
先客の残り香甘くATM

三田市 中 山 昭 美

三猿に成れぬ自分がいとおしい  
辞めてやる夢なら言える宮仕え  
五線譜を飛び出す君のラブソング  
欲の種季節選ばず発芽する  
年ですと断り言える年になる

三田市 松 本 ゆかり

ふらこはブランコの事花曇り  
花水木やっとな番とあちこちに  
連休は来ない夕刊待っている  
朗らかで爽やかな人ムードなし  
若者の自転車燕とぶように

宝塚市 太 田 としお

それなりの顔になります喜寿米寿  
あの人もまたあの人も仏さま  
怒っても泣いても腹は減ってくる  
心配だ親の勤めは果たせたか  
言いたいこと言える夫婦だありがたい

宝塚市 岸 田 万 彩

絵文字での謝罪かえって腹が立つ  
十パーは序の口らしい消費税  
残業代もらつてるかい朝の月  
日本人絶滅危惧種になる予感  
パワフルに生きるのに要る絵空事

奈良市 加 藤 江 里 子

Tシャツの若者が行く遍路道  
母のこと三和土に立てば思い出す  
五七五で吐露してやがて立ち直る  
さざ波が起きて一人の友が去る  
十連休やっとな消化しほっとする

和歌山市 北原 昭枝

たんぼぼが咲いてあの日がそこにある  
てんとう虫くつついてくるいちご狩り

若い日もあったと鏡裏ばなし

真夜中の蛇口の雫うたつてる

ごめんねと無理した膝を撫でて暮れ

和歌山市 定松 宏枝

節約のできる範囲を考える

距離感を持つてながーいお付合

母の日の妻に料理を作る夫

ああそうだとポスト空っぽ休刊日

ネタ切れの十連休を子と過ごす

和歌山市 西川 千鶴

弁解が長く豆腐も煮崩れる

妖艶なまでに喪服の似合う人

端役でもキラリ輝き場を縮める

平成よ僕は貴方を忘れない

伸び切ったゴムに未だ有る自尊心

和歌山市 福島 一雄

新緑の香り花粉に嫉妬され

新しい宝ジェンヌに夢かける

五月病メール退社の若い人

ともかくも友と飲食至福時  
愛してゐるその一言で半世紀

和歌山市 まつもともとこ

タイミング合ったら逢おう会いたいネ  
紫になった日本のリトマス紙

ぶつかって丸くなるヒト科のオトコ

重力のままに私と母の顔

責任を持つてあなたを好きになる

岩出市 村中 悦男

不思議顔してわけを知ってる聞き上手

悩みはよそう就寝前に書く日記

衣替え整理ダンスが広くなり

嫁と来て迷うも楽し花の苗

おさがりの神酒にもらう安らかさ

鳥取市 大前 安子

げんげ田の風に合わせる万歩計

駆け抜けた昭和平成嘘はない

父母の癖一つ二つと発芽する

母の花咲きましたよと窓を開け  
鶴を折る再生紙だが腰がある

鳥取市 副井 ゆたか

草駄天が裸足のアベベ想起させ

集合写真ちゃっかり爺が真ん中に

古いテニス魂込めてそりり打つ

酷暑日に庭木が叫ぶヘルプミー  
袋綴じこっそり開ける期待感

倉吉市 大羽雄大

ちよつと向いたお鼻の愛らしさ  
チラシ文字踊っています特売日  
指丸め今晚どうだ飲み仲間  
五輪から万博目指すスクワット  
取り敢えず十年日記買う令和

倉吉市 堀 かずこ

身にあまるうれしい事がありました  
軽口をおだてに乗って恥をかき  
楽をしてつかんだ夢は泡と消え  
うっかりと甘いマスクにだまされた  
年寄りと言われたくない見栄を張る

米子市 池田美穂

三食は連休中も休みなく  
お布施とは言いつつちゃんとする相場  
インフルで平成最後締めくくる  
たけのこの味付けだけは譲れない  
見納めの論吉の顔を暫し観る

米子市 野川宣子

生き方をザワザワ揺らす消費税  
コップ酒胸のざわざわ宥めさせ  
不自由なく育った子等のかい靴  
躓いたのは靴のせいでは無いらしい  
道草もいつしか死語に登下校

鳥取県 門村幸子

横着をすれば退化をする体  
待ち合わせ少し早めに待つ流儀  
ざっくりと七〇歳の地図を書く  
お誘いに応えられない億劫さ  
ゆったりを味わいながら老いの余暇

鳥取県 橋本 整

仏様こんなところにヘソクリが  
語る友いるから人生面白い  
高齢の心耕す五七五  
遠くなる昭和を思う偲び酒  
令和という時代を祝い独り酒

瀬戸内市 宮宅比佐恵

ご即位を祝しわが家も国旗だす  
新しい地球探して令和ゆく  
後悔も傷も肥やしと今生きる  
原点にもどうろう私まだ蕾  
川柳に生きてまだまだ若くいる

岡山県 岡本余光

コーヒーで終える一日プチ果報  
晩学を趣味と言うには気が引ける  
幸せを探した徒勞恥じている  
辞世の句考えるのは早過ぎる  
新皇后輝きそうな予感する

竹原市 若年幸子

新緑に負けずフレッシュな新社員  
花粉という魔物抱いてる杉木立  
逆縁を包んで悲し深緑  
呆け防止娘とドライブの花巡り  
納骨もアパートとなる墓終い

広島市 田桑恵子

休み明けニュースが映す大欠伸  
沈黙のドームの下で鳩遊ぶ  
ゾロゾロとカープロードの赤い列  
幸せが漂うパンの焼き上がり  
蛇ニヨロリ悲鳴が上がる春の山

広島市 松尾信彦

転た寝の父の軀はいい和音  
一人居に心にしみる電子音  
着膨れて体型隠す冬が好き  
ハンドルを替えて我が道バイコロジー  
父さんを多機能にして母使い

山口市 青木隆子

老いらくの恋もやつぱり辛い恋  
母置いて嫁には行けぬこの歳で  
自分置き母はお嫁に行けと言う  
触ったら火傷しそうな彼の熱  
心さえ通じていればそれでいい

山口市 中前幸子

自分流に生きてブレイキ踏み続け  
立ち止まる風核心に触れてくる  
草笛を吹いてふる里近くする  
風みどり鳴らないラッパ吹き続け  
立ち止まってごらん風が青いから

松山市 郷田みや

俯いたままじゃいけない五月晴れ  
楽だから全部ひとりですてしまふ  
反省会いつも三人寄つてする  
校庭に埋めたカプセルからドラマ  
約束をしたことがないこぼれ種

大洲市 花岡順子

居てほしい時にはいない変な人  
良く似てる自画像だから気に入らぬ  
暇だから口を出したい楽隠居  
理想とは違う終着駅に居る  
洗いざらしの木綿で生きる人生さ

佐賀県 真島久美子

俯いてばかりの恋のあからさま  
極論を持つているから動けない  
喋りたい秘密こねこね紙粘土  
本능が求めるシヨッキンクピンク  
底無しの沼に足先だけ入れる

福岡県 本田 さくら

すんなりの竹も昔はタケノコだ  
「嵐」五人四歳孫に教えられ  
夕やけこやけ遠いあのひと今どこに  
三ヶ月孫の未来が楽しみだ

唐津市 岩崎 實

訪問看護研修生を伴につれ  
平和より戦争好む人がいる  
苗植えて畦で異国の研修生  
ロケット軍創設中国軍勢力

宮崎県 黒木 栄子

やきとりの匂いの良さに客の列  
それなりの事情のあつて娘の未婚  
カップ麺すすって済ます夫の留守  
キーマンのなかなか来ない会議室

沖縄県 禱 モモト

苦勞なきすいすい泳ぐ池の鯉  
世話好きは頼られ頼ること出来ぬ  
定年後妻はストレス夫源病  
十本の指それぞれにプライドが

沖縄県 宮 すみれ

綿のシャツ雨のシャワーにちぢこまる  
嬉しい日雲の切れ間にVサイン  
庭のユリつばみのままに客を待つ  
立ち話着信音に救われる

五所川原市 むらの ひとり

春を待つ旅の企画でもう雲雀  
日本中ブルーシートが痛い初夏  
温泉でふやけた二人テレビ見る  
母さんやわしらも直ぐに一人旅

弘前市 高森 一彦

鳩がとぶ広い青空手をつなぐ  
涙目を閉じ込めている臍ピアス  
年齢不詳の女からウインク  
ほらね見て鍵穴覗く催眠術

宮城県 月波 与生

痩せ器具の電池を抜いて歯ブラシへ  
靴を脱ぐなりたい人にまだなれず  
いくさする話老人たちがする  
前向きに進む方向音痴たち

白河市 鈴木 たけし

令和元年新しい靴下ろす  
万葉を読もう余熱のあるうちに  
玉音を正座で聞いた蝉しぐれ  
傘を持つマイカー捨てた手が冷える

千葉県 廣瀬 良磨

ダイエット体重計に睨まれる  
携帯に僕の秘密を握られる  
万歩計もつと歩けとつつかれる  
休みでもいつも通りに目を覚まし

東京都 高岡 弥生

真剣に取り組んでたら結果出る  
子の育ち親の関わりそのままに  
レコードをかけてアナログ楽しんで  
高齡の運転いつまで誰止める

横浜市 巖田 かず枝

夫喜寿ろうそく孫が先に消し  
祝い膳酒の準備に余念なし  
誕生日孫にカードと図書券と  
十八の犬が吠えますソプラノで

横浜市 長島 亜希子

「平成最後」「令和最初」に煽られる  
メーデーのニュース流れぬ改元日  
あなたより先には逝けぬ医者通い  
十連休喜ぶ人はどのくらい

静岡市 渡辺 芳子

夜が明けてほほをなで行く春の風  
山道に人知れず咲く桜ほめ  
富士山の毎日違う麗しさ  
全世界平和見届け召されたい

江南市 脇田 雅美

苦勞して器にあった人となり  
欲のない人だから良くくじ当たる  
百からを逆に数える認知力  
偶数月見越して夫婦旅プラン

京都市 櫻崎 篤子

令和元年うれしい事が起りそう  
昭和から三代生きた孫の数  
野の花に見とれて又も乗りおくれ  
野に山に花あり日本は美しい

舞鶴市 伊藤 恒

女房の付度今夜酒二本  
和尚でもあの世の話嘘ばかり  
山陰に新幹線は永久に無理  
法事より生きてるうちのお小遣い

大阪市 前川 善之

家庭から世界平和生まれ来る  
令和来ても何も変らぬ年金者  
料理好き誰にも言えぬ味作り  
祢宜さんは令和朱印で忙しい

池田市 上山 堅坊

AIの世にも輝く神仏  
亡き妻へ花を育てる恩返し  
亡き妻の小言ますます光りだす  
遊び心で百歳までも楽しもう

池田市 太田 省三

じっくりと読むのは朝のテレビ欄  
奥様に似合いますよとウオッシュレット  
渋滞のニュースを見つつビール飲む  
連休も夕餉の支度今日はチン

泉大津市 助川和美

バス待つ間田舎の茶屋でところてん  
見える風景誰と歩いたかで違う  
ごめんなさい断る勇氣ありがとう  
台所手伝いながら摘まみ食い

河内長野市 穂口正子

当てこすり気づかん風に笑み返す  
他人皆羨んだ頃若かった  
買つてから筍どつと筑前煮  
予定入れ忙しいのが丁度良い

河内長野市 渡邊修

身に余る令和に生きるプラン練る  
置き場所を忘れ一日物さがし  
トランプのファースト主義で株ダウン  
待合は文春記事で盛り上り

堺市 羽田野洋介

強い絆昭和平成乗り越えて  
元号が変れど次はねずみ年  
ベテランとおだてておいて敬遠し  
クラス会人数が減りひっそりと

堺市 古川光雄

妻色に染まって亭主猫になり  
古都堺古墳に刃物与謝野さん  
階段を登れぬ犬のくやし顔  
孫が来る今夜の馳走はイタリアン

堺市 大和峯二

アベノミクス個人消費置き去りに  
子は宝陰で涙の貧困化  
この夏の暑さ気になる温暖化  
万博が招き猫なりカジノ呼ぶ

四條畷市 西川ひろし

古寺の鐘ケーキ食いつつ古い二人  
振り向けば高齢者たち女子会が  
卒業で奨学ローン待つ怖さ  
五月晴れ憲法守れ飴する

高槻市 三谷白黒

なまけ者それでも長く生きました  
家族旅婆はいつでも最後尾  
吞まれてはいけなのお酒呑むものだ  
若い時 motto 努力をしていれば

豊中市 荒木郁子

美人にはちよつと意地悪したい日も  
愛犬がベストフレンド共に生き  
夫婦でも居場所大事と引き籠もる  
カリヨンが平和平和と繰り返す

豊中市 貝塚正子

気が滅入る派手な衣装で空元氣  
気のせいか効き目が薄いジェネリック  
手がすべりもう拾えない生卵  
匂が出来たメモ探すうち消え失せる

豊中市 齋藤 奈津子

借りた本むかし私が貸した本  
雨も好き野暮用断って読書する  
電池切れ目覚まし時計眠りこけ  
回遊魚寿司にされてもぐるぐる

寝屋川市 坂本 ミヨノ

令和祝う友と約束サイフ見る  
百歳も人生近くあと五年  
食べ頃を待てない私メロン切る  
毒舌で面白話楽しませ

八尾市 山川 寧

山が躑躅かツツジが山か夏はそこ  
喜寿嬉し令和と共に生新た  
五年生私も母の背を越した  
カーテン揺れる春の陽差しとハーモニー

大阪府 中内 孚彦

武士ならば割れて碎けて散って欲し  
喉の奥がちよっぴり苦い恋もある  
愛のない空間音も消えている  
寂寥は前に行く人も首を垂れ

神戸市 青木 公輔

タイムカードのそばで今更焦っても  
凶また凶平成最後のおみくじが  
早い話がちっとも早くない焦り  
やわらかい言葉の裏のとげを抜く

神戸市 大頭 としお

タイガース勝った負けたの十連休  
父の背と母の涙に子は育つ  
ふと楽を企む手足叱り付け  
道草を食った数だけ友を持つ

神戸市 輿水 弘

難聴で棘あるうわさ拾わない  
抱っこ愛ボチも嫌がるこの暑さ  
暑いので夫婦喧嘩にうちわ舞う  
一人居の割りばし溜まり茄子の牛

神戸市 近藤 勝正

大仕事終えた夕べの酒2合  
要注意杖に命じて坂下る  
入日見て浄土なんだか魅力的  
暮れてゆく景色さみしい傘寿には

神戸市 田本 古鈴

百合開く亡母の命日遠からず  
男にはわからぬ妻のひとりごと  
人間の匂は年ではありませぬ  
いつだってテレビが踊る不幸

神戸市 山根 弘華

令和への幸せ祈る九十坂  
春風が秘密べらべらしゃべりだす  
すてきれぬブライド胸に老いを生き  
子の姿自分うつした鏡です

神戸市 米田 利恵子

夏日三日続いてからの衣替え  
ランドセル姿に凜凜しさのオーラ  
捻挫した夫に尽くす埋め合わせ  
手が届く幸せ熟睡ができる

伊丹市 平井 富夫

燕舞うタバコ屋やめた事知らず  
遅刻した当番さされ堪忍や  
クラス会返事出さなきゃ生きてるか  
すぐ頼る生活全てスマホから

加西市 山端 なつみ

昭和平成生きて令和の風清か  
金婚を令和で迎え生き直す  
金婚式互いの心杖として  
支えてる母の言葉に支えられ

三田市 生田 えい子

ぶきつちよな夫始める草むしり  
ブーケトス四十路すぎてる娘に投げて  
卓袱台で昔話の爺と婆  
母さんの誕生日にはウナギ丼

三田市 稲角 優子

おはようと走る少年風光る  
こだわりもいつか夫婦の中に溶け  
軒しのお揺れて皐月の風ひらう  
病癒えやさしい顔が出来あがる

三田市 大西 重男

値札見てゼロが四つで諦める  
歯の治療医者の機嫌を取ってみる  
浅はかな想いを捨てて楽になり  
独り言言ったついでに返事する

三田市 九村 義徳

萎み行く脳を鍛える五七五  
脳の錆落しています五七五  
雑学を餌に右脳が光り出す  
数独に占領された古稀の脳

三田市 幸田 厚子

人目避け三步後行く忍び恋  
あと一輪標本木に神酒飲ます  
脹ら脛今日は如何と聞いてくる  
頬杖が崩れてなおも眠気さす

三田市 住吉 美和子

五月晴れ花壇はどこも花盛り  
十連休故郷訛りをおみやげに  
十連休疲れましたと空財布  
雅子妃の元氣印は黄のドレス

三田市 辻 開子

連休はテレビで混雑見てました  
障子穴孫の仕業ととっておく  
シャッター音ピースの前に下りていた  
どきどきだ検査結果を聞く恐さ

三田市 東内 美智子

満開に咲いて愛でられ潔く

令和の春はより美しく咲くだろう

春うらら花のじゅうたん芝桜

やはりまだまだまだ令和歩きたい

三田市 中山 寅男

ストレスは異空間へのジャンプ台

ムードには逆らえなかったあの時代

五七五あつという間に夜が白む

通院日登校列に励まされ

三田市 馬場 貴美江

半世紀出会えた友は老いていた

病窓は点滴の音のみ聞こゆ

十連休子や孫帰省疲れ果て

国予算論吉の重さいかほどに

三田市 森 玲子

桜咲く友と会いたいこの季節

夫手術子らの優しさ身にしみる

三途の川渡りかけたが断られ

十連休財布に優しい雨よ降れ

丹波篠山市 澤 良子

カタログを見ながら買った気分になり

ボケもせず晩酌変わらず口達者

若者の穴あきズボン風が舞う

立場さえなければダメと言えたのに

丹波篠山市 長谷川 善輔

まずはビール飲みはじめての六五年

飲みすぎた夢を見ていて二日酔い

蝶の舞う令和の春に老い一人

帰宅して安堵する猫安堵する我

西宮市 高橋 千賀子

五月晴令和も鯉も踊りだす

掘りたての筍買える道の駅

黄金虫程金が無い小金持ち

亡母の味美味しく出来た柏餅

和歌山市 倉橋 悦子

夢ひらく新皇后の萌黄色

スーパーでゴミも一緒に買って来る

免許返納してから視界広くなり

終活査定加賀友禪は千円

和歌山市 鍋嶋 澄子

さくらさくら吹雪の中へ誘われ

なにを語る静なる構え石舞台

おんな旅かしましく時早く過ぎ

ドライブへ魅せてくれるね八重桜

和歌山県 森 下 よりこ

日脚伸び畑の時間長くなる

逃げ道は自分で捜すほかはない

ちよっと仲良し共通の敵できて

仏壇の花には苦勞しない庭

鳥取市 田賀 八千代

箱閉じて今の幸せ逃がさない  
満腹だやつとやる氣に火が灯り  
箱に詰め里から春のレシビくる  
桜咲き遊び心が騒ぎ出す

鳥取市 山野 すみれ

スタートに立ってみました人並に  
何も無い僕に影だけついて来た  
看護する手の温もりで今日を生き  
堂々と皇后様の立ち姿

倉吉市 伊藤 嘉昭

パソコンは老いも若きも今盛り  
幸あれと絵美子を囲む家族の和  
いつか来る智子のハートに愛の詩  
しあわせは望みの愛がみのあるとき

倉吉市 岡崎 美知江

荒波を越えて船出のドラが鳴る  
静かさが貴方の答かも知れぬ  
波風をみやげに娘やつて来た  
産みたての卵が並ぶ道の駅

倉吉市 田中 紀美恵

ふんわりと家族を包む母の愛  
一日が終りふんわり寝る布団  
話し中突然ばばが舟を漕ぐ  
たつぷりと暇がありすぎ惚けそうだ

倉吉市 宮田 風露

五月晴布団を干してひ孫待つ  
鯉のぼりと洗濯物が泳いでる  
濃淡の緑の中をハイキング  
元氣よくおはよう交わす通学路

倉吉市 若松 由紀子

懐にいつもパワーを抱いている  
母ちゃんの新鮮野菜道の駅  
自分自身老いた姿が見えてない  
いつまでも母を卒業出来ぬまま

境港市 中井 虎尾

ウグイスが平成令和鳴き渡り  
夕映えをバックに浮かぶ嫁ヶ島  
アベ・アソウ賞味期限が切れたらし  
地下鉄をノボレばそこは昼だった

米子市 伊塚 美枝子

伯耆富士シヤイなお山は雲の中  
近頃は魔法の化粧しても無理  
「歳だから」下手な言い訳許さない  
上皇を真似て金婚感謝状

米子市 生田 和之

居眠りは朝から夜は目が冴える  
オリンピックテレビで観るが丁度良い  
昼飯は勝手に食えと放つとかれ  
やれやれとああが口癖八十路行く

スーパーの梯子して見る日曜日  
魚には熱中症は無いだろう  
定年で今の上司は妻となる  
干してある大根瘦せてダイエツト

鳥取県 下田 茂登子

句作りも出来ない程に病んでます  
何くそと思ってみても気力なし  
無茶苦茶で作っていますこの気力  
元号が変り我が家に変化見ぬ

鳥取県 西谷 悦子

農家にはあまり関係ない連休  
成長を期し春野菜植えました  
身体の楽器一つ一つが頑張って  
新しいこと始める勇氣歳に勝つ

鳥取県 橋谷 静江

物忘れ少しずつだが増えてきた  
転ぶたび弱って行く足なでてやる  
朝晩のストレッチにも心がけ  
苦労性令和になってもなおらない

松江市 相見 柳歩

手料理の味もこころを離れない  
号砲で肝の細さを勝負する  
和食こそ世界に誇る輸出品  
祈ります池江選手の全快を

雨の日も万歩計から誘われる  
病状を診察券に聞いてみる  
気休めにカミさんも行く美人の湯  
診察時間短い内科長い歯科

松江市 山根 邦代

八十路とて乙女心を忘れずに  
野も山も衣替えして生きいきと  
ふる里はツツジやふじの田植どき  
母の日に好物作る姑でいる

出雲市 黒目 ひでお

働き方コンビニだつて変わります  
熱かった過去思い出し力薄く  
世直しは世界の希望夢を追う  
世直しを令和の御代に期待する

出雲市 永見 安子

遠い日の母の香りの沈丁花  
熟年の苦労話に笑い添え  
花が散り若葉元気に盛り上がり  
石段に思い出話し寺参り

安来市 原 徳利

皺顔をやばいと誉めてくれる孫  
ごめんねが言えれば怖いものはない  
手品師のポツケの中に飯の種  
税金を払って走る自家用車

笠岡市 小野美那子

情に負けドボンとはまり現在地  
糊ピンと強めに効かせ巢立ちの日  
口裏を合わせて踊る影法師  
遠慮なくどどん暴く内視鏡

岡山県 大杉敏夫

立ち飲みは前金払い振り向かぬ  
口付けて一口飲んで持つコップ  
鉢巻きもネクタイも居てみな寡黙  
電柱を頼りに家に辿り着く

尾道市 小畑宣之

花の色いろいろあつてこそ楽し  
傘寿過ぎ音信不通の友が増え  
マイペースいつの間にやら一人ぼっち  
名も知らぬ草木も酸素作つてる

竹原市 土井輝恵

令和れいわはしゃぎ過ぎてはいませんか  
忙しい平成でした孫育つ  
子の居ない夫婦の幕の閉じ方よ  
ハイポーズピース強要しないでよ

府中市 岸田武

ご先祖の羽織袴が蔵にある  
コーヒーを濃く入れ歎異抄を読む  
後ろ手は握り拳か鉛玉か  
ふる里は跡継ぎのない店ばかり

三原市 笹重耕三

年取ったなと思う昭和が霞みだす  
平成の債務も背負ってゆく令和  
喋ること何もなかった日の独り  
相槌を打って仲間の振りをする

三次市 伊藤寿子

十連休クリアした事感謝する  
体調なんていつておられぬ土産店  
雅子妃の笑みが令和に期待させ  
君の名はの女優が作家だったとは

阿南市 小畑定弘

素っぴんの嫁の介護が嬉しくて  
マドンナと出世頭がよくもてる  
溜息が今日の私を曇らせる  
水臭いご近所さまざま有難い

今治市 渡邊伊津志

役付きの坂に横道などは無し  
老化現象物を失う癖が付き  
仏様に欲の深さを見破られ  
駄目駄目と首を振ってる葱坊主

### 第173回 大阪川柳の会

会日	8月7日(水) 午後1時開場・午後2時締切
会場	大阪市北区梅田 駅前第二ビル5階
宿題	大阪市立総合生涯学習センター 第一研修室
会費	△「救う」 岡田 穂選 △「白い」 吉川 哲矢選 △「幽」 村上 直樹選 △「夏の花」 森中惠美子選 1000円
欠席投句	(82円切手5枚同封) 8月6日到着分まで 会員に限る
年会費	千円(公報を年6回奇数月にお届けします)
会費募集	〒532-0025 大阪市淀川区新北野1-3-4 706 本田 智彦 宛

# 橘高薰風句抄

〔橘高薰風川柳句集〕平成十三年発刊

涼しげに老樹一蟬点したり

墮地獄のいのちもたった一つきり

かまきりの鎌振り上げて事切れし

穂芒の如き魂ありにけり

勇の川白秋の川恙無きや

横顔の子規も八雲も荒仏

われもまた己を知らずお元旦

年寄の居ぬお雑煮は淋しかる

われをしも馱馬貴人と名付けんか

悼 大山あや子さん

優しい人をなおもやさしく有馬筆

禅僧の描く円に似た大根煮

ぎんなんの水平線も遙かなり

水平線今にどんでん返しある

嗚呼 麻生叟乃先生 三句

計は常にかかるかたちで来る白刃

髭を剃る千本の樹を薙ぎ倒す

花の散る今日一日は物言うな

シクラメン伐折羅大将より激し

形見分け暖かい石冷たい石

かなしみの西より来れば西へ旅

その時の警策に似た父の文

母の顔安楽椅子の観世音

猪口を持つ手つき恩師に似て来たり

申告を散歩がてらの老教授

柳川にて

白秋は朱欒のごとし陽のごとし

本棚を砦のように老作家

白菜の悲鳴が妻に聞えたか

藤澤桓夫先生喜寿

清冽な泉を抱いて大樹かな

自愛とはこの一杯よ誕生日

鶴の愚鈍亀の狂気をあこがれる

花の絵の鍋で魚が焦げている

母病むに紅白の別花に多し

砂時計突如竜巻母が死ぬ

# 誹風柳多留——二篇研究 73

小栗清吾・細井龍夫  
伊吹和男・山田昭夫  
石川道子

清 博美

625 女房かあれ八行かぬとけちなやつ

小栗 「もし女房が有るならば、○○へは行かぬ。無いから行くのだ」と言う奴はけちな奴だという意かと思う。とすれば、○○は吉原ということであろう。吉原は、単に性欲の処理場ではない。そっちの方が女房で間に合つていようがいまいが、出かけるのが男というものである。そんな事もわからねえとは、何ともつまらねえ奴だということなだろう。

あほうもの女房のつらで目をくらし

安四智 5

女房にこひ付て居るみぐるしき

三〇13

清 賛

626 こんりやうの御衣せんたくに式分かゝり

小栗 衰竜の御衣は、赤地に竜の模様の刺繍がある天子の祭服。日本では、聖武天皇から孝明天皇の時まで、大儀の服として即位の際に用いた。大袖に竜を、胴に日、月、星辰、山、竜、華虫、火、などの姿かたちを刺繍したものの（日国）。

よく分からぬので、雨譚注に「雛の修復」とあるのを頂戴しておく。「雨譚注万句合研究」（古川柳研究会記録）川柳雑俳研究会刊では山路閑古氏が「雛の修理—洗濯に式分費やした…の句意です」とコメントしておられる。修理に「二分とはずいぶんいい値段のようだが、衰竜の御衣」と表現されるような立派な内裏雛の修理は高いものについて

たということであろうか。現在の電化製品も修理するより新品を買った方がお得な場合も多い。

こん竜の御衣を召したか娘のなり 三五10  
母の雛古金て式分の聞きあきし 明五亀1  
清 賛。生活必需品でないものは、とかく高額になる。「雨譚註」によるしかなさそうである。

627 鳥のはねすでに狐が喰ふところ

小栗 鳥の羽をすんでのところで狐が喰うところだったとは、いったい何のこと？と思わせておいて、実は鳥羽院を悩ませた妖狐・玉藻前の句であるという趣向。

贅説を要しまいが、鳥羽院の寵姫・玉藻前は「天竺にては斑足太子の塚の神、大唐にては幽王の後褒姒と現じ、我朝にては鳥羽院の玉藻の前とは成たるなり」（謡曲「殺生石」という野干（狐）。「我王法を傾けんと、仮に遊女の形となり、玉体に近づき奉れば御惱となる、すでに御命を取らむと」（同）というところで、安倍泰成に見破られる。

鳥の羽を既に狐かしめる所

七三36

すでの事狐王子を孕む所

五三12

清 賛。詠史句はカラクリがわかればそれま

で。余韻はない。

### 628 御手切れとみへて御道具二日行

小栗 手切れば、①それまで続いていた二者の關係・交渉を終わりにすること。②双方の交渉、談判が成り立たないで、破談となり、そのまますぐに敵対行動をとること。③特に、男と女の愛情關係を断つこと。客がなじみの遊女などのなかを終わらせること(二日国)。

はつきりしない句。ここで「手切れ」を「離縁」と同義とすれば、たとえば、殿様が奥様を離縁されたらしく、奥様の御道具が里へ帰されて行くが、さすがお殿様の奥方だけあって、一日では処理しきれず二日に亘って運ばれていく、というような光景となろうか。

ただ、「手切れ」が明らかに「離縁」を意味する句を発見できず、自信がない。

逆に、

手切金妾の兄は三度とり

八 40

坂崎ハ野暮おれならバ手切金 一三九 33  
は、明らかに離縁の意味ではない。現代では、多く婚姻以外の男女關係の処理のニュアンスで使われる語のように思われ、また、「守貞漫稿」でも、「娼家」の項に「手切れ 義絶

を云ふなり。京阪と同じく金のみを与ふあり。あるひは金を与へず、夜具を製し与ふもあり。(以下略)とあつて、遊里語の如く説明している。

しかし、もしお妾の手切れとすると、大量の道具を持たせて暇を出したというような句意にならうが、そんなことがあるものかどうかわからない。結論として、不明なので、ご教授を願いたい。

細井「御」の字がついているから矢張り奥方の離縁のように思われる。

山田 礎のような事なのでしよう。

石川 奥方の離縁でしようか。

清 お妾の解雇……オツと礎稿も触れていました。「手切れ」＝「離縁」が証明できないものか。

### 629 わさびおろしも孝行の道具也

小栗 山葵卸は、山葵や生薑などをすりおろすための器具(日国)。

句意はそのままであるが、具体的には、次の諸句が参考になる。

たくあんをわさびおろして姫の孝

あさづけもわさびおろしの入料理

見利寛五松 1

豊喜草 17  
あさづけを姫ハ二タ切らせんにうち 明二松 3

中 のよさ嫁こうくをきざんでる 三七 34

すなわち、たくあんなどの漬物は、菌の弱つた老人にはそのままでは食べられないので、庖丁で細かく刻んだり、あるいは山葵卸で細かくして食事に提供する。嫁がそういうことをするのを「孝行」とし、それ故に山葵卸は「孝行の道具だ」と言ったのであるが、「孝行」に「こうこ」(香の物)の意を通わせたところが技巧であろう。

清 贊。掛詞がなければ平凡な句。

### 630 わつちがやうなものと面白くなり

小栗「わつち」は女性の自称。男が女を口説いて、かなり進行してきたのである。女もその気になってきて、「ねえ、私みたいな者でも本当にいいの？」などと上目遣いに媚態を示す。「面白くなり」である。

わつちらが内はやばさと出来か、り

わつちやてい主おもひさと出来ぬなり

安五鶴 3

天五信 4

清 贊。

# 愛染帖

新家 完司選

(投句281名)

詫びながら左右に揺れる草刈機

岩国市 上村 夢香

(評) そうか、あのエンジン音は「ゴメーンゴメーン」と言っているのか。人間の為に作られた道具のほとんどは動植物の敵。

仙台市 月波 与生

再雇用され上座から下座へと

(評) 定年のあと同じ職場で再雇用して貰ったのは良いが、肩書は外れて給料はダウン。

さて、これからが人生の深い味である。

榎原市 居谷真理子

トンカツにトンカツソース凡夫婦

(評) マーケットの棚には数えきれないほどの珍しい調味料。だが、舌に馴染んだものがベスト。トンカツにはトンカツソースだ。

堺市 奥 時雄

ベッド居間トイレにナンブレを常備

(評) 脳トレに最適の数独(ナンパープレイス)。目につく所に置いて、暇があれば取り組む。百歳になっても芽えているだろう。

信号を守って命守れない

神戸市 能勢 利子

(評) 青信号で渡っていたのに、暴走車に撥ねられて死亡という事故が増えている。「高齢車専用自動車」の開発が急がれる。

考える人今ではそこらじゅうにいる

京都市 都倉 求芽

(評) 公園のベンチ、病院の待合室、バスの停留所等々で、ロダンの「考える人」と同じポーズの老人たち。さて、何をご思索か。

名はA-I貌のないもの現れる

河内長野市 原熊知津子

(評) 超スピードで進化しているAI(人工知能)。思いがけないところにまで入り込んでいるが、実態が見えないだけに不気味。

ここからは流れ解散だな友よ

弘前市 高瀬 霜石

(評) 古稀を迎える頃から同級生の計報がポツポツ届くようになる。改めて挨拶を交わして別れたのではない「流れ解散」だ。

会葬者二百が彼の金星だ

唐津市 仁部 四郎

(評) 肩書きなどは無かったが、葬儀には人柄を偲んで多くの人が別れを惜しんでいた。まさに、「棺を蓋いで事定まる」である。

悔いはない どうぞお好きに閻魔様

河内長野市 森田 旅人

(評) やりたい事はやった。この世には何の

未練も思い残すこともない。「どうぞご自由にお裁きを」と言えるような最期を迎えたい。

弘前市 稲見 則彦

高らかに令和の鐘が鳴り響く

青森市 守田 啓子

目覚めないままで令和に送られる

京都市 清水 英旺

幸せを願い令和の門くぐる

京都市 清水 英旺

令和元年便座カバーも新しく

大阪府 笠嶋 恵美

令和成るアベノミクスは冷えたまま

熊本市 杉野 羅天

令和婚ラッシュ息子もして欲しい

箕面市 出口セツ子

嗚呼令和令和を繰り返す

大阪府 米澤 俣子

恐竜が令和人みる考古館

千葉市 海老池 洋

祝令和健やかな日過ごしましょ

熊本県 岩切 康子

明治から令和生き抜く茶寿方歳

東大阪市 佐々木満作

元号がどう変わろうと三回忌

弘前市 福士 慕情

忘れてはならぬ昭和が遠くなる

米子市 吉田 陽子

ゆっくりの昭和の歌に癒される

長岡京市 山田 葉子

河内長野市 木見谷孝代  
十連休老いに試練の日々となる

鳥取市 岸本 宏章  
十連休歌の稽古に行っただけ

朝霞市 前田 洋子  
先立つモノ有れば楽しい十連休

箕面市 中山 春代  
個包装で願えませんか十連休

三原市 笹重 耕三  
十連休でしたほっとしてました

米子市 竹村紀の治  
横綱の三本締めは勇み足  
御守りが弾んでいますランドセル

河内長野市 藤塚 克三  
詰め放題不動明王妻の顔  
駅から5分 千鳥足では20分

奈良市 大久保真澄  
他人の世話にもなろう老いたのだから  
よう喋る人やおしゃべりがこぼす

広島市 松尾 信彦  
聞き役に徹し眺めているコフシ  
窓開けて宿泊代に納得す

鳥取県 門村 幸子  
第一の薬は「昼寝」また励む  
身じろげずダウン症書家「翔子展」

神戸市 上田 和宏  
帰国オウムグッモーニング言いよるねん  
全没にした選者恩師と思うとく

鳥取市 大前 安子  
十連休人様の背を見て回る

寝屋川市 富山ルイ子  
十連休何処にも行かず日が暮れる

大阪市 坂 裕之  
リフレッシュ出来ただろうか連休で

八王子市 川名 洋子  
連休が終わり早速ランチ会

尼崎市 清水久美子  
寡夫と寡婦だらけになったクラス会

堺市 加島 由一  
女性にはいつもきれいと言っている  
お神楽も成人向きになる深夜

米子市 成田 雨奇  
大食いの妻と競わず食べ残す  
子の土産ああ美味かった あっ仏壇

三田市 上田ひとみ  
義母送りみんなきれいな色になる  
ええトコを探すことってしんどいね

三田市 福田 好文  
いいブーム香典不要家族葬

横浜市 加藤 佳子  
カラオケで愛だ恋だと昼間から  
日和見の男ばかりでつまらぬ世

倉吉市 大羽 雄大  
パトカーが見ています目を合わさない  
西日受け影が教える背の曲がり

佐賀県 真島久美子  
門構え今日は優しい眉にする

大阪市 高杉 力  
涙拭くシーンが違うペアシート

黒石市 北山まみどり  
笑うほど吸引力が増してくる

美作市 岡本 余光  
見て聞いて理解するまで時差が出る

沖繩県 宮 すみれ  
御世辞でもでもでも若く見られたい

倉吉市 牧野 芳光  
登り坂も辛い下り坂も辛い

岡山県 田中 恵  
皺くちやに写す鏡の反抗期

大阪市 平井美智子  
見え過ぎという不都合な目の手術

沖繩県 森山 文切  
キャラじゃないなんてとつくに知ってます

山口市 青木 隆子  
列車から手を振った人誰だろう

横浜市 菊地 政勝  
フルムーンすべて女房の言うがまま

弘前市 高森 一吞  
気が付けば妻の子分になっていた

神戸市 細川 花門  
あれこれとすったもんだをして傘寿

倉吉市 岡崎美知江  
百歳を越えるプランへ立て直し

三田市 北野 哲男  
脳味噌に隙間作らず句で埋める

横浜市 川島 良子  
締切りにあくせく脳の活性化

三田市 堀 正和  
プレバトに比べりゃ甘いこの句会

枚方市 丹後屋 肇  
十七音字上手くなりたいたい八十路坂

堺市 大和 峯二  
川柳の長生き効果試してる

沖縄県 禱 モモト  
気が付けば川柳依存症となり

寝屋川市 岡本 勲  
友人に逢いたくなくて医者に行く

大阪市 磯島福貴子  
病床の夫所望はカレーパン

鳥取県 竹信 照彦  
ウォーキング五百円分わらび探り

河内長野市 山岡富美子  
気取ってはいるが年金族である

藤井寺市 鈴木いさお  
女護ヶ島に着いたところで目が覚める

大阪市 柴本ばっは  
お掃除好きの夫なのです大切に

笠岡市 藤井 智史  
天ぶらを食うて婚活へと挑む

和歌山市 まつもととこ  
いつまでも負けず嫌いのピサの塔

堺市 坂上 淳司  
豊かそうな村だが見えぬ鯉のぼり

西脇市 七反田順子  
ゴキブリに悲鳴をあげる平和だな

堺市 内藤 憲彦  
トリプルアクセル胸のあたりも気にかかる

松山市 郷田 みや  
母の日も子どもの日にも散らし鮭

堺市 村上 玄也  
他人の噂せんと喋って「知らんけど」

鳥取市 岸本 孝子  
最初には書きたくはない奉加帳

枚方市 山口弘委智  
サプリメント全て試せば不老不死

大阪市 古今堂蕉子  
ぶつかつても死なない車急務でしょ

府中市 岸田 武  
ほんとうの事しか言わぬ人がいる

岡山市 永見 心咲  
強面のカサゴも釣られたら寡黙

鳥取市 上山 一平  
キャベツ畑青虫が住み箔がつく

香芝市 大内 朝子  
女学生見ると初恋ふと思う

三田市 大西 重男  
ひい・ふう・みい・数えきれない想い人

岡山県 藤澤 照代  
前期高齢 老人に初めてなった

大阪市 平賀 国和  
故里の山よ少年老いました

大阪市 谷口 義  
なんぼ考えても分らない寿命

寝屋川市 伊達 郁夫  
終活がほぼ片付いた眼鏡拭く

鳥取市 前田 楓花  
カッコーと鳴いているのにハト時計

川西市 山口 不動  
ぜいたくな時空を創る花吹雪

和歌山市 北原 昭枝  
胡蝶蘭いつも支柱に頼ってる

高槻市 原 洋志  
予約などせぬが毎年花粉症

海南市 小谷 小雪  
甘い実を期待しますよ柿若葉

鳥取市 永原 昌鼓  
銭払う役で子どもに誘われる

大阪市 樋口 眞  
イチローに見た本物の美しさ

岡山市 大石 洋子  
世に浮かれスラジ増していく心

宝塚市 太田としお  
ハネムーンこれが苦勞の始まりだ

鳥取市 奥田 由美  
妻よりも姪の甘えに弱い夫

池田市 太田 省三  
万物と融け合う星に生きている

羽曳野市 中川ひろ介  
ビールの人「はい」と手を挙げ待っている

三田市 村田 博  
路地裏の古いが美味い店で酔う

東大阪市 北村 賢子  
若い日を辿り飲む酒ほろにがい

河内長野市 梶原 弘光  
友達の仕事けしてます上戸下戸

尼崎市 永田 紀恵  
まんじゅうをアテに酒のむ平和主義

海南市 堂上 泰女  
ほろ酔いのパパからかつている五歳

大阪市 岩崎 玲子  
ほろ酔いの時は何でも許せちゃう

札幌市 三浦 強一  
血の濃さを見せて息子の呑みつ振り

豊中市 齋藤奈津子  
酔い回るぐるぐる巻きの猪口の底

奈良市 山本 昌代  
影法師父の姿で酔うてはる

高槻市 松岡 篤  
千鳥足監視カメラが笑ってる

奈良県 長谷川崇明  
神様にお神酒仏は般若湯

米子市 後藤 宏之  
カラオケ勝負サムライの果し合い

藤井寺市 太田扶美代  
何を言ってもふんふん静かな無視

生駒市 飛水ふりこ  
「おしゃべり」が花ことばらしアマリリス

鳥取市 田中 天翔  
欠伸している間に伸びるアスパラガス

今治市 永井 松柏  
パブリカの赤見るからに嘘っぽい

三田市 足立つな子  
人と火と車に注意 子にメール

河内長野市 村上 直樹  
A1の指示で働く日も近い

岡山県 高岡 茂子  
独り居も幸せだよと仏壇に

大阪市 大治 重信  
思い出を積み重ねゆく豆ごはん

三田市 東内美智子  
息子と歩く振り返られて時に急ぐ

松江市 中筋 弘充  
ゆつくりと診て欲しいです主治医様

今治市 渡邊伊津志  
ハードルを一つ越えれば一つ老け

倉吉市 山中 康子  
老いという魔物退治にはげみます

奈良県 安福 和夫  
飛行機の歴史と同じ最長寿

江南市 脇田 雅美  
座布団を枕代わりの昼下がり

宝塚市 丸山 孔一  
横になり寝るにも少し要る力

鳥取県 山下 節子  
体力で奉仕は出来ぬ募金する

安来市 原 徳利  
5%得したシニア感謝デー

高槻市 富田 保子  
家もある会話もあるが居場所ない

三田市 谷口 修平  
正確で的を絞った妻の愚痴

倉吉市 伊藤 嘉昭  
金銭で解決できぬ恋病

男鹿市 伊藤のぶよし  
ラーメンとスープで生きる君となら

鳥取市 倉益 一瑤  
おみくじに恋は成就と書いてある

唐津市 山口 高明  
不況など知らぬ墨田の国技館

大洲市 花岡 順子  
かくれんぼ探す楽しみだつてある

羽曳野市 吉村久仁雄  
有機野菜先んじるのはいつも虫

松山市 柳田かおる  
日まいして自信がみんな吹っ飛んだ

豊中市 藤井 則彦  
夫婦とも快便という至福の日

三田市 野口真桜子  
さんざめく初夏に声あり村祭り

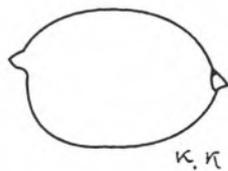
境港市 藤原 久直  
輝こうこれからだつて遅くない

共選欄

檸檬抄

(薫風書、カットとも)

(投句 344名)



「添える」 川端 一步 選

ユーマアを添えた返事があたたかい  
 添い寝した婆ちゃん先に高軒  
 梅干を添える朝餉の暑気払い  
 おじいさんをおマケにつけた持参金  
 晩飯に添える話を抱いている  
 ひと言を添えてあなたを引き寄せる  
 院食に夕焼け添えて舌鼓  
 寄り添ってくれる息子がいて車椅子  
 どこでもバセリのような役回り  
 手を添えただけで卒寿にはたかれる  
 添えられた手に真心が滲み出る  
 添えものではないと別姓で署名  
 ウイルスかもしれぬ添付のラブレター  
 添え物のパセリの様な人が好き  
 添え書きの自筆へ心いただいた

長岡京市 山田 葉子  
 豊中市 齋藤奈津子  
 安来市 原 徳利  
 奈良市 大久保眞澄  
 松江市 石橋 芳山  
 寝屋川市 伊達 郁夫  
 岡山県 折鶴 翔  
 大阪市 高杉 千歩  
 大阪市 高杉 力  
 尼崎市 清水久美子  
 三田市 谷口 修平  
 河内長野市 森田 旅人  
 大阪市 田中ゆみ子  
 尼崎市 山田 厚江  
 香芝市 大内 朝子

「添える」 山岡 富美子 選

ごちやごちやとあるけど添うているわたし  
 よき友は心の花の添え木かな  
 真心を添えて差し出す義援金  
 キナ臭さ添えて令和がやつてきた  
 目で食す和食に添えてある季節  
 子の添え木外すチャンスを見失う  
 人生に花を添えたら蝶になる  
 カップ麺すすって金のない話  
 深い意味ありませんよと添えてある  
 添い寝した写真見せたい反抗期  
 ほんとはねそつと添えたい母の手を  
 新刊書帯の惹句で買わされる  
 添えものでそつと季節を描く和食  
 疑った時から添えた手が弛む  
 寄り添えば折るかたちになる両手

桜井市 安土 理恵  
 雲南市 永見 安子  
 神戸市 大頭としお  
 藤井寺市 鈴木いさお  
 出雲市 竹治ちかし  
 鳥取市 倉益 一瑤  
 西宮市 高橋千賀子  
 弘前市 高瀬 霜石  
 岡山市 工藤千代子  
 堺市 柿花 和夫  
 河内長野市 穂口 正子  
 奈良県 谷川 憲  
 河内長野市 森田 旅人  
 鳥取市 福西 茶子  
 今治市 永井 松柏

エピソード添えて祝辞に花咲かす 彩りの為だけでないブチトマト	明石市	糀谷	和郎
キナ臭さ添えて令和がやつて来た 改元に彩り添えた新紙幣	米子市	竹村紀の治	
人びとが寄り添いあえる令和の世 新刊書帯の惹句で買わされる	藤井寺市	鈴木いさお	
借りた本葉のページ先ず開く 本返すお札に添える花オクラ	豊中市	藤井	則彦
花を添え冥福祈る事故現場	堺市	内藤	憲彦
事故現場ブーケに添える鮎ケーキ	奈良県	谷川	憲
思いやり予算に添える滑走路	海南市	小谷	小雪
美ら海に寄り添い心届けたい	加西市	山端	なつみ
ニンベンに夢が寄り添いあつけない	鳥取市	吉田	弘子
釣銭に手を添えて出す粋な店	枚方市	丹後屋	肇
子の添え木外すチャンスを見失う	三原市	笹重	耕三
天の声地の声添えて農日記	河内長野市	穂口	正子
地味婚に仲間が添えるエピソード	和歌山市	松原	寿子
句に添って走り続けるのは命	松江市	中筋	弘充
イラストを添えて柳誌も一工夫	鳥取市	倉益	一瑤
無添加で笑い上戸の私です	伊丹市	延寿庵野鶴	
手を添えて心をさするのが介護	大阪府	高木	道子
風薫る母の歩調でする散歩	大阪市	榎本日の出	
	高槻市	初代	正彦
	青森市	守田	啓子
	三田市	北野	哲男
	尼崎市	藤井	宏造

師の言葉と寄り添いながら生きてきた	奈良県	渡辺	富子
口添えをしたばかりに買う恨み	三田市	堀	正和
春だからいつもの味にみょうが添え	長岡京市	山田	葉子
添えものの様に法事の席にいる	尼崎市	山田	厚江
赤ペンの師の添削がありがたい	京都市	清水	英旺
杖よりもあなたの添える嬉しい手	京都市	福士	慕情
軽い気で手を添え大事頼まれる	京都市	都倉	求芽
添えられた手の温もりがありがたい	米子市	伊塚美枝子	
四十年添って初めてわかること	日高市	根岸	方子
寄り添って落花に染まる里静か	寝屋川市	森	茜
ナイフフォークお箸も添えて下さった	和歌山市	古久保和子	
添加物いらぬ純な君が好き	笠岡市	藤井	智史
趣を添えた老舗のおしながき	大阪市	藤田	武人
添えるものなくて重箱返せない	米子市	生田	和之
添え物の僕に回ってきたお鉢	尼崎市	藤井	宏造
花の世話書き添えておくカレンダー	池田市	上山	堅坊
添い寝して孫を見ながら先に寝る	鳥取市	副井ゆたか	
人生の彩り添える本を読む	大阪市	小野	雅美
二度目からすんなり妻に手を添える	堺市	奥	一時雄
彩りの為だけでないブチトマト	米子市	竹村紀の治	
事故現場ブーケに添える鮎ケーキ	枚方市	丹後屋	肇
添削で生きいき命動き出す	富田林市	関	よしみ

邪魔せぬようそつとより添う介助犬  
 傘寿過ぎ寄り添い過疎に灯をともし  
 赤本の師の添削がありがたい  
 気前良い金一封が添えてある  
 図書を添えてくれますしい娘  
 自然体で寄り添ってゆく老いの日日  
 添加物いらぬ純な君が好き  
 添え木され桜命を吹き返す  
 メインには必ず添える自家野菜  
 金婚の先も添え木になるふたり  
 豆腐一丁笑顔を添える小商い  
 極上の酒あては添えなくていい  
 この歳まで添う羽目だったあの出会い  
 師の言葉と寄り添いながら生きてきた  
 親の訃に悲しむ妻へ手を添える  
 太陽に添えられひまわりの謀叛  
 影絵添え月の光りが降ってくる  
 添え文の金釘流が暖かい  
 羊羹を添えると新茶美味になる  
 寄り添うて七〇年にただ感謝  
 二度目からすんなり妻に手を添える  
 無農薬テントウ虫も添えられて

京都市 榎本 宏子  
 奈良県 長谷川崇明  
 京都市 清水 英旺  
 大阪府 樋口 眞  
 大阪府 江島谷勝弘  
 橋本市 石田 隆彦  
 笠岡市 藤井 智史  
 和歌山市 上田 紀子  
 富田林市 関 よしみ  
 貝塚市 吉道あかね  
 和歌山市 土屋起世子  
 大阪府 井丸 昌紀  
 東大阪市 北村 賢子  
 奈良県 渡辺 富子  
 八尾市 宮崎シマ子  
 富田林市 中村 恵  
 奈良市 山本 昌代  
 堺市 坂上 淳司  
 藤井寺市 鴨谷瑠美子  
 四條畷市 吉岡 修  
 堺市 奥 時雄  
 奈良市 宇賀 史郎

竹の子に糠まで添えて届けられ  
 追伸の方が大事なご用件  
 カラオケは聞いてなくても拍手する  
 ワイン入りチョコレートなら頂くわ  
 一品を添えて和解の席につく  
 添え木され老樹再び花咲かす  
 板前がひとふり添える味の冴え  
 温かい一言添えたマンガ文字  
 不意に来た子の好物も添えて出す  
 添え書に書いてしまった恋ごころ  
 どこでもバセリのような役回り  
 少なめに盛って自慢の露添える  
 添えられた言葉一つが立ち上がる  
 手を添えて一步の幸を分かち合う  
 ひと言を添えてあなたを引き寄せる  
 元他人六十年も添えました  
 無駄口を添えて楽しく酒を飲む  
 寄り添うているが不足があるらしい  
 一筆がことさら嬉し荷が届く  
 傘寿過ぎ寄り添い過疎に灯をともし  
 元気でと添えられていたさよならに  
 院食に夕焼け添えて舌鼓

三田市 北野 哲男  
 岡山市 丹下 凱夫  
 堺市 加島 由一  
 米子市 成田 雨奇  
 和歌山市 福井 菜摘  
 和歌山市 西川 千鶴  
 大阪府 近藤 正  
 鳥取市 山野すみれ  
 阿南市 清水久美子  
 大坂市 小畑 定弘  
 高杉 力  
 橿原市 居谷真理子  
 和歌山県 森下よりこ  
 門真市 坂本 星雨  
 寝屋川市 伊達 郁夫  
 大阪府 柴本ばつは  
 鳥取県 竹信 照彦  
 藤井寺市 鴨谷瑠美子  
 三田市 上田ひとみ  
 奈良県 長谷川崇明  
 東京都 川本真理子  
 岡山県 折鶴 翔

寄り添って落花に染まる里静か  
 相部屋のガンバレ聞いて退院だ  
 紫陽花に優しさ添える青もみじ  
 手を添えて一步の幸を分かち合う  
 馬が合う何があっても添い遂げる  
 ふる里の便りに添えたりんご花  
 嬉しくしてお茶目な絵文字添えました  
 縄文の妻に弥生の僕が添う  
 聴き上手お顔に笑みを添えながら  
 もしかしてバセリはスパイかも知れぬ  
 追伸に愛を少うし書き添える  
 寄り添えば祈るかたちになる両手  
 母の手にそつと手を添えまた来るね  
 元他人六十年も添えました  
 字幕スーパ―これがわたしの英語塾  
 目で食す和食に添えてある季節  
 あれこれと言わずに母のレシビ帳  
 そつと手を置かれて翼生えました

秀句

寝屋川市 森 西  
 河内長野市 藤塚 克三  
 八尾市 山根 妙子  
 門真市 坂本 星雨  
 男鹿市 伊藤のぶよし  
 弘前市 稲見 則彦  
 奈良県 安福 和夫  
 羽曳野市 吉村久仁雄  
 大阪市 岩崎 玲子  
 黒石市 北山まみどり  
 鳥取市 前田 楓花  
 今治市 永井 松柏  
 大阪府 米澤 俊子  
 大阪市 柴本ばつは  
 弘前市 高瀬 霜石  
 出雲市 竹治ちかし  
 三田市 上田ひとみ  
 岡山市 永見 心咲  
 大阪市 古今堂蕉子  
 和歌山市 武本 碧  
 犬山市 金子美千代

影絵添え月の光が降ってくる  
 そつと手を置かれて翼生えました  
 もしかしてバセリはスパイかも知れぬ  
 這い上がる力に神も手を添える  
 取り易く広く浅くと消費税  
 左手も添えて握手をしてくれた  
 尊敬の念左手に教え込む  
 知らぬ間に主役の添え物にされる  
 一言を添えたばかりに椅子が逃げ  
 改元に彩り添えた新紙幣  
 絶妙に寄り添う苔寺のみどり  
 縄文の妻に弥生の僕が添う  
 ウイルスかもしれない添付のラブレター  
 無添加で笑い上戸の私です  
 花束を添えるさよならのしるしに  
 非力でも弱者の側に立っている  
 人の世に添えると鈴は丸く鳴る  
 添うてゆく形に仕なる土踏まず

秀句

奈良市 山本 昌代  
 岡山市 永見 心咲  
 黒石市 北山まみどり  
 高槻市 富田 保子  
 札幌市 小沢 淳  
 鳥根県 伊藤 寿美  
 佐賀県 真島久美子  
 三原市 鴨田 昭紀  
 唐津市 仁部 四郎  
 豊中市 藤井 則彦  
 大阪市 古今堂蕉子  
 羽曳野市 吉村久仁雄  
 大阪市 田中ゆみ子  
 青森市 守田 啓子  
 宮城県 月波 与生  
 土佐清水市 辻内 次根  
 八尾市 宮西 弥生  
 大阪市 平井美智子  
 唐津市 坂本 蜂朗  
 和歌山市 まつもととこ  
 香芝市 大内 朝子



## 追悼

# 島田誠一さんの死を悼む

村上玄也

それは全く突然のことであった。勤めていた会社のOBの仲間で作った川柳同好会（そうりゆう会）の打ち合わせで電話をしていた時に声が少し曖昧れているような感じが気になって、数日後様子を聞こうと電話をしたら奥さまが出られて間質性肺炎を発症して救急で運ばれて入院したとのこと。今は集中治療室に入っているので一般病棟へ移れば本人が連絡すると言っているとのことであった。それから四、五日が経った四月十一日の朝ご長男から父が昨夜亡くなったとの連絡を受けた。

奇しくもその日はそうりゆう会の四月例会が行われた日であった。会の代表世話人をして誠一さんは毎回早めに会場に出て会の進行確認などをするのが常で、会の運営には細かく気を配ってくれていた。まさに四月例会を見届けるようにその夜の帰らぬ人となった。（享年七十六）

誠一さんは日頃健康そのもので年齢に似合わぬ若々しさがあつた。その人がこんなにもあつて気なく亡くなるとは何とも信じがたく悔しい思いである。

誠一さんが川柳を始めたのは、会社の後輩にばつたり出会って川柳を勧めたら、同僚だった誠一さんを誘ってやつてきた。それ以来誠一さんはどんどん川柳にはまり込んで本社句会は勿論遠くから堺の句会にも参加されるようになった。更に川柳そのものだけでなく各会の世話役を引き受けて、そうりゆう会の代表世話人、川柳塔本社の常任理事・総務部長、そして川柳塔さかいの会計も担当され、その業務をいずれも難なく熟してくれていた。責任感が強く引き受けた以上は何事もきっちりやり抜くという、生真面目な性格で、その仕事ぶりは周囲から信頼され大変頼りにされていた。誠一さんの句はやはりその人柄がにじみ

出ている、物事に正面から向かい合う姿勢が表現されている。

「最近の本社句会三才入選句から」

勤勉の風土にA一の狼煙

誓つては破るヒト科の愁嘆史

シャッター街末練たたんてる夕陽

ペンひとつ政治の闇のペール剥ぐ

どん底で忍の一字と手を結ぶ

一方でこんな風刺の効いたユーモアの句も詠んでいる。

その話聞いたと言えぬ社の訓示

キラキラネームルビが頼りの迷子札

日本の読み合わせですか国会

誠一さんが亡くなる四日前の朝日なわ柳壇で入選された句

道頓堀力ニとグリコで呼ぶ外貨

そして川柳塔誌五月号同人吟では第四席に掲載された句から二句

ユーモアのセンスで掴む初対面

新元号平成の傷労わりつ

これらにはいずれも誠一さんが生前目に触られることはなかった。

突然の病魔に襲われたご本人、ご家族のご無念は元より私たち川柳仲間にとつても掛け替えのない方を亡くし無念さで一杯です。心からご冥福をお祈りします。

## 英語 de Senryu ⑨1

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

お父さんはやはり川柳々々云っているよ

*your father*

*still keeps saying "senryu" "senryu"  
over and over again*

俺の子といふのがあつておそろしく

*my worst fear comes out*

*when he calls me*

*father*

---

*still* まだ *keep ing* 続ける *worst* 最悪の *fear* 恐怖 *come out* 出てくる *call* 呼ぶ

---

### 〜リバーウィローのため息〜世界の川柳・俳句③1

スロベニアの詩人デミタール・アナキエフの俳句集『政治亡命者センターから発信する21の俳句：外国人嫌いの蚊』(2017)。前号に引き続きアナキエフの作品を取り上げます。スロベニアの首都リュブリャーナ(Ljubljana)に彼が働く *Asylum Home* はあります。そこは全世界の痛みが集合した場所で、アフガニスタン、イラン、シリア、イラク、エリトリア、カメルーン等からの難民が押し寄せます。アナキエフの作品集『政治亡命者センターから発信する21の俳句：外国人嫌いの蚊』は、日本では想像できない、考えられない世界が現実として展開することを私たちに知らしめて衝撃的です。

作品集の一部を拙訳で紹介します。

*Sweaty body/ in convulsions: without heroin/ Afghan youth*

汗まみれの体 ヘロインを欠き激しい発作 アフガンの若者

*I changed religion./ then I changed my homeland./ my Iran*

宗教を替えそして母国も替えた 私のイランを

*Instead of dreams/ my family comes to my mind/ every night*

夢でなく私の家族は毎夜私の心に会いに来る

*Travelling three months/ by land, sea and air we come/ into your country*

陸路で、海路で、そして空路で三か月かけて、あなたの国への旅路

*A tattoo from Kabul/ speaks seven languages/ to survive*

カブール出身の人の刺青 七つの言葉 生き延びるために

*Asylum doctor!/ Almost about to run down/ a snail on the road*

避難所の医師！ほほ疲れ切ってる 道のナメクジ

「虫」

(投句 215名)

澤井敏治選



這いながらこんなとこまで来たか蟻  
ゴキブリは居ない我家の自慢です  
先のない生き方もあるキリギリス  
痢の虫静める灸は語り草  
充たされた暮らしの中にある虫菌  
腹の虫治まらないぞ辺野古基地  
ご近所でホタルが飛ぶと言ううわざ  
虫干しの着物に母の影宿る  
動く虫見つめる猫の好奇心  
新婚へ代わり番こにお邪魔虫  
無抵抗主義を貫くダンゴムシ  
蝶になることは望んでない毛虫  
見て見ると妖艶をまく黒揚げ羽  
蚊だけにはいつも殺意を持っている  
蚊もハエも痒む形が愛おしい  
過疎もいい蛍乱舞のおでむかえ  
甲虫田舎に青い空がある  
虫の音が指をタクトへ変えていく  
鈴虫もほしがってますカルシウム  
煮え湯まで飲まされている腹の虫

檀原市 居谷真理子  
三田市 上田ひとみ  
大洲市 花岡 順子  
倉吉市 岡崎美知江  
高槻市 原 洋志  
豊中市 上出 修  
西宮市 福島 弘子  
河内長野市 木見谷孝代  
防府市 坂本 加代  
八王子市 川名 洋子  
松山市 栗田 忠士  
大阪市 高杉 力  
羽曳野市 徳山みつこ  
大阪市 江島谷勝弘  
鳥取市 夏目 一粹  
大阪市 若本 安代  
土佐清水市 辻内 次根  
河内長野市 原熊知津子  
大阪市 柴本ばつは  
三田市 谷口 修平

電話より虫の知らせが先届く  
お互いに蓼食う虫で結ばれる  
メールの虫並んで車内静かです  
スマホ蔓延絶滅危惧種本の虫  
虫博士になると五歳の宣言書  
にぎられた手のひらダンゴ虫5つぶ  
縁薄い母の化身か糸とんぼ  
キャンパスを覗いて行つた赤トンボ  
古書店を素通りできぬ本の虫  
虫喰いの栗は素直に水に浮く  
虫も殺さぬ顔で豚足食べている  
フランスへの旅行はいやと蝸牛

神戸市 近藤 勝正  
大阪市 田中ゆみ子  
奈良県 渡辺 富子  
札幌市 三浦 強一  
鳥取市 福西 茶子  
奈良市 山本 昌代  
貝塚市 石田ひろ子  
横浜市 菊地 政勝  
大阪市 樋口 眞  
今治市 渡邊伊津志  
八尾市 宮崎シマ子  
大阪府 米澤 俣子  
門真市 坂本 星雨  
鳥取県 山下 節子  
堺市 村上玄也  
弘前市 高瀬 霜石  
大阪市 平井美智子  
富田林市 片岡智恵子  
広島市 松尾 信彦  
丹波篠山市 酒井 健二

脱走のアリ追跡のランドセル

軸

天

地

人

佳

句

「知る」

(投句 217名)

坂本加代選



知る権利楯に切り込む週刊誌  
犬の名で挨拶をするお知り合い  
スイッチオン知る喜びが走り出す  
知りたいことまだまだあつていそがしい  
被災地から元気な声が来て安堵  
まだ米寿知りたいことがたんとある  
知らされる四季ワクワクの散歩道  
やつと今あなたの涙すくい取る  
正解はないと知ってる夕茜  
信号を待たせて知った杖の意地  
枯葉から風が来たことを知る  
知り得ない人の心の裏の裏  
知恵袋たまに逆さに振ってみる  
よく見たらほくにもあつた力瘤  
知らなけりゃ良かった過去形の話  
知っている振りして真相に迫る  
身に過ぎた妻だと知ったのは家裁  
特ダネを知ってたように聞く上司  
フェイスブック貴方の今を知りたくて  
この道が回り道だと知るおぼろ

横浜市 加藤 佳子  
八尾市 山根 妙子  
唐津市 坂本 蜂朗  
四條畷市 吉岡 修  
堺市 坂上 淳司  
三田市 北野 哲男  
寝屋川市 川本 信子  
三田市 上田ひとみ  
大阪市 平井美智子  
鳥取市 夏目 一粹  
海南市 小谷 小雪  
山口市 青木 隆子  
奈良市 大久保真澄  
弘前市 高瀬 霜石  
三原市 鴨田 昭紀  
松山市 宮尾みのり  
堺市 澤井 敏治  
富山市 伴 よしお  
大阪市 高杉 力  
富田林市 関 よしみ

ヘルスチェックいつも甘めに自己評価  
真相を知りつつ貝のまま眠る  
自己愛を魚眼レンズで確かめる  
横断の仕方こどもは知ってる  
ダイジェスト読んで知ってる顔をする  
君を知る前に純愛砕け散る  
あれそれがやたらと増えて歳を知る  
桜より短い命知らされる  
会釈されさせて誰なのか悩みだす  
辞書の森知らぬ言葉が列を為す  
酸欠で知った空気のような人  
聞かぬ振り知らぬ振りにも思いやり  
佳句  
バランスを崩さぬ様に足るを知る  
「俺生きとんで」震災二日後の電話  
英語は知らぬ身振り手振りの津軽弁  
蠢いた第六感が冴えわたる  
自己主張マイクがひとつあつたなら  
人  
知るまでは知られるまでは愛だった  
地  
ヒロシマを知ったら声がデカくなる  
天  
充分に知っているから知らんふり  
軸  
知り合えて余白を埋める黄の小菊

羽曳野市 中川ひろ介  
大阪市 小野 雅美  
宮城県 月波 与生  
岩国市 上村 夢香  
松山市 栗田 忠士  
笠岡市 藤井 智史  
池田市 上山 堅坊  
倉吉市 牧野 芳光  
弘前市 稲見 則彦  
大阪市 古今堂蕉子  
和歌山市 土屋起世子  
西宮市 福島 弘子  
高槻市 富田 保子  
和歌山市 まつもともとこ  
弘前市 福士 慕情  
下松市 有海 静枝  
黒石市 北山まみどり  
佐賀県 真島久美子  
三原市 笹重 耕三  
榎原市 居谷真理子

# 初級教室

題 — のろのろ

高瀬 霜石

今回の題は「のろのろ」。前回の題「先生」と違い、今回のような題は——ちゃんと句意が伝わりさえすれば——わざわざ句の中に題を詠み込まなくともOKと、初心者の方に、弘前川柳社の先輩から教わった。

「関東は、あえて入れない。なぜなら、川柳のルーツは前句付だから。題を詠み込まないのが上品。一方、関西は、必ず入れる。入れないと、まず抜けない」と言う人もいた。

臆曲がりの僕は、そんな忠告をほっぽらかして——いい句を作れば、そんな細かいこと、どうだっていいべき——と生きて来た。

前置きが長くなり申し訳ない。なにせ僕は東北人 青森県民。関東文化圏の者。「川柳塔」は、関西が本拠地。編集部の人たちは、今回の評に頭を抱えるに違いない。そして、彼らは決断する。今回で、霜石は、クビだ。

①上の言葉と、下の言葉を入れ替えてみる。

(▼が原句。▽が参考句)

▼立ち話犬ものろのおつきあい (彌良子)  
▽愛犬もおつきあいする立ち話

これだと、題が入ってないじゃないかと、作者は思うはず。でも、大丈夫。「立ち話」があるのでなんとなく分かる。読者が、ちゃんと「のろのろ」の状況を想像してくれる。

▼道の端自転車避けてのろのろと 忠志  
▽自転車避けてゆっくり道の端

初めて投句してくれた忠志さん。感謝。つたない者ですが、よろしく頼みます。

▼のろのろと渋滞覚悟十連休 のぞみ  
▽渋滞という言葉が出れば、それはもう「のろのろ」は不要。もつとシンプルに。

▼渋滞は覚悟のうえの十連休  
▼のろのろと鳶の葉壁を呑んでいる 一平  
▽「呑んでいる」がピンとこない。ごめん。

▼のろのろと鳶の葉壁を這っている  
▽鳶の絡まるチャペルで——と、ペギー葉山が歌ったなあ。言葉の順序も変えてみる。

▼のろのろと壁を鳶の葉這っている  
▽焦らずに鈍行の道 一行詩 隆子

▼鈍行の道焦らずに 一行詩

▼過疎の村のろのろ走る路線バス 由紀子

▼路線バスのろのろ走る過疎の村

▼老いの日々右膝のろのろ指図する 整

▽右膝の指図のろのろ老いの日々

前述の忠志さんは、左足がもどかしいそうです。皆様、足、膝、腰、ご自愛下さい。

②言い過ぎていないか？読者に、推理させ、想像させる。これぞ、読者サービス？

▼汽車ポッポのろのろ運転危険なし 嘉昭

▼のろのろの運転もよし汽車ポッポ

▼のろのろと放射能策何時帰れる 勝治

▼のろのろと放射能策何時帰れる

▼のろのろと放射能策何時帰れる

▼のろのろはスピード違反の時節 千代

▼のろのろはスピード違反の時節

▼のろのろはスピード違反かもしれぬ

▼「かもしれぬ」という下五は、とても安易

な言い回し。だから、できれば使わない方が

いい。そう、普段から教室でも言い、僕

も実践してきた。でも、ここは「かもしれ

ぬ」の方がいい——かもしれない。

▼ノロい子を叱らず褒めて伸ばしたい 弘美

▼ノロい子も個性叱らず伸ばしたい

▼恐妻家金魚のフンもまた気楽 利尚

▼恐妻家金魚のフンに徹して

▼のろのろと走っているも亀は勝つ (貞正)

▼のろのろのように見えても亀は勝つ

▼矢野監督やっただ急がずこれからだ (東美智子)

愛情が濃いと、ついつい言い過ぎてしまう

もの。言い過ぎを避けるため、敢えて、繰

り返し (リフレイン) を試みるのも手。

▼矢野監督よこれからだこれからだ

▼あわてない追い越されてもマイペース 子

▼追い越されても追い越されてもマイペース

▼のろのろが歯痒くなって手が出てる 紀美代

頭が重くなっても、リズムを重視して。

▼ついついつい手が出てしまう歯痒くて

▼ロスタイム時間稼ぎのパス廻し 通則

アレにはガツカリしました。だから素直に。

▼ロスタイムがっかりさせるパス回し

③もっと適切な言葉がないか——考えてみる。

▼鈍行でゆっくり行くのが性に合う 勝正

▼鈍行でゆっくり行くが性に合う

中八の「の」を取れば、スッキリ。鈍行

ゆっくりだから、コレも取ってしまった。

▼鈍行の旅がわたしの性に合う

▼老いていくのろのろだけど老いている 美枝子

佳句。これで勿論OK。ただ、ここは、あ

くまで参考句の欄だから、こうして逆にし

てみても面白いんじゃないかと思ってさ。

▼老いているのろのろだけど老いていく

→ (現実)

→ (未来)

▼世の中をのろのろついで行く老後 (川信)

▼世の中におっとりついで行く老後

▼返納したら助手席だまれと息子言う 善輔

言いたいことはよく分かるが、どれを削

って、どう処理するか……せいせい……

▼返納をした助手席が口を出す

▼渋滞に車ののろクラクション 千賀子

▼渋滞に鳴らしちゃならぬクラクション

▼年毎にペース落ちてるそれなりか 開子

▼年毎にペースが落ちるそれどいい

▼のろのろおつちよこちよいもする花見 徳利

おつちよこちよいに対して、それなりの役

者を登場させないと。頭が重くなっても。

▼のんびり屋もおつちよこちよいもする花見

○は佳句。◎は優秀句

○目標へ脇目も振らぬ蝸牛

よしお

○のろのろと終活準備始めている 貴美江

○ゆつたりと時計が動く過疎の村 みちを

○のろのろと歩いてみたい時もある 久直

○五本指靴下履くに十五分 なつみ

○のろのろのつもりはないがそうらしいくみ子

○のろのろと歩いてみたら春がいた 廣光

○バトカーがのろのろ運転させている 道子

○五回目のデートようやく手を握る 剛

最後の2句、大いに笑った。笑わせて下さ

り感謝。さて、今回も、卒業生が2人。ま

ずは、丹羽美恵さん (三田市)。

○のろのろと夫の後を五十年 美恵

○いざとなりや素早い動き見せる妻 美恵

○雨上がり引越して居るかたつむり美恵

1句目と2句目が、連動していて面白い。

そうなると、当然卒業です。もうひとかた。

お名前が似ている池田美穂さん (米子市)。

○のろのろが嫌いで桜パツと散る 美穂

○のろのろじゃない優雅と言いなさい 美穂

○のろのろの亀に一度は油断した 美穂

このお2人。名前に「美」が付くが、字も

上手。美しい。そう、字は体(態)を表す

——なんて、言わないか。ハ、ハ、ハ。

# 川柳塔鑑賞

同人吟 前 たもつ

— 6月号から

幸せな家にてつかい窓がある

両川 無限

町並が好きでよく町を散歩します。頑丈そうな小さな窓よりも大きなガラス戸の窓のある家が好きです。明るい電灯から幸せが洩れて来そうです。

大らかな句のつくりがよい。

見てみたい気もする百歳の景色

前田 楓花

百歳以上の人は間もなく七万人に達すると聞く。私はまだ数えの米寿で百歳には遠いが、百歳の景色を見て見たい気持は同じです。二行のリズム感

ホカホカの令和という字書いてみる

細田 裕花

新元号に平和な御代を託す民

山下 凱柳

新元号の句はざつと五十句ほどあり、代表してこの二句。令和時代に穏やかな世を祈る気持が伝わってきます。

人生百年後期高齢まだひよこ

海老池 洋

久しぶりに二月号で「ひこばえと命の話したくなる」等の元気な句を見つけ、安堵しました。その後も前向きな句ばかりです。これからもお元気で卒寿のひよこの佳句を見せてください。

何も無い時間が欲しいふと思つ

川端 一歩

憧れたはずの時間をもてあます

栗田 忠士

「むざむざと使える金が少し欲しい」と麻生路郎先生。「何も無い時間が欲しい」は一歩さん。反対に「時間をもてあます」のは忠士さんです。

知らん間に死んでいたというのが理想

谷口 義

知らん間は当然自分です。ピンコロリンなんて言わず、「知らん間に死んでいた」はうまい。

ニゲンを外野席から覗く趣味

古久保 和子

檻の中からでなく、外野席から人間を覗く発想はユニーク。下五を覗いているとせず、覗く趣味としてよい。

花筏亡妻が乗つていませんか

内海 幸生

お孫さんと賑やかに暮していると聞いていましたが、何年たっても花筏を見るとありし日の亡妻を思い出されるのでしょう。ユーモアを感じます。

ふる里を持つてる人の大らかさ

池田 純子

ふる里を持つているがこの句のように大らかさを思ったことがない。今考えてみると、ふる里のきれいな谷川、青い空、いっぱい心の隅に抱いています。純子さんの大らかさがわかる気がします。

チコちゃんへ傘寿もボーッと駄目ですか

藤原 大子

傘寿生きててもぼーっとしておれば、騙されたり、詐欺に合ったり、車に当てられたり、物騒な世の中。きつとチコちゃんの「ぼーっと生きてんじゃねーよ!」の啖呵が出そうです。

嘘つきは上に立つてはいけません

大久保 眞澄

ずばり言い切つてよい。「お月さま嘘つく国になりました」私もつくりました。嘘は政治家だけでなく、財界や企業にまで及んでいるから困ります。

オーケストラバックに演歌うたいたい

吉岡 修

93歳にしてこの気力。何箇所も句会に出ておられます。「石一つ投げて波紋を待ってみる」こんなゆとり句も。

思惑とは予定が違う老いがくる

大治 重信

迎えたくなかつた喜寿がおもしろい

岩崎 玲子

傘寿代は一月ごとに老化が来るとどこかで読む。確かに傘寿の老化ははやい。喜寿はまだ老化を楽しむゆとりがありません。未知の老いを面白く過しましょう。

十連休していいの日本

奥 時雄

「意義深い祝日はかり増えてくる」という句もあり、景気が下降きみの中、祝日を増やしていく日本に対して、十連休などしいていいのか問うている一句と読む。

歯車がおんなじ向きに回り出し

井丸 昌紀

えらいこっちゃ。歯車が同じ向きに回り出したと世相を鋭く見ている井丸さんを思い浮かべています。

付度政治、大臣の失言：それでも内閣支持率は下らない。主張を持たぬ歯車が同じ方向に回り出し、止まりません。

好奇心まだまだあつてジム通い

若本 安代

鈍いぞと揶揄してみる好奇心

辻村 ヒロ

レオナルド・ダビンチの好奇心は桁外れで旺盛であつたらしい。あの秋元康さんの好奇心も作詞、作曲、演出：と止まらない。安代さんのジム通いの好奇心は凄い。ヒロさんの好奇心を揶揄してみるには参りました。

本当に自由に詠んでおりますか

岩佐 ダン吉

五月三日の天声人語に「梅雨空に「九条守れ」の女性デモ」の句を公民館が掲載を拒んだ記事が出ました。こんな時代だからこそ、川柳諸君、川柳を自由に詠みましようというダン吉さんのエールの句。

アンパンとビールに勝つことができぬ

江島谷 勝弘

アンパンとビールに勝つことができぬくらい好きな人。どんな人柄か想像してみてください。そう、そんな人です。勝つことができぬのはこの句の命。

虐待の親知ってるか子守歌

山下 節子

虐待の親はきまつて、嫉でやった。死ぬとは思わなかつたという言葉を吐く。作者は、子守歌をうたつて抱きしめたことがあつたのかと、言いようのない怒りをぶつつけたかたのです。

心配せいで死ぬ時くれば死ぬ

奥澤 洋次郎

新約聖書に「人間には、一度死ぬことが定まつている」とあります。

洋次郎さんはもう死ぬ覚悟を決められていられるようで立派です。私も死ぬ時の覚悟をせねばと思つています。

生きている日目が健康記念の日

川崎 ひかり

生きている日目を「健康記念の日」とはご尤も。表現も適切です。結婚五十七年目とか。ご主人の分も生きてください。

# 水煙抄鑑賞

— 6月号から

福西茶子

笑い合うそれができれば大丈夫

近兼敦子

体調が悪かったり、心配事があると笑えません。笑い合えるのは幸せな証拠。

悩み事モグラたたきのごとく尽きず

中島通則

次々と顔を出すモグラを力任せにたたきたいが、その力も失せてきた。ならば、来る者は拒まずで気楽に生きましよう。

家族みな禁煙してるタバコ店

宮本千恵子

喫煙をして肺がんになってもなったら、商売上がったり。禁煙は正しい選択かも。

都合よく老人パワーつかい分け

あら さくら

夫の前ではヨロヨロしているも、友達とランチのときはシャキッと腰が伸び、顔もほころびます。それでよし。

十連休田畑は待つてなとくれぬ

池田美穂

行楽も連休も関係のない農家。美味しい野菜作り。元氣だった父母を思い出しました。田舎はいいですね。

信念をもってポーツと生きている

岸田万彩

ポーツと生きる信念？つまり、利口な馬鹿になるといふことですか。難しいけど素晴らしい生き方。

平成の最後最後と森しい

樋口眞

平成の昨日も、令和の今日も特に変わったこともなく終わった。テレビ、新聞は賑やか。ただ平穏を願うのみ。

要らぬ皿割って不満の八つ当り

貝塚正子

気持ち、十分理解できます。石ころを蹴って転ぶより、皿の方が十分安全。ただし、後始末が大変！

いざこざの起るあいだは脈がある

松本ゆかり

相手に期待するから不満も出る。浮遊物と思えば、無視もできるし、腹も立たぬ。ずっと、人間でありますように。

墨ツボを使わぬ家が建つていく

原德利

ピシッと糸をはねて線が引ける。材木を自由に切り、組み合わせて家を建てる大工さん。今では化石に近い人材ですね。AIの家を信じましょう。

入学式に呼ばれシャッター押す係

米田利恵子

なんで私が呼ばれたの？そうです。頼られているからです。頼られたからには、握りまくってやりましょう。

握手こそしたが腹わた煮えたぎる

久保木剛

とかく人間の社会は住みにくい。なんとかが折れるのか；納得できないが、折れた方が大人なのですね。

これからは私が母の母になる

青木隆子

初任給初めて着る父に酒

岩口 のぞみ

母の愛まだ半分も真似できず

大前安子

父母から受けたいろいろな恩愛。思い出すだけでもウルウルに。父さん、母さん、本当にありがとね。



## 令和を迎えて

平成に続く新しい元号は「令和」となりました。4月1日に発表され、5月1日に改元となりましたが、その22日には「令和夢追い太鼓（松阪ゆうき）なる歌が発売されたのには驚きました。もちろん、川柳作家諸兄もしつかり受け止めて記念すべき作品を生み出しています。

どこまでも富士は脈打つ令和明く

字姿の気品ただよう令和なり

新元号日本の雅とりもどす

祝令和優美な日本よみがえる

書教室まずは令和の書きくらへ

一画目心を込めて令と書く

蓮の葉の露を硯に書く「令和」

筆文字で書くと令和が映えてくる

元号に対する想いは人さまざまです。好感を持っていない人もいるでしょうが、大多数の人は抵抗感なく受け入れていくようです。また、「どのような元号に？」と期待を込めて待っていただけに、官房長官が掲げた「令和」を凝視して日本中がどよめいたほどの印象を受けました。その字姿の美しさを愛でながら筆を執った人も多いことでしょう

元号のそしゃくに手間を惜しまない

令和令和と百回言えば慣れてくる

はつきりとレイウと言えた長い舌

朝顔を植えて令和を楽しもう

永見 心咲

坂本 加代

佐藤 まき

宮宅比佐恵

山根 妙子

小谷 小雪

伊藤 玲峰

板垣 孝志

仁部 四郎

前田 楓花

米澤 俣子

加島 由一

それぞれの花咲かせよう令和年  
ポシエットに令和の風をしまい込む  
令和の世にもダーウィンのメッセージ  
新元号決して零和とならぬよう  
都倉 求芽

何ごとも慣れるまでにはギクシヤクするもので、「令和」が肌に馴染むまでには数年かかるでしょう。その「手間を惜しまない」ことを具体的に言えば「百回言う」でしょうか。新しい元号になっても、私たちの暮らしが変わるわけではありませんが、心機一転これまで以上に「こころ豊かに、それぞれの花」を咲かせたいものです。ダーウィンの「互いに尊重し共存しなければならぬ」はヒト科の使命です。

明るい国へ新元号と新紙幣

令和には諭吉が姿消すそうなの

改元のおかげで印刷屋

早々にあやかりセール新元号

令和価値つけて商魂抜け目なし

新元号老眼鏡を買い替える

令和Fバー詐欺の口口に用心

よく釣れる新元号をつけた鉤

4月9日の閣議後の記者会見で「5年後に新しい紙幣を発行する」と財務相から発表がありました。「なぜ、5年も前に発表するのか？」といろいろな憶測を呼んでいるようですが、見慣れた諭吉さんが消えるのは少し淋しい気がします。

改元に乗じた記念セーブルも盛んで、「老眼鏡」を買い替えた人もいます。しかし、商魂以上に逞しいのが詐欺師たち。くれぐれも騙されないようにご用心ください。

渡辺 芳子

延寿庵野鶴

斉尾くにこ

都倉 求芽

藤井 則彦

宮田 風露

副井ゆたか

福島 弘子

田桑 恵子

森松まつお

川島 良子

萩原 狸月



(投句212名)

改元だの十連休だのと  
言っている間に今年も半  
分過ぎてしまいました。

また、夏とはいえず、こ  
このところの暑さには  
グツタリしてしまいます。

川柳の先輩たちから聞  
かされていた年齢から来る身体の不具合  
への警告、あれはオドシではなく、思い  
やり溢れる有り難いお言葉だったんだと  
今頃になって痛感している次第。  
では、ナビです。

神戸市 奥澤洋次郎

元号が変わっただけのことなよ

(評) ホントにその通り、ちよつと騒ぎ  
過ぎたような気がします。消費税が上  
がるなど、厳しい現実が待っているのに。

三田市 多田 雅尚

連休の疲れ出たので休みます

(評) あはは、本当に長かったですねえ。

サイフは軽く、身は重く、なんて人も結  
構多かったりして。

土佐清水市 辻内 次根

代官と越後屋が食う豆ごはん

(評) ワルの揃い踏みじゃあないですか。  
それにしても食べているのが豆ごはん  
なんて、かわいい。

弘前市 福土 慕情

晩学の雲にヨイショと乗ってみる

(評) これはご立派です。ひと口に晩学  
なんて言っても、掛け声だけで終わつた  
人、知っているもんね。

丹波篠山市 酒井 健二

知らぬ人ばかりの旅で気が楽な

(評) こんなものかも、と思いました。  
知り合いが居れば心強さもあるけど、煩  
わしいことも多いことでしょう。

鳥取県 斉尾くにこ

追い風はくるつと向い風になる

(評) 昨日の友は今日の敵、この通り、  
状況はくるくると変わってしまうのです。  
でも、目をそむけてはなりません。

黒石市 北山まみどり

運命のいたすらだつた着地点

(評) どこに着地するかによつて出会う  
人、出会えなかつた人。運命という言葉  
が似合う出来事つて結構あるみたい。

宮城県 月波 与生

生きつらいですか自己紹介しましたか

(評) 自分の方から努力することで避け

られる摩擦も多いでしょうね。でも、得  
手不得手があり、なかなかキツイです。

大阪市 宇都満知子

フレッシュな弾力モッツアレラチーズ

(評) モッツアレラチーズの弾力は恥ず  
かしながら知りませんでした。今度、指  
で突っ付いてみようつと!

奈良市 山本 昌代

前を向くきつときつとを信じつ

(評) 前向きに生きてさえいれば、来る  
んですよね、シアワセなんですというご褒美  
が。待ちどおしいことです。

堺市 内藤 憲彦

ほんとうに平和だろうか考える

天国に住む友達が増えました  
ゆくゆくは雲の尻尾に棲むつもり

大阪市 平賀 国和

バスタブでモンローの真似ご満悦

三ツ編みを解いて忘れて忘れの桜貝

米子市 八木 千代

頬杖をつけばフランス映画なり

雨空の憂うつ私の憂うつ

羽曳野市 中川ひろ介

寝過ぎたら果報はスルーしてしま

電子辞書言葉の海で溺れそ

大阪市 原田すみ子

河内長野市 木見谷孝代

人間が作る寂しい境界線  
神戸市 富永 恭子

気合い込め挑戦ランク一つ上げ  
和歌山市 上田 紀子

お隣のバラにはトゲがありません  
長野県 丸山 健三

着ぐるみを脱いで心の日向ぼこ  
大阪市 藤田 武人

一杯のワイン天国まで近い  
豊中市 水野 黒兎

月下美人僕の睡魔を待つて咲く  
松山市 栗田 忠士

前向きになれよと肩を叩くだけ  
大阪市 小野 雅美

朝だけは街の空気も旨いです  
明石市 糀谷 和郎

五時代を生きた私はいくつでしょ  
堺市 澤井 敏治

沈んだらあきまへんでと泡の声  
大阪市 柴本ばっは

考えが違くと鼓動まで違う  
鳥取市 夏目 一粋

インスタ映えカードローンは考えず  
松山市 宮尾みのり

寝てみたら雲の上ってこんなもの  
米子市 池田 美穂

ロマンまだくすぶっている火消し壺  
和歌山市 武本 碧

コンサートピタミンMを補給する  
大阪市 石橋 直子

昨日から真っ白でいる人嫌い  
藤井寺市 鴨谷瑠美子

そら豆は莢に居た日を思い出す  
大阪府 米澤 俣子

LEDたまには休暇あげたいね  
西宮市 福田 正彦

茶飯事の持ちつ持たれつ落ち着ける  
三田市 足立つな子

月旅行往復切符発売中  
唐津市 仁部 四郎

漢方薬恋の病に利きません  
弘前市 高森 一吞

十連休だって浮かれてんじゃねーよ  
三原市 笹重 耕三

神秘さえ売るのですかと月の声  
大阪市 古今堂蕉子

抱き止めてくれたあなたに恋をした  
香芝市 大内 朝子

中綿が露出し過ぎているソファ  
沖繩県 森山 文切

万一に備え方舟予約する  
千葉市 海老池 洋

ラブレター赤いポストの無表情  
高槻市 富田 保子

いい人はやっぱり早よう逝きはるわ  
大阪市 江島谷勝弘

弱い者いじめはしない餓鬼大将  
西宮市 高橋千賀子

予定なし今日の時間を独り占め  
防府市 坂本 加代

苦しみをちっぽけにする青い空  
門真市 坂本 星雨

勦斗雲スピード違反くり返す  
札幌市 三浦 強一

柔らか過ぎるクッション墮落するヒト科  
河内長野市 梶原 弘光

ホリエモンの宇宙観つてところですよ  
弘前市 稲見 則彦

たわいもない話 電話一時間  
熊本市 杉野 羅天

お互いに空気抜ければおしまいね  
米子市 吉田 陽子

極楽の下見なるほど花盛り  
生駒市 飛永ふりこ

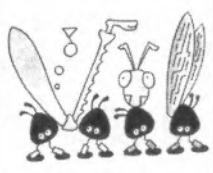
やび医者とわかり余計に悪くなる  
大阪市 樋口 眞

特大のパフェで二人は仲直り  
和歌山市 定松 宏枝

点滅の信号彼と別れよう  
和歌山市 山端なつみ

万葉集買ってきました見栄を張り  
三田市 大西 重男

### 9月号発表 (7月15日締切)



(平本 勝彦 画)  
柳箋に2句

# 本社 六月句会

◇六月七日(金) 午後一時  
アウイーナ 大阪

梅雨入りも近いと思わせる雨の七日、本社句会は百三十二名(内投句者十一名)の参加で開催された。初出席は奈良県の中堀優さん、豊中市の上出修さんのお二人。句会に先立ち過日亡くなられた同人、酒井真由さん(丹波篠山市)に黙祷を捧げた。

今月のお話は柿花和夫さん。題は「なにわ柳壇入選句で平成回顧」。和夫さんは薫風師とのご縁も深く、二十年以上なにわ柳壇への投句を続けられ、既に入選句も三百を越えておられる。平成11年から30年まで、ご自身の句も含めて時事吟的な入選句を紹介しながら世相を辿ってお話された。(作者名省略)

地球ぐるみの転機となった9・11 (H15)  
介護する親とおなじ薬飲む (H21)  
返納への思いは千々に免許証 (H29)  
会場は思いを深くして聴き入っていた。(眞澄)

月間賞は荻野浩子さん(堺市)  
(司会)眞理子・志津子 (協取)千代・隆彦  
(受付)宏子・寿之 (懸垂幕墨書)耕治  
(清記)憲彦・勝弘

## 席題「流行る」

平井美智子 選

戦時中に流行った名前です勝まさとし 木本 朱夏  
フラフープ流行って腰を鍛えられた 三宅 保州  
たまごっちどこかに置いてある筈だ 小島 蘭幸  
美人にも流行り廃りのある浮き世 森田 遊子  
パリコレで果鴨歩けば機動隊 村田 博  
流行はわざと外しているのです 森田 遊子  
マイブームいまはアポガド納豆で 上田ひとみ  
アルパカが夏バージョンに刺込みで 関 よしみ  
流行は追わないわたしアッパッパ 酒井 紀華  
気を付けるアポ電信じ丸裸 斎藤 隆浩  
ニートからひきこもりへの太い道 岸田 万彩  
自国主義流行り難民あえいでる 柿花 和夫  
僕はガラケースマホがいくら流行ろうが 鈴木いさお  
喜寿ですがお手のものですチャリスマホ 新家 完司  
新元号万葉集を流行らせる 平賀 国和  
サビた看板はやりすたりを物語る 山口弘委智  
穴あきのズボン流行っている不思議 平松かすみ  
一ヶ月経てば名前も出ぬ事件 阿部 俊八  
事故続き免許返せと言われても 村田 博  
もったいないお尻でルーベ踏むなんて 加川 靖鬼  
土砂降りになってしまった日傘デビュー 新家 完司  
父ちゃんはゴルフわたしはホットヨガ 内藤 憲彦  
爺ちゃんが唄う昭和の流行り歌 坂 裕之  
得体知れぬ事故流感のようになる 和気 慶一

流行のちゃんい男を道連れに 木本 朱夏  
これからは美女と野獣がはやるらし 吉村久仁雄  
捨てられぬ恋チーズハットグの串 藤井 智史  
ミニスカート一度ははいてみたかった 能勢 良子  
また流行るかもと古着は取つてある 村上 玄也  
時代遅れの僕の先取り流行風邪 石田 隆彦  
鯖缶は流行る前から常備食 原田すみ子  
国賓でまた流行りだす炉端焼き 澤井 敏治  
流石だねトランプ語録流行らせる 福田 正彦  
流行ってた文具屋今は百均に 坂 裕之  
生前葬流行りに乗って終えまじした 渡辺 富子  
ぶつかるまであつちが逆走と思ひ 島田 握夢

佳  
流行りなど無縁の父の千枚田 渡辺 富子  
フエイクニュース流行ると海が荒れてくる 伊達 郁夫  
ポジティブに生きる私を流行らせる 小野 雅美  
そだねーも時々耳にして令和 松原 寿子  
青い空あとは何にも気にしない 岩佐ダン吉

人  
流行るだけ流行らせゆるキャラの孤独 小野 雅美  
地  
流行は追わぬタイサンボクの白 荻野 浩子  
天  
流行りだといえは象にも乗ってみる 中村 恵  
軸  
レトルトの恋かわりならたんとある

兼題「計算」

細川

花門 選

徳利の数と合わない請求書  
 電卓に青息吐息する家計  
 計算が合うてるあの子あんたの子  
 計算が苦手な母の五目飯  
 人生の御破算少し待ってこれ  
 計算がくるって母になりました  
 ここでギャグ計算通り笑ってね  
 十月十日を指折り数え首傾げ  
 ブラックホールまでの計算気が遠くなる  
 あれこれと考えているヒマはない  
 カロリーの計算酒を不味くする  
 勝つための野党連合あるらしい  
 「わしのおこりや」なんて計算できぬだけ  
 計算のないやさしさが胸を打つ  
 方程式解けてにっこり心太  
 ソロバンが欠伸している父の部屋  
 家計簿は合っているのに足りません  
 計算をされた介護にある寒さ  
 握手する袖から覗く計算機  
 ソロバンで決める女の味気なさ  
 終末のカウントダウン始まった  
 計算は弱く割り勘には強い  
 少年の掛け算夢は無量大  
 妻と僕足して四人になりました

萩原 狸月  
 米田 恭昌  
 古今堂蕉子  
 平井美智子  
 福田 正彦  
 山下 純子  
 柿花 和夫  
 島田 握夢  
 油谷 克己  
 上田ひとみ  
 新家 完司  
 内田志津子  
 安土 理恵  
 中村 恵  
 田中ゆみ子  
 平松かすみ  
 中岡千代美  
 伊達 郁夫  
 内藤 憲彦  
 酒井 紀華  
 和気 慶一  
 大久保眞澄  
 山野 寿之  
 敏森 廣光

計算に無かった老いが纏い付く  
 引き算はきらい足し算は大好き  
 煙出し客を呼び込む焼き鳥屋  
 カラフルな薬数えて生きてます  
 裏の裏読んでる人の裏事情  
 数学のロマン先史の壁画より  
 持ち金と生命線がけんかする  
 計算も打算もあつて面白い  
 近道を教えてくれるピタゴラス  
 ビニール傘差しかけ計算などないよ  
 付度を計算式に組み入れる  
 僕ならばいくらなんやろ保釈金  
 損得の計算ハート捻じ曲げる

森 廣子  
 指宿千枝子  
 藤井 宏造  
 山崎 武彦  
 宇賀 史郎  
 森田 旅人  
 古今堂蕉子  
 榎本 舞夢  
 澤井 敏治  
 矢倉 五月  
 松岡 篤  
 堀 正和  
 新家 完司

兼題「手」

山田

葉子 選

手のひらにある運命に逆らわず  
 右の手で握手 左の手は拳  
 いつの日か子らへ手渡しするパトン  
 腹立たしい手相金運いいと言う  
 手を伸ばしスマホ耳かき虫めがね  
 娘の育児手出し出来ない事だらけ  
 ポックリ死神も手を焼く願ひ事  
 節高い指は奥の手など持たぬ  
 もう僕の手には負えない妻となり  
 妻の手が握る財布も健康も  
 増えている助け求める小さな手  
 勝負事手加減すれば墓穴掘る  
 神の手のオベで一名とり止める  
 手をかけて心をかけた自家野菜  
 寝息たしかめゆつくり放す握った手  
 絵手紙に心の音符よく弾み  
 晩婚運だけは当たっていた手相  
 親介護あと二三本手が欲しい  
 拳骨のままでは握手できないね  
 健康に育てと撫でるもみじの手  
 手から手に平和のバトン渡したい  
 手の内を見せて仲間輪に入る  
 守るため抱きしめるためこの両手  
 躓けば手の平かえす風見鶏

伏見 雅明  
 清水 英旺  
 初代 正彦  
 島田 握夢  
 齋藤さくら  
 村田 博  
 長谷川崇明  
 西出 楓葉  
 森松まつお  
 山本希久子  
 上山 堅坊  
 佐々木満作  
 鈴木いさお  
 石田 隆彦  
 矢倉 五月  
 楠井 輝子  
 清水久美子  
 松岡 篤  
 新家 完司  
 古今堂蕉子  
 大内 朝子  
 藤原 大子  
 上田ひとみ  
 黒岩 靖博

介護士のごっこつして居る優しい手  
ボラソテアの手話通訳は温かい  
一度だけ手と手が触れた片想い  
透明なあしたの風と手をつなぐ  
よく働いた手ですごこつ愛おしい  
手書きからあふれるほどの思い遣り  
手土産を見れば良からぬ予感する  
爺ちゃんの修理工場魔法の手  
触つてないオレの両手は吊革だ  
若人の造る新語にお手あげだ  
あやとりは手が覚えてる昭和の子  
この手でもよければお貸しします  
手のかかる料理はやめた喜寿の妻

柿花 和夫  
三宅 保州  
新家 完司  
鈴木 かこ  
松尾美智代  
松原 寿子  
澤井 敏治  
内田志津子  
岸田 万彩  
上山 堅坊  
能勢 利子  
山岡富美子  
堀 正和

ボケットをはみ出さずんこつの不満  
手の内を知りつつ騙されるも愛  
手相には結婚線が出てるのに  
お手本は農一筋の父の背  
手の足りん時だけ声を掛けて来る

小山 紀乃  
古今堂蕉子  
今井万紗子  
藤井 宏造  
坂 裕之  
鴨谷瑠美子  
伊達 郁夫  
富士

転ぶ子に差し出す片手空けておく  
天  
泡立つものしずめて老いと手をつなぐ渡辺  
軸  
手抜き料理文句言わないのが長所

兼題 「うきうき」

村上 直樹 選

平成の孫に令和の子が生まれ  
嬉しくて赤飯買った赴任先  
十連休うきうきするは子供だけ  
雨うけて紫陽花達が踊り出す  
水玉模様のレインシューズを買いました  
空仰ぐ二歳は傘を差したくて  
阪神が勝つと我が家が飲み放題  
手塩にかけた月下美人が今宵咲く  
おばあちゃん大好きだよと孫五人  
満点が歩を弾ませるランドセル  
一輪車うきうき初夏の風乗せて  
うきうきとマフラー編んだ若かった  
ハワイ旅明日の今頃チェックイン  
うきうきと散歩している趣味の森  
思い出の二人西日の四畳半  
浮かれてはおれない先読めぬ令和  
十三面待ち国士無双をてんばつた  
ババママとあしたいいくんだゆうえんち  
ばあ婆うきうき偶数月の十五日  
ハートマーク覚えじいちゃん初メール  
予約日の好きなナースに会いに行く  
家裁出た女スキップして帰る  
妻の留守鼻唄の出る台所  
デート前ファッションショーを鏡前

水野 黒兎  
米田 恭昌  
大浦 初音  
敏森 廣光  
安土 理恵  
宇都満知子  
清水久美子  
和氣 慶一  
古今堂蕉子  
山口弘委智  
平松かすみ  
柿花 和夫  
石田 隆彦  
上山 堅坊  
長谷川崇明  
佐々木満作  
上田 和宏  
阿部 俊八  
鈴木いさお  
美馬りゅうこ  
山田 耕治  
森松まつお  
藤井 宏造  
宇賀 史郎  
母の日の妻は朝から母の顔  
二万円持つてる空は晴れている  
悪いとこ無いよと医者のお墨付  
いいことがありましたかと見破られ  
健脚を自慢しながら歯科眼科  
父の日は父が手料理うれしそう  
白寿へと予約してます月旅行  
古稀過ぎて二十歳も若い骨密度  
まだ傘寿ペンツ運転スイミング  
初めてのあの世うきうき出かけよう  
逢いに行く日傘くるくるの交差点  
うきうきもときめきもあるまだ傘寿  
うきうきとハズキルーペで見る明日

吉村久仁雄  
居谷真理子  
古今堂蕉子  
江島谷勝弘  
山岡富美子  
柴本ばつは  
堀 正和  
清水久美子  
斎藤 隆浩  
新家 完司  
藤井 宏造  
細川 花門  
澤井 敏治

うきうきとあなたとの嘘に酔うている  
ごきげんねだつてこの傘赤いでしょ  
告白をされて廻りが花だらけ  
浮かれてるから小石でも蹴蹴く  
やりたいことを見つけた少女蝶となり  
人間を脱ぎうきうきと花浄土

山田 葉子  
大久保眞澄  
片山かずお  
村上 玄也  
緒方美津子  
渡辺 富子  
中島 一彌

兼題「嘔む」 松原 寿子 選

計画に一枚嘔むが出資せず  
 布嘔んだ背のファスナー持て余す  
 嘔むように飲む牛乳に生かされて  
 心太も蕎麦も嘔んではいけません  
 一滴の雫やがては岩を嘔む  
 嫁ぐ娘に嘔んで含めてさしすせそ  
 手を振って土手のスカンボ嘔みながら  
 魂を嘔み締めしたのは沢蚩  
 嘔み砕いた話で余計ややこしい  
 舌先を嘔むのよサンキューベリーマツチ  
 嘔むほどに味が出てくる万葉集  
 しじみ汁ジャリッと嘔んでから苦手  
 嘔みついた国へミサイルちらつかせ  
 嘔み砕き聞いた増城腑に落ちぬ  
 嘔み合わぬ夫婦会話に油差す  
 嘔み合わぬ親子風穴あいてたら  
 ちびる嘔むかすかに残るレモン味  
 娘の彼にわざと苦虫嘔んでみせ  
 嘔み殺したあくび見られた入社式  
 先手必勝まずはやんわり嘔んでおく  
 コンニャクは嘔めるチューインガムは駄目  
 母に似た小指の爪をそつと嘔む  
 嘔むように味わう美しい句集  
 新卒の嘔んだ言葉の初初し

水野 黒鬼  
 米澤 俣子  
 石田ひろ子  
 小島 蘭幸  
 石田 隆彦  
 川端 一步  
 森 廣子  
 関 よしみ  
 岩佐ダン吉  
 細川 花門  
 平賀 国和  
 佐々木満作  
 平松かすみ  
 齋藤さくら  
 上出 修  
 山田 葉子  
 酒井 紀華  
 村上 直樹  
 中川ひろ介  
 安土 理恵  
 居谷真理子  
 今井万紗子  
 山岡富美子  
 加川 靖鬼

よく嘔んで吟味男ものしいかも  
 女のいくさ唇嘔んで人を褒め

安土 理恵  
 鴨谷瑠美子

兼題「我慢」

小島 蘭幸 選

歯車が嘔み合い始めよく喋る  
 わたくしの小指嘔まれたことがない  
 嘔みついて反応をみる境界線  
 愛犬は嘔まないけれど妻が嘔む  
 嘔みしめた亡母のことばの本意識る  
 プチプチで嘔んでみたいな君の頬  
 もめ事にいつも嘔んでる赤いバラ  
 唇を嘔み締め恋を高ぶらす  
 あの人が嘔むと話がこじれたす  
 旨いけどスルメなかなか嘔み切れぬ  
 嘔みついたらこわい女の糸切り歯

住

藤原 大子  
 山崎 武彦  
 森田 旅人  
 福田 正彦  
 小山 紀乃  
 山下 純子  
 松尾美智代  
 藤井 智史  
 山岡富美子  
 江島谷勝弘  
 荻野 浩子

涙溜めママの呪い待つている  
 シーサーが見守っている美の海  
 お互いに気付かぬ振りもする我慢  
 風雪に耐えた男の笑い皺  
 我慢した分だけ神さまの褒美  
 ざりざりの我慢は過労死のライン  
 地球にやさしい我慢もいもんだ  
 我慢した跡かも知れぬ竹の節  
 朝と昼抜いて夕食大盛りに  
 連敗を我慢しているファンもいる  
 拉致の子をいつまで我慢させるのか  
 この人だから我慢もできたとと思う  
 退職金手にする迄と妻我慢  
 かあちゃんのはやきに耐えて半世紀  
 昭和史に飢餓耐え抜いた夏がある  
 休肝日おとこの無口持て余す  
 じいちゃんの我慢をばあちゃんが誉める  
 我慢力落ちて贅肉付いて来た  
 ここで泣いてはならぬ三歳児にも分かります  
 我慢強い子が泣き出すと止まらない  
 我慢しすぎると上には伸びません  
 てんとう虫肩から腕に這つてくる  
 親指の我慢強さを知ってるか  
 我慢してローン終えたら老いふたり  
 我慢などやめた言いたいことがある

奥田 宗光  
 前田 紀雄  
 山岡富美子  
 山崎 武彦  
 小山 紀乃  
 宇都満知子  
 内藤 憲彦  
 太田扶美代  
 金川 宣子  
 降幡 弘美  
 堀 正和  
 今井万紗子  
 村田 博  
 坂上 淳司  
 和気 慶一  
 美馬りゅうこ  
 平井美智子  
 松岡 篤  
 山本希久子  
 永田 紀恵  
 藤井 宏造  
 上田 和宏  
 居谷真理子  
 平松かすみ  
 岩佐ダン吉

巡る四季愛でて日本を嘔みしめる  
 悔しさを嘔みしめ再起する男  
 悔しさを笑顔に包み嘔みころす  
 ガム嘔んで萎んだ脳を活性化  
 令和元年とくと九条嘔みしめる  
 人  
 嘔み合わせ軋み出したらハグをする  
 とんがった言葉きれいに嘔み砕く  
 天  
 ご忠告味が出るまで嘔み締める  
 軸  
 意地悪な言葉も愛で嘔み砕く

長谷川崇明  
 渡辺 富子  
 上山 堅坊  
 村上 玄也  
 初代 正彦  
 藤井 宏造  
 鈴木 かこ  
 新家 完司

岩谷川美子  
 山岡富美子  
 山崎 武彦  
 小山 紀乃  
 宇都満知子  
 内藤 憲彦  
 太田扶美代  
 金川 宣子  
 降幡 弘美  
 堀 正和  
 今井万紗子  
 村田 博  
 坂上 淳司  
 和気 慶一  
 美馬りゅうこ  
 平井美智子  
 松岡 篤  
 山本希久子  
 永田 紀恵  
 藤井 宏造  
 上田 和宏  
 居谷真理子  
 平松かすみ  
 岩佐ダン吉

ボケットに握り拳を眠らせる 山野 寿之

我慢ほどほど旨いもんでも食べようか 森 廣子

堪忍袋時々バンクしてしまう 荻野 浩子

長いこと妻の料理に耐えている 太田としお

老いをゆく小さな我慢積みながら 山岡富美子

家計簿の我慢に税がとどめ刺す 上出 修

我慢する怒ると命縮むから 上山 堅坊

ハイと言う返事我慢の甲斐あった 鴨谷瑠美子

白寿から我慢の文字が消えました 能勢 利子

トランプが仕切る世界の我慢会 上田 和宏

我慢する亡妻も我慢をしてるだろ 上山 堅坊

カンパイまで喉の渴きは我慢する 木本 朱夏

佳 恋敗れアンモナイトになる我慢 藤井 智史

3年と区切ると我慢できそうだ 立蔵 信子

休肝日二日がボクの限界か 森松まつお

我慢していたら独りになっていた 居谷真理子

ガマン比べ負けた人から霊柩車 新家 完司

人 耐えぬいた涙真珠になりました 木本 朱夏

地 Letitbee我慢はいつか溶けてゆく 西出 楓楽

天 我慢して五百羅漢になりました 荻野 浩子

軸 妻と僕我慢競べはまだ続く

妻と僕我慢競べはまだ続く

妻と僕我慢競べはまだ続く

妻と僕我慢競べはまだ続く

妻と僕我慢競べはまだ続く

妻と僕我慢競べはまだ続く

# 句会 燦 燦

## 五月句会を読む 板垣孝志

千鳥足記憶飛んでも辿り着く 中島 一彌

降りた電車で又乗って 隣の犬に吠えられて 長川 哲夫

疑えば犬は悲しい顔を見せ

「こいつホンマは狸かも知れん」と呟いてイビる。 横山 里子

どの男も酔って覚えがないと言う 柴本ばつは

別嬪と褒めてくれたからタクシー代まで奢ったのに・・・ 小島 蘭幸

父ちゃんより大きいトンボ絵日記に

父ちゃんは自慢にならぬが大きなトンボは自慢が出来る。 柿花 和夫

不時着をしました妻のてのひらに 米田利恵子

あの時にエンジンを潰したのが、なんとも惜しまれる。 平井美智子

派手好きなお友だつたのに家族葬 絵も壺も行く先決めて逝つた父 伊達 郁夫

金遣いが荒かつた故人への意趣返しかも・・・ 敬老を忘れる時代来る寒さ 萩原 理月

それ以来「なんでも鑑定団」を観るのがこわい。 不自由な時代を生きて来た自信 鈴木 かこ

どうぞどうぞと誰も座らぬままの席 謙譲の美德を知らぬ外人が「モツタイナイ」と言う。 久保田千代

生かされている味です。心置きなく存分に 退院日空をまるごと召し上げれ 童謡は母の海へと辿り着く

街に童謡が流れていた頃、帰りを待つ母親が居てくれた。

# 『命のめぐみ』

吉村 久仁雄 著

徳山 みつこ

朝カレー今日やることがたんどある  
さまさまな思いが辞儀を深くする  
と男として太い軸を吐露し——  
盃を手にしてこそその雪月花

フリーきつぷ降りたい駅がたんどある  
シャッターを心で切つて風の旅  
右折するといきなり徴兵制の門

以上、酒も旅も愛し世相にも目を向け、ア  
ンテナは全方位に。然も悠悠たる自然体で  
ある。

空気にもなつて妻とは同志愛  
幸せは平和であつてこそ——  
戦争放棄不都合なんて何も無い  
沖繩を巡るとさわわまだざわわ  
議事堂の空でムンクが叫んでる  
そして鶴彬が今に凜と立つ

力強く前へ前へ——  
靴ひもをキリリと結び医者通い  
ばくばくと食べてすすく老いている  
百までは生きて決めて肉を食う  
ネバネバに生きてサラリと逝くつもり

『命のめぐみ』を賜り一気に読み、また  
活き活きとした句に惹かれて何度も楽し  
く読み返しました。

吉村久仁雄さんは「なにわ柳壇」や各  
地の句会・大会で大活躍。当はびきの句  
会でも、なくてはならぬ重鎮なのです。  
秀句ばかりの中から謹んで私の好きな  
句を挙げてみます。

## 「なにわ柳壇」入選百句より

妻きりり駄馬の手綱を緩めない  
揚げ物好きの僕へタニタにはまる妻  
味噌汁が旨くて妻を裏切れず  
妻とならマリオネットの僕でいい  
屋根の上にシーサー家の中に妻  
と妻を讃え——

愛を説く父に戦の跡がある  
勝利への活路よく食べよく眠る  
墓穴掘る正論だけど譲らない

## 「自選二百句」より

機微にも触れて——  
カーナビの底に冥土の地図がある  
性善説きれいな嘘で場をおさめ  
拝観料仏心が少し揺れ  
補陀落へ一方杉の固い意志  
詩情豊かに——

地吹雪をかたちにすれば津軽三味  
口ゼワイン春来たような色を飲む  
目に山河口に地酒の汽車の旅  
領海線の向こうも同じ青い海  
家族をいとおしんで——

ケータイで話す息子よくしゃべる  
怒つても褒めても父の薄い影  
修羅場踏むたびに大人になつていく

この様に博識多才、ユーモア・ペーソ  
スがあり、何事にも前向き、そして静か  
なる闘志を抱いた作者像が立ち上がつて  
きます。

半分は妻が創つた僕である。

とあります。聡明で美しいご夫人は市内  
の中学校に勤務。どの学校においても吹  
奏楽を指導。薫陶を受けた後継者が数多  
く生まれました。市民ウインドオーケス  
トラの生みの母です。マルチな才女のご  
夫人に妻讃歌も納得がいくのです。

この句集には川柳味が滴っています。  
ご夫妻の素敵な歳月に拍手を送りつつ、  
遠からず「命シリーズ第3弾」が出るこ  
とと信じて楽しみに待つております。

# 花の心

毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようお願いします。  
編集部

## 岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

摘花され残った桃の使命感  
平成に咲いて令和に実る桃  
風薫る甘い香りや桃源郷  
華やきが消え葉桜のひとつこち  
空気まで色あざやかな桃の花  
花のあと緑あざやか桃の里  
お日さまに緑さまざま輝けり  
緑山負けじと服も緑して  
メロン切る緑の涙にじみ出る  
言い知れぬ不安桜梅色増して  
みの虫も若葉に更えて深呼吸  
いい日旅立ち葬送曲に決めてある  
刻み葱衣のように初がつお  
ジャズ聴くと忘れの筈の人思う  
なつメロにひたり平和をかみしめる  
シンフォニー五線譜に描く大宇宙

みつ江 和子 笑司 ふりこ 和美 隆昭 白水 紀子 義泰 愿 香代 ふさゑ 洋子 珠二 律雄 雲水

## 川柳塔みちのく(青森) 稻見 則彦報

遅咲きの花もしつかり実を結ぶ  
どの道を行っても笑われる背中  
鼻歌を春風にのせバルディー  
願い事叶ってダルマに目を入れる  
春風に乗って「令和」で生きてゆく  
風流を粋にまとめる花筏  
哀愁の子牛の瞳亮られ鳴く  
ミシン目で繋がっているああ夫婦  
向き合えば心が読める子の瞳  
海峽とお山の風が二重唱  
お互いに背中を向けてすれ違う  
子の瞳汚れない真つ直ぐの瞳  
先祖代々背中で継いできた老舗  
親になつておとこになつてゆく背中  
ほどほどの意識崩れるバイキング  
ほどほどの酒でこの世を確かめる  
ほどほどを知らず人生謳歌する  
息子にはたつぷり夫にはほどほど  
ほどほどで手を打ちゃ良かったまだひとり  
実印を押して来た日の向い風  
瞳を閉じてもきつと覚えている桜  
身分相応ほどほど似合う僕の顔  
終電車通つた後に床に就く  
頬杖の秋を感わす花曆  
白菊がぼつんと冷える一つの計  
味方やら敵やら食品添加物

ひろ子 ひとし 風来坊 小とみ 重虎 則彦 一呑 美鈴 洋子 のぶよし 隆樹 澄子 慕情 黙人 初枝 柳子 孝子 吹喜 英子 きよし 真由美 吞舟 ふさゑ 花峯 霜石

## 川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

怖いのは石榴で味は忘れました  
日暮れどき町中ひびく人探し  
迷う事たんとありすぎ闇の中  
鳥取道迷わず走るこだけは  
二兎追わずのをしほつて得た女房  
ひとしきり迷つて覗く海の底  
ちよくちよくと脳細胞が休みだす  
ちよくちよくと爺ちゃん連れてカフェに行く  
ちよくちよくとスカートはいて風邪をひき  
暮敵をちよくちよく呼んでねじり合い  
結び目はちよくちよくゆるめ生きている  
投網うつびよんぴよん飛んで逃げる鱈  
青空のカンバスに描く飛行雲  
その内に俺も飛ぶぞと独り言  
水たまりとぶにも齢を考える  
軽々と海飛び越えて来る黄砂  
銭も飛ぶ黄砂も花も飛ぶ四月  
飛びたくも飛べぬ介護と言う鎖  
いい人だった頃の記憶は飛んでいる  
口紅の跡争いの種になる  
紅つけた母を初めて見た棺の窓  
コーヒーのカップに淡く残る紅  
唇がポトポト落ちる藪椿  
口紅が一人でしゃべるから怖い  
返杯の口紅謎をかけてくる

和香子 久芽代 紀美恵 恭子 岳人 重利 悦子 義人 たい代 貴恵 泰山 美知江 重忠 清 滋 玲坊 龍枝 石花菜 節子 三津子 美美子 野蒜 公恵 芳光 照彦 紀の治

バンクシーの鼠は傘で飛んで来た

川柳ささやま(兵庫) 北澤 稠民報

春ですよ畑が私を呼んでいる

愛と言う隠し味だけ無いレシビ

趣味つなぎ人間模様おりあげる

新鮮だ時代遅れは個性ある

令和元年丹波篠山祝一歩

令和だよー猫に言うてる一人住む

ママに内緒婆の布団に泣きにくる

待つてくれ時代遅れになりそくだ

十連休薬残りを確かめる

汗拭きて命じる野良仕事

初恋は一人相撲の恋に酔う

令和でも見つけよ老いのいい暮らし

和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

鈍行の人の情に逢う詠

縦横に眺めて答出て来ない

見渡した限り三途の川はない

人生のカセットテープ巻き戻す

編笠の竹人形は風の盆

遠景にあった老後が近くなる

思い出を覗いてみると春の風

終活へそろそろ重い腰上げる

虫喰いになっても契る紙の雛

長男にそろそろ話す墓のこと

人形じゃないと言いつ一人っ子

くにこ

かほる

哲男

稠民

さゆ子

幸子

善輔

剛

重男

喜弘

良子

照代

美智子

千鶴報

ひろ子

准一

知香

宏枝

まさ

富香

幹子

当代

俣子

起世子

よしこ

クラス会眺めて比較古い具合

人間でなければ何になりますか

後戻りできない蝶のフライング

約束の期限そろそろ次の手を

鍵穴の向こうに何が見えますか

雛人形捨てても流しも出来ぬまま

亡母の声残るテープの宝物

無事故だが返納決めた免許証

キュッキュッキュけしの首も凝っている

呱呱の声宇宙へテープ凜と切る

三浪もしたらそろそろあきらめる

窓越しの桜患者を和ませる

テープカットだけ駆けつける議員さん

マネキンに恋をしました百貨店

藤村の初恋そろでまだ言える

鈍行で丁度よかつたふたり旅

号外が新年号のテープ切る

人形の瞳に心洗われる

そろそろと歩けるだけで良しとする

土偶見て神代人の息吹知る

一着のテープ切りたい一度だけ

古着処理眺め若い日踊り出る

私をそっと見ている私あり

そろそろと助太刀欲しい内輪揉め

わかあゆ川柳会(鳥根) 松本はるみ報

ステップする気へ杖が邪魔をする

貧しくも我が家のステップこれで良い

一雄

保州

日出男

康則

弘子

美枝子

純子

義雄

和子

菜摘

智三

敏照

俊介

明宏

次根

昭枝

あき子

八重子

かず子

義泰

いさみ

一歩

妙子

千鶴

かつ子

昌

牧野芳光選

今はまだ笑えるほどの物忘れ

昼御飯記憶あるから惚けてない

大根のどっこを切つてもある矜持

アルバムの抜けた写真にある痛み

雪解けて川は記憶を取り戻す

私の皺の一筋ごとに愛

さくら見て狂う私は日本人

人生の大方感と目分量

肥後の守今は欠伸の余生です

胸で飼う虫そろそろ解き放つ

(伊)武彦

芳山

わこ

きらり

きらり

佳句地十選

(6月号から)

籠島恵子選

ネクタイを締める君は賛成派

うつむいてしまえばメロデーは消える

沖を見てるとわたしは発芽する

電柱の影が枯野へのびている

人生は一つ未決で終わりたい

氷上ジャンプ背中に翼見えました

てにをはの一字晴れたり曇ったり

エライひとつ白いページを抜けたせぬ

来て去つてしらしてふふ春のバカ

趣味という森で小鳥になつている

堅坊

ダン吉

久江

黙人

故真由

(蘭)彦

モナカ

華

寿子

くにこ

堅坊

ユーモアにかがやき増すや同総会  
年ごとに輝きを増す人であれ  
空見上げ里の景色を思い出し  
国政の無理に屈した戦中派

南大阪川柳会

松岡

ワンダフルピンクの桜オモテナシ  
終章をピンクで飾る花筏  
色ならばピンクの様な美智子さま  
揺れながら風を読んでるやじろべえ  
無風にもゆらり野望の火がもえる  
風船に詰め込みありつたけの毒  
彼氏などいなくてもいい風媒花  
夏帽子女は風になつていく  
幕仕舞い父母の魂風になる  
どんな風吹こうが僕はマイペース  
春浅く冬物はまだしまわれぬ  
知り合つて長いが中味浅いまま  
傷の浅さに油断したのが命取り  
事勿れ主義で浅瀬を横這いに  
ゆつくりと浅瀬確かめ生きている  
立ち話冷えるとちびることになる  
ちびちびと飲んで余命を保つ酒  
板長のちびた包丁宝物

鉛筆がちびれば二本くつつける  
句はできず鉛筆だけがちびていく  
ちびつても黙つて乾くの待つている  
するすると生きて元氣な八十路坂

ハル子 惠美子 安子 是るみ 篤報 たもつ 篤 志華子 いさお 弘委智 昌紀 東風 郁夫 国和 一步 ルイ子 保州 柳伸 峰子 柳石子 ひさ乃 直子 実正 克己 和雄

竹原川柳会(広島)

吉田 太虚報

すると言つてまだやつてないんか  
するすると銀河をめざす繩梯子  
そうめんに象牙の箸を出されても

一本の鉛筆学ぶこと多し  
網を手に小川に学ぶ子の瞳  
ちちはの背中にも学ぶ三才児  
学ぶより慣れろと母の語がきつい  
学ぶことまだある僕の虫眼鏡  
栄賞賞辞退のイチローに学ぶ  
筆文字の手紙すこしの心あり  
元氣かと友の手紙と日なたほこ  
悩みます誤変換のあるメール  
桜咲く五十年前懐かしい  
土師タムの桜を亡夫と観たあの日  
日本中桜の咲かぬ春は無い  
散り際の雄姿桜を真似たいな  
スパームーン城と桜を泳がせる  
思い出を咲かせる廃校の桜  
花冷えに耐えて桜の長寿なり  
廃校にひとり桜は咲き誇る  
ワシントンの桜母国を恋つて咲き  
桜咲く傘寿の我等まだ枯れぬ  
窓開けてさくら吹雪を仏前に  
ラジオ聞き家事もたまにはいいものだ  
平成最後のさくら西行さまといふ  
人はみな優し桜の下にいる

人びな優し桜の下にいる

勝弘 弘子 楓 楽 笑子 慶子 鬼焼 栄香 蘭幸 千代美 規代 京子 一徳 汎美 節生 輝恵 幸子 昭紀 弘子 夢香 淑子 宣之 敬子 步美 厚子 比呂子

川柳塔なら

大久保眞澄報

四十歳まで孫で甘えてありがとう  
ころんころんびーだまがふたつ

いざという時のためです深い穴  
讓位まで気のおおくなる備えして  
用意したはずの論吉が見当たらず  
遠足の楽しみ詰めて目が冴える  
百年を生きる人間味を磨く  
亡母のため備えた手摺りの世話になる  
備えたと聞いて銃後を思い出す  
古い支度なのに益々若返る  
生け贄になつて上げますあなたなら  
豊饒の海を育てる木を植える  
折り合いをつけてやさしくなる絆  
七軒に筒配る糠そえて  
びり辛の批評はやつぱり栄養素  
秘伝にも毒にも変わるさじ加減  
サトウキビ畑が唄う反戦歌  
ざわめきが一瞬止まる発表会  
寂聴のひと声水を打つ法話  
令和の世未知のざわざわ心地好い  
グリーン氏に周りざわざわ保釈金  
ざわざわと白けてる座に入る唱  
物忘れ妻とは五角世は平和  
口以外五角なのは何も無い  
政官民互角に踊つていたパブル  
董ちゃん先輩棋士と打つ度胸

董ちゃん先輩棋士と打つ度胸

史子 ちか 理恵 萌子 優 光堂 國治 ひろ介 文聡 和夫 盛隆 成子 惠美子 美代子 圭 行久 恭昌 賛郎 勝代 富子 崇明 倫 薫 雄 江里子

入社時の横一線が天と地に  
野地蔵と互角にわたる石頭  
可愛さに技量の互角影うすれ  
互角には争えないと練る秘策  
表向き互角に見せている夫婦  
甘ったれ互角目指して修業中  
座標軸変えれば互角妻と僕

はびきの市民川柳会(大阪)中川ひろ介報

優しさが虹になる妃殿下の所作  
立役者見せる素振りにある矜持  
心情を仕草で見せる名女優  
単純な所作奥深い能舞台  
偶に来て簡単に「天」とってゆく  
さも予定あるかのように見る手帳  
簡単に始めたじろぐ奥深さ  
路上ライブ生きた和音で輪ができる  
和をもって世界平和の足がかり  
妹の仕草だんだん亡母に似て  
単純な男おんなカモになる  
しかめ面してもナイスガイの男  
単線のレールと孤独分かちあう  
葉ざくらに袷単にかえました  
連休の多さに財布悲鳴あげ  
新元号に仲睦まじく鯉のぼり  
単身もたまにやいものリフレッシュ  
単線のローカル線に有る風情  
大和とは和を重んじて生きる国

貫一 甚之市 敬子 展代 眞澄 ふりこ 史郎  
みっこ 壽峰 ちづる 欣之 久仁雄 大子 冬之ト フジ 清 鷲 かつ美 瑠美子 専平 久仁子 シルク 千鶴子 紀雄 洋一

仕草には十人十色意味がある  
喜寿過ぎて行住坐臥に出る品位  
可愛いね赤ちゃんのあの仕草  
単純な話ではない自爆テロ  
簡単に騙されている電話口  
あくびする姿父さんそっくりだ  
DNAやはり似てます喋り方  
平和とはだまっていたら逃げていく

川柳茶ばしら(愛知) 関本かつ子報

洋風と言う物もある節料理  
応えたらほんとですかとスマホ見る  
いきなりにタイムスリップ青春へ  
サンブルの大きな海老に騙される  
笑み浮かべおいしい話持つて来る  
命令の令にはならぬ令和です

川柳同友会みらい(鳥取)吉田陽子報

定時コール昼は親友夜は娘  
野歩きの水音に耳清められ  
むくむくと若芽燃え立つ音嬉し  
薬よりワハハワハハで寿命延び  
葉や孫に美田がなくて平和です  
愚かです既に大人の娘を案じ  
羽ばたけばみんな主役になれる春  
自分から戦力外を願ひ出る  
遠回りして大切なもの気付かされ  
お一人で座って不味い回る寿司

雄太 一文 正義 まつお 泰子 さくら 千鶴子 ひろ介  
まみ子 美千代 三樹夫 遡行 雅美 かつ子 昭子 安子 和代 澄子 耕一 千恵子 由里 七絵 葵 和之

飾らない人柄いつも心地よい  
まだ出番あると信じて時を待つ  
厚い壁思いが届くまで叩く  
澄んだ音色は出せなくなった鈴を持つ  
花から花へ笑顔振りまく浮気性  
わたくしの六分昭和でできている  
強がって今日の微熱が下がらない  
体調は至ってよろしい桃の花  
聞き上手心豊かにしてくれる  
表面はとでもきれいな花筏  
もう少し野心が欲しいローヒール  
米中のスターウォーズが始まるぞ

川柳塔唐津(佐賀) 仁部四郎報

亡妻とまどろみながら眠つてた  
今日の収獲は二枚のレジ袋  
夢の中何時も迷子に成るわたし  
私の煙も西へ行くつもり

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西茶子報

失敗も話の種に堂々と  
今もなお目に焼き付いている津波  
今もなお先の見えない核の処理  
天井のしみがおぼけに見えた頃  
堂々とやれば良いのに気が弱い  
田植え後は緑にそまる千枚田  
ぐずついでエンジン不調フラフープ  
堂々と地獄へ墮ちて行く覚悟

洋子 美恵子 華蓮 陽子 和郎 れい子 扶美代 ダン吉 心咲 游子 公弘 蜂朗 實 高明 四郎 和子 宏章 孝子 綾子 弘六 重忠 大鯨 すみれ



川柳塔わかやま吟社 小谷 小雪報

幕開けの令和寿く五月晴れ  
封を切る指も萌えてる五月晴れ  
五月晴れ我が物顔のこいのぼり  
廃校に緑の匂う五月晴れ  
くがまえの井にもかえるのうた響く  
囲い外せば広い世界が其処にある  
スピンでごめん面会謝絶です  
五月晴れ山は緑の色見本  
拒むふりほんとの気持ち裏にある  
金儲け旨いはなしにそっぽ向く  
バスツアー試食拒まれ舌の旅  
たんたんと拒まれふうせんが萎む  
黄昏が近づくと配螺子締める  
近すぎて気付けなかつた青い鳥  
私を近くで見ると棘がある  
四コマ目私の出番近くなる

ふうもん吟社(鳥取) 両川 無限報

老いひとりテレビに子守りしてもらう  
わたくしの終着駅になる令和  
麗しの意味を覚えた令和の字  
リセットの酒はほんのり苦い味  
祥は平成生きて令和に夢つなぐ  
隘口もうわさ話も好きな耳  
さくら鯛鱗が撥ねて花筏  
牙とれてライバル同士飲み交わす

銭形にいつばい食わす我がルパン  
ライバルの自慢話に大あくび  
好きな娘に彼氏紹介されました  
親友をライバルにした恋ひかつ  
ライバルに贈った毒が何故効かぬ  
ライバルは美人で小金持っている  
ライバルがお洒落するから気にかかる  
へボ将棋むかし親父で今息子  
被災地に希望を灯すボランティア  
過疎の村残る昭和に火を灯す  
漁休み知らないイカは明かり待つ  
笑顔が灯す一家団欒青い鳥  
老いてなを灯す女の火は怖い  
鎧脱ぎほっと一息火を灯す  
亡き父母へ灯すゴメンの灯が揺れる  
ナツメロが蓋した傷に火を灯す  
二人きり誓いを結ぶ玉手箱  
箱の中見ても小銭のない暮らし  
パンドラの箱開け狂う人生譚  
楽しみだはやぶさ2の玉手箱  
贅沢のつけかゴミ箱溢れ出す  
小箱詰め海へ沈めてくれる火種  
貯金箱私が入れて妻が出す  
いつからか宝箱は空だった  
人生の灯台だった父の背な

川柳塔すみよし(大阪) 森松まつお報

自分で出した音にもドキッとする夜中  
木の芽和え春の息吹きを舌鼓

フレッシュなレタスの音も食べている  
空っぽの脳へフレッシュつめてます  
フレッシュな意見を受ける皿がない  
連休プラン心身ともにリフレッシュ

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

いつそのこと「平和が良かったと思う  
仰ぎ見る天皇皇后凜凜しかり  
婆さまの尻に敷かれて令和まで  
あと何年令和と言えぬかな  
輝いた妃殿下令和華を待つ  
梅干が王様になる弁当箱

弁当は要らぬ三途の川の旅  
世界が真似る弁当ブーム和の誇り  
梅干で弁当箱に穴が開き  
旅をしたつもり弁当買つてくる  
ふるさとのカニ寿司うまい駅弁当  
駅弁は産地の顔が詰めてある  
老いの苦情拾う介護の目が温い  
補聴器が知らなくつ買つ  
戦時中鉄屑拾ひおやつ買つ

捨てて人も町内美化で缶拾う  
するすると行かぬ浮世も天命も  
立て板に水の演説薄味だ  
逃げてゆくするすると記憶力  
するすると匂にならなくてふて寝する  
いつの間に疫病神が側にいる  
スルスルとすべつて転んで立ち上がり  
拾いものだったかどか嫁えらび

ひろ介  
日の出  
ゆみ子  
美 籠  
鬼 一  
智恵子  
石花菜  
紀美恵  
恭 子  
麦 青  
完 司  
龍 枝  
隆 昌  
日出子  
酔芙蓉  
祐 子  
康 子  
由 紀子  
明 友  
茂 夫  
萩 江  
次 男  
けいこ  
風 露  
雄 大  
瑞 子  
照 彦

ブラザ川柳(大阪)

穂口 正子報

ただ願う平和と続け令和の世  
馴染めずに提出書類書き直す  
鐘の音がたまに遠くの知恩院に  
語り継ぐ戦いの跡千早城  
痩せるお茶毎日飲んで水太り  
ぼつちやりが好きと聞いたが限度越え  
特殊詐欺の親分なのに名は善人  
ポケットに入れた諭吉で梯子酒  
マクワウリ植えられませんか美智子様  
留守電に空き巣注意と入れてある  
ストレスを川柳という屑入れへ  
いつの世も幸せ求めよいらしよ  
シニカルな味にポトンと角砂糖

久美子  
淳 司  
清 乃  
一 彌  
園 子  
千枝子  
弘 光

岩美川柳会(鳥取)

山下 節子報

好奇心減つたら老いが加速する  
生き甲斐が減つて秘めごと足し持つ  
キスをして離さぬ長い蜻の足  
少し見ぬ間に友が痩せてに気にかかる  
アンケート過疎の村にも花咲かす  
すり減つた靴に愛着手放せぬ  
九条が長い平和の礎に  
内面をちよつと晒したアンケート  
長靴が父の生きざま語つてる  
長すぎるいい場面でのコマーシャル  
酒の量減つて己の歳を知る  
長男の悲劇山林田畑継ぐ

一 瑤  
重 忠  
美恵子  
葛 子  
た ぬ  
幸 安  
敏 子  
雅 女  
眞理子  
振 作  
彰 夫

長すぎる主婦業退任したいのに  
人口減り存続危機の過疎の村  
この間はクイズじゃないよアンケート  
困つたな僕の長所が見つからぬ  
アンケート政争グラフ下り坂  
困つたな余命に合わせた青い額  
減反の歯抜けになつた青い稲  
長いこと顔見とらんが息災なかえ  
田植え終え棚田に一つずつの月

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兔報

超音波かけても見えぬ腹黒さ  
おだやかな波と過ごして終りたい  
少年に朝は細魚の来る波止場  
新しい波だびょんと飛んでやる  
フィットネス波打つ腹にサヨウナラ  
消しゴムのかすが知つてる苦い過去  
とろとろと弱火で煮込む鍋の味  
トイレット良かったねと涙ぐむ  
とりこぼしよくあることと慰める  
特技持ち世の中肩で風を切る  
取説を読んでもなかなか熟せない  
自分にはとつても甘い点つける  
ドラ焼は今日でおしまいダイエツト  
ピカピカに光つたズボン元気な子

千代  
凱 柳  
弘 六  
茶 子  
公 子  
天 翔  
一 平  
蟹 郎  
節 子  
則 彦  
桂 子  
一 子  
純 子  
一 弥  
美佐子  
黒 兔  
信 男  
久 子  
郁 子  
守 啓  
正 子  
春 代  
柳 童  
何んと言つても信じられます飲み仲間  
修

城北川柳会(大阪)

近藤 正報

何んと言つても信じられます飲み仲間  
修

人類よ青い地球のあるかぎり  
あの時が最後の青と後で知る

ガン告知少し命を切り取られ  
青空に恥じぬ政治をしてほしい

水掛けの不動年中苦ごろも  
青栗の棘痛々し反抗期

母の日のレシート好きなのばかり  
鏡みてりりしいポート決めてみる

青信号と言われたくない緑色  
糸切り歯キラリほんわか青い恋

撮り鉄にはたまらんD51の勇姿  
視線浴び凜凜しさなおも磨かれる

歓声の中で誰かが泣いている  
老年の元気へ趣味という葉

トップスターへ凜と歌劇の初舞台  
青リングかじれた口も総入歯

うるさいが母のいちいちこもつとも  
帰郷する列車で心走ってる

凜凜しさは武士の娘と祖母毅然  
三陸を復旧列車ひた走る

血圧をいちいちチェックして不安  
春ごぼろポターージュですよ大地の香

百歳で凜凜しくタンゴ踊りたし  
武道館少年剣士凜と立つ

貧乏より貧乏くさいの嫌い  
七夕へ銀河鉄道予約する

めまいと動悸ただの飲みすぎだった  
若者が踏ん張っている町おこし

たもつ 弘委智  
洋志 一歩  
志華子 捷二  
宣子 峰子  
久美子 直樹  
満作 和夫  
郁夫 和  
星雨 実  
あさ子 朝子  
克己 賢子  
榮子 秋香  
堅坊 高志  
俊雄 満洲夫  
勝弘 正

あかつき川柳会(大阪) 山本 昌代報

どこで狂ったか子育ての青写真  
欲望の端行けども行けども見えず

この広い世界で探すただひとり  
いてなおい果てぬ夢を追う至福

インディゴの青さを誇る働き手  
アジアから攻めてみようか食べ歩き

米朝の溝の深さが泥くさい  
ミサイルと云えば良いのに飛翔体

パソコで夢を育む現代っ子  
新元号記念に鍋を買いました

人生の節目節目が記念の日  
広い家いらぬ掃除下手だから

いい朝だ生きた記念を残さねば  
百枚の棚田が写るオラが富士

幸せの記念に笑顔差し上げる  
ときめきを見通すような青い月

記念写真笑顔が下手で白黒で  
秘め事を見通すような青い星

山の夜手の先にある大宇宙  
大宇宙ハヤブサIIが謎を解く

AIに夢を託した未来都市  
懐の広い貴方に惚れ直す

どこにいるのの声の聞きたい一周忌  
井の蛙広い世界を夢にみる

生きているのに夢を追えば死も忘れ  
人災で地球いつまで青いやら

いさお 冬のと  
鮎子 鈍甲  
郁子 信夫  
信夫 (松) 秀夫  
敏子 朝子  
万作 直子  
堅坊 穩夫  
常男 ひろ介  
満知子 (田) 廣子  
里子 清  
壽峰 高鷲  
惠美子 武  
善之 喜代志

小さな夢つないで卒寿生きのびる  
ウイニングボールは里の仏壇に

真つ青な空へ希望と書く五月  
記念日のように咲いてる君子蘭

醒めた声画面に出さず代替わり  
口開くまでは知的なデコだった

恒例の記念写真は嫌いです  
すぐ怒るまだまだ青いヒトやねえ

退職日功労賞は妻である  
退職日功労賞は妻である

減塩を一つ覚えに言う主治医  
ど忘れする脳に振りたいた塩胡椒

たかが塩されど塩だと知る味見  
塩分ひかえめこれがなかなか難しい

いいことがある大安日より青い空  
大安に僕から贈るカーネーション

令和元年この大安に呱呱の声  
大安より仏滅選び得をする

大安の日でも迎えばやってくる  
新婚の入籍届を大安日

今ほもう妻の目盗むスリルなし  
日本列島震度5上に住むスリル

吊り橋の真ん中板が朽ちていた  
一通のメールが運んできたスリル

観桜も散り際もまたエレガント  
趣味という薬を飲んで元気です

夏が来ると思っただけで気が重い  
夏が来ると思っただけで気が重い

たもつ 克己  
一志 シマ子  
太郎 紅絵  
和雄 和雄  
みつ江 一歩

翠洋会(大阪) 大久保眞澄報

げんえい 楓楽  
大子 理恵  
希久子 千枝子  
志華子 舞夢  
浩二 善之  
和夫 蕉子  
眞澄 富子  
満作 宣子  
義

十連休喜ぶ人と困る人

すみ子

席すぐに譲られ鏡のぞきこむ

敬子

ため息をくるりと巻いた玉子焼き

弘子

ファンというだけで生まれる一体感

弘美

令和になりいっそ懐かしあの昭和

恭昌

咲き誇る桜も終わり来る令和

昭

詫び会见マニュアル通り45度

行久

白黒をきちっとつけぬのが無難

ふりこ

富柳会(大阪)

関 よしみ

人前を手刀切ってごめんやす

きみ子

球根に恋して育て今日も晴れ

良恵

どうもならん減る年金に増える税

新

はいいいえどうもで済まず不調法

文重

一筋に慕う炎は揺るがない

伸雄

五月に電どうも地球がご立腹

由夏

美しい言葉はどうもアリガトウ

田鶴子

迷路から人間らしさに突き当る

澄子

マドンナも古希を迎えた顔になり

清

大きくて少し寂しい男の背

あかり

生臭い話が人を引きつける

隆充

席譲るどうぞどうもが温かい

高鷺

無駄をするうちは人間だと思ふ

常男

補助輪を外してからのポテンシャル

かこ

飢餓の子へ何故届かないフードロス

武人

雨垂れのリズムで今日を掻き立てる

恵

はやぶさがリユウグウの頬ビツと押す

よしみ

凶暴な恋が略奪した伴侶  
飛ぶ噂どうも原点春の風

欣之  
寿之

長柳会(大阪)

辻村 ヒロ

四世紀生きざま刻む深い皺  
石除けた下の虫達大慌て

ヒロ

やいやいと下々の僕には僕の道

秀子

爺さんのチクタク刻む古時計

靖博

絵に描いた餅食べたら太った

洋二

菜園は豊作店も大安売り

旅人

電源ひとつ止めれば地獄都市砂漠

ともこ

二枚舌刻んで僕を戒る

光弘

適当な妥協はしない介助犬

和子

新人生嬉し恥かし初投句

英美

つややかな新緑の葉に嫉妬する

由子

新緑の若芽にも似て園児達

おくみ

さあやるぞファイト燃やす新学期

弘美

入れる気は無いが手を振る選挙カー

たけし

たつぷりの茶を入れ妻は愚痴を言う

孝

薫風を入れて一新仲直り

和代

商魂の令和を入れる物溢れ

ふみ

入れ知恵で上手くまとめる遺産分け

幸子

気合い入れ四股をふんだら床ぬけた

三和子

新木に虹追いかけていざ令和

隆明

風光る令和初日に新戸籍

直樹

新皇后決意新たに華やかに

正美

広辞苑皮肉でひけば皮と肉

由夏

あと少しだったところで目が覚める

ゆき

正博

ねちねちと皮肉まどつているワイフ  
AIを作って逆に使われる

淳司  
孝代

Eイヤーの投句が天になる皮肉

敬二

再雇用昨日の部下に指示仰ぐ

純風

川柳塔さかい(大阪)

内藤 憲彦

キッチンで右へ左へ母が舞う

さくら

風に舞う言葉の瘦せたソクラテス

ゆみ子

新元号迎えた朝の舞扇

志津子

舞い安玉三郎の艶やかさ

廣子

古墳群世界遺産だ拍手舞う

光雄

懸命に生きよと母の声が舞う

雅美

優雅に舞う鶴雪原のファンタジー

ひろ子

お父ちゃん下手な考え止めなはれ

としお

正義とは考えさせる核兵器

舞夢

考えておきますなんて逃げ上手

和夫

バスワードなく妻の罪が開かない

和子

よう考えや横断歩道命がけ

憲彦

才能もないのに座るお大臣

八千代

雅子さまの才能発揮令和の世

富夫

隔世の才を孫見せ我慢する

満作

天才と言われた裏にある苦惱

唯教

才能に愛たつぷりの水をやる

玄也

トンビが鷹生んでトンビが見直され

五月

まあまあと母の才能刺を抜く

敏治

少年よスマホを止めて考えよ

敏治

考えるよりスマホに頼る人が増え(歳) 清

考えてよく考えてスカを選ぶ 愿

考えても仕方ないけどまだ独り 世紀子

ロタン像一つべん伸びて見たかろう ばつは

少年は海のように夢描く 憲

生きるって何やるパンを食べながら 進

固辞したが浮かれ度が過ぎ二日酔い 素頓馬

恐いなあうまい話が降って湧く 佳子

ここからは運と受けとめ踏んばるぞ みつ江

子らと行く卯の花香る父母の墓 洋一

断りの嘘が空から降ってきた 扶美代

これからの宇宙をのぞくファインダー みつこ

懲りもせず噂広げて蓋出来ず 輝子

川柳塔まつえ吟社(島根)相見 柳歩報

謎増える女はいつも美しい 芳山

増加する派遣社員の難破船 美智子

悪玉を増やし主治医を困らせる 弘充

増加する値上げ増税身は委縮 哲子

増加する小遣い銭に妻の乱 久絵

増加せぬよい細胞とよい議員 瑞人

空き屋敷鼠の親子増加中 とも子

気温が狂い喪中ハガキが増加する 桂子

大胆に恥ずかし気なく足湯する ゆき

三杯で胆が座って動じない 雪代

大胆に短くカット女捨て 米估

躊躇なく入れる万札の賽銭 徳則

ハイテクで世界をリード日本丸 あきら

八十でどこ吹く風の元氣印 禮子

スパイスを効かせ自慢をする右脳 孝子

骨にヒビ瓦五枚を割ってみた 輝山

外野席君のボールはもう来ない 知恵子

近所には昔よくいた外交官 みちを

規格外の野菜も味は変わらない 豊仙

ブックカバー外せぬワケがあるので モナカ

外面も内面もなくのんびり屋 邦代

外は外やるべきことをやっていく 柳歩

今年こそ主婦を休んで郷ひろみ 寿代

夕方になると忘れる休肝日 草庵

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

何事も伸び伸びできぬ娘婿 新録

のびのびと貯金を増やすタイガース 柳明

断捨離で勝手の違ううさぎ小屋 厚江

廃車日の車がやけに寂しそう 初音

米の置場知らぬ夫に唾然とす 紀恵

三分間待つ昭和のおう味 雄次

のびのびと生きてきました僕なりに 純

木の芽あえ肴に盃がよく進み 修平

老木に新芽もうチヨイ頑張るか 紀華

生真面目な豆腐の白のバステル画 菊江

温室野菜のびのび育ち灰汁もなく 芳香

好奇心捨てずに若さ保ちたい 芳香

ときめかぬからと断捨離された僕 英坊

腹八分脂肪を削る処方箋 りこ

ブライドを捨てたまま白髪に 多美枝

木の芽和えお喋り続く夫婦箸 公子

怒ったら怒った分だけ気が減入る 正彦

言う事の聞かぬ夫とフルムーン 五月

恋の芽が出て来たらしい鏡見る 耕治

すぐ歳を聞くからいつも嫌われる 修平

全没でシヨックな日にはアリナミン 祐康

凍滝を聞けば水音こだまする ひろ介

過去捨てて明日へ踏み出す靴磨く 美籠

留守電の案内は亡き妻の声 宏造

私は蝶その生い立ちはきかないで 竹千賀子

伸びる芽の肥やしになれと褒めてやる かずお

食パンの耳も家計簿捨てさせず 良種

一を聞き十を喋って撒く噂 万彩

この歳だ芽は出さずすべてちぢみだけ 勝弘

深呼吸今日ものびのび無のころ ヨシエ

のびのびと育ち今年で三浪目 正和

引き続き検討すると言うことで まつお

六甲川柳会(兵庫) 奥澤洋次郎報

新元号まさしく虹と門出する 正彦

十連休終えて仕事にはっとする 博

晩節を汚さぬように生きている じろう

速くから見ていますただ見えています ひとみ

知ったかぶりピント外れて一人浮き 浩司

スッポンに元氣出るコツ開きにゆく 道子

お下りで大きくなった僕次男 美津子

譲られた遺産へ借金ついでくる 洋次郎

虹の橋渡る途中で共白髪 憲三

新しい時代をめぐる春の風 美恵子

子や孫に亡夫の優しさ譲りたい 利子

特訓に耐えた向うに見えた虹 狸月

大欠伸ほんとの君を見てしまふ  
 スギ花粉私楽しみ皆うばう  
 声でかい夫の脇で詫言係り  
 もう三日逢わず気になる散歩道  
 恥をかいたびに一度剥けました  
 達筆な友の賀状に見る元氣  
 お節介に恩がいっぱい詰まつてる  
 気分いい返事が令和からとどく  
 傘寿過ぎプラス思考は父譲り  
 雑草の元氣へいとむ草むしり  
 核の傘さしてぞ虹の橋渡る  
 虹を見て少女のような夢を見る  
 問われればとても大事な人と言う  
 爺と婆とが元氣句会を支えてる  
 物忘れ羞恥心まで連れていく  
 葱坊主に腰お伸ばしと注意され  
 貧乏を恥じた自分を今恥じる

川柳藤井寺(大阪)

太田扶美代報

和郎 邦子 弘夫 光久 弘華 和宏 紀乃 千賀子 和子 ひろ江 芳彦 武彦 哲男 廣光 美穂 博史

終活で生きた証を模索する  
 遠い日の望みが老いて芽吹き出す  
 七人の家族を背負う父仕事  
 難題を背負って令和丸船出  
 いじわるはしないさせない年の功  
 宇宙から望む地球に傷は無い  
 しんどそうに見えても席は譲れない  
 リュックサックが笑う初めての遠足  
 沖繩の土砂の重さよこれも税  
 氣まぐれに好きだと言った荷を背負う  
 本当は心優しいいじめっ子  
 振り向いて欲しいいじわるだったのに

川柳ねやがわ(大阪)

籠島 恵子報

網子 キーキー 光男 いさお フジ子 信二 彦弘 みつ江 一步 俣子 清 扶美代

逢うまいと思う逢いたいとも思う  
 退職後贈ることに縁遠い  
 ゆっくりと聞かす童話で誘う夢  
 若點が跳ねて虹立つ水飛沫  
 日本から平和の味を届けたい  
 得手不得手そろったこの世面白い  
 得手不得手思い込みだが紙一重  
 借金取りバツタリ逢った狭い露地  
 酔眼でゆっくり見ればみな美人  
 母の日はいつも真つ赤なバラ贈る  
 爺ちゃんの研いだご飯に艶がある  
 風みどり今日はスマホを置いて出る  
 逢いたくて逢えない歳をとり過ぎた  
 片想いもう止めましたメダカ飼う

川柳花の輪(大阪)

岡本 薫報

達筆を美人と信じ逢いました  
 スロースロー一生懸命なまけもの  
 逢うた日の火照りうれしく何時までも  
 小鳥たち恋の季節へ弾む声  
 慌てても躓くだけと一休み  
 逢えばまた別れが辛い花筏  
 ゆっくりと地球の軸がずれてゆく  
 ゆっくりと構える人に隙がない  
 色いろあつた今日をゆっくり畳み込む  
 逢つて知り愛して別れ待っている  
 肩書に賄賂贈つたことがある  
 無駄にせぬ命は神の贈り物  
 さくら咲くころと言つてはもう五年

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

就活も新緑の頃会社やめ  
 抽選のハガキで当たったことがない  
 目に映るすべてときめく菖蒲月  
 初恋の人は来るかなクラス会  
 ときめいて老いのダンスに背を伸ばし  
 一人居の人恋しさに書くはがき

立看の裕ちゃんやたらイカしてた  
 ヘンクリが出てきましたよ亡母さん  
 看板はすでに腐ったサクランボ  
 蓬髪を切られたとこで目が覚める  
 記念日も忘れ二人の夕ごはん  
 言えますかヒッチコックの「鳥の名」を

かすみ あかね ルイ子 朝子 秀雄 信子 博泉 寿子 尚世 鈍甲 仁子 惠子 正太郎 亜成 信子 みちる 泰子 薫

駅長のタマに「おはよう」定期見せ  
 荒野にもきつと咲くよね白い花  
 愛された記憶ないまま少女の死  
 看板にされて自由のないスズメ  
 よたよたと届くノイズのある記憶  
 日本人のメモリーに黒沢映画  
 カラオケの歌詞も記憶がちよん切れる  
 戒名を刻む記念碑一基ある  
 花びらを集めて今日を持ち帰る  
 記憶力良すぎて恋は不発弾  
 円周率とよく覚える根気ない  
 記念日をよく記憶する妻の脳  
 記念品句が過ぎれば棚の奥  
 金貸したことは死んでも覚えて  
 年々と自分記念日増えていく  
 記憶力どんどんと遠ざかる  
 平成の比翼記念樹令和へと  
 同級会傘寿記念のなるま顔  
 年金は苦労の日々の物語  
 ツチノコに追われた事は覚えてる  
 落選の看板とても淋しそう  
 看板を塗り替えない錆びている  
 引越しの都度処分する記念品  
 看板をつける暴力団事務所

川柳さんだ(兵庫)

村田

その着物とてもステキねお義母さま  
 黄昏でも女に磨きかけてます  
 パツと咲きパツと散るから美しい

七 七  
 モナカ  
 楓花  
 八千代  
 芳光  
 くにこ  
 照彦  
 紀の治  
 美ツ千  
 正人  
 友太  
 青  
 雄大  
 石花菜  
 富隆  
 けいこ  
 正男  
 隆昌  
 道唱  
 重忠  
 清明  
 久子  
 規雄  
 完司  
 博報  
 ひとみ  
 千賀子  
 加代子

美しい心には人寄って来る  
 受け狙うはずの話題で墓穴掘り  
 狙うの知って外すも愛嬌  
 狙うよに走らぬ馬でにくめない  
 残したい珊瑚の海を狙う土砂  
 てっぺんの椅子を狙っているメダカ  
 至福とき六甲おろし聞く湯船  
 魚は鯛塗りです猫の腕  
 贅沢な服着て負けぬ老いの意地  
 うな重を食べてぜいたく年一度  
 大の字で空と対話をする至福  
 贅沢を言うな元氣な子が五人  
 贅沢と気付いていない食文化  
 贅沢は敵だと言った過去がある  
 三食に昼寝と晩酌付く日課  
 贅沢と飢えと同居する地球  
 人間も馬も走ってスポーツ紙  
 大相撲小兵が倒す小気味よさ  
 男はつらい女はもつとつらいのよ  
 健康な脚なら歩く田舎道  
 信号を守って命守れない  
 甲山爺にとつてはエレベレスト  
 草刈り機青い匂いを撒き散らす  
 的確にそつと指針をくれる人  
 AIがとろいニンゲン押しつける  
 けなげやな遠いところではやぶささ  
 背伸びして下ろす機会のない踵  
 清貧に生きて令和のおもてなし  
 きみまろは中高年のサブリ剤

健彦  
 雅尚  
 迪  
 ゆかり  
 哲夫  
 武彦  
 祐康  
 美津子  
 ひろ介  
 順子  
 美龍  
 優子  
 正彦  
 千津子  
 好文  
 好平  
 修治  
 耕治  
 宣子  
 恵子  
 美智子  
 利子  
 寅男  
 万彩  
 ヨシエ  
 健二  
 勝弘  
 義徳  
 厚子

みな空き家人気恋しい過疎の村  
 令和へも寅さん人気まだ続く  
 羨んでバンダ人気を遠く見る  
 豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報  
 平鍋ひとつウチのランチは五つ星  
 返事待つ心が揺れるプロポーズ  
 仁王さんの眼が揺れている悩んでる  
 国境を無視の黄砂と難民と  
 悲しみを拭い切れない憎い揺れ  
 逆縁の喪主には虚し経と鐘  
 妥協せず少し無理して老いにむち  
 美しい嘘揺れる心で聞いている  
 裸の王でないトランプが恐ろしい  
 木漏れ日へ森のオブジェがよく笑う  
 地図抜け戦や飢餓の国想う  
 照り返し油断をさせる初夏の風  
 鉛筆はやさしくなれる魔法もつ  
 雑草も引くには惜しいまだ若葉  
 玉砂利を踏めば陽気な土踏まず  
 どちら向いても地雷の埋まる道ばかり  
 一流を目指すばかりに出ぬ一歩  
 六月の雨は命のために降る  
 風に揺れる景色に心遊ばせる  
 思い出すトラウマ決心が揺れる  
 生きざまは地図に乗らない我が旅路  
 それからをじつと見つめる風  
 若かった進むことだけ考えた

博  
 正和  
 恭子  
 公  
 子  
 肇  
 求芽  
 黒兔  
 英三  
 武彦  
 健二  
 玲子  
 きらり  
 野鶴  
 堅坊  
 美籠  
 玲子  
 千鶴子  
 正彦  
 亜成  
 則彦  
 久子  
 美智代  
 見清  
 時子  
 ヨシエ  
 葉子

句会名	日時と題	会場と投句先
豊中 もくせい 川柳会	15日(月) 13時50分締切 壁・見直す・弱い・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳塔 わかやま 吟社	15日(月) 14時10分締切 兼題=こだわり・隠す・ハーモニカ 課題吟=線	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町2-208-5 泉原道夫
川柳 さんだ	16日(火) 13時締切 王者・背伸び・パワー・続く 自由吟	キッピーモール (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川柳 たちばな	17日(水) 13時45分締切 印象吟・空・逃げる・自由吟	立花公民館(尼崎市塚口町3-39-7) 阪急塚口駅北へ10分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田 川柳会	20日(土) 14時締切 波・頼む・ゆらゆら ジョーク	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-33-19 中岡香代
川柳塔 みちのく	20日(土) 17時締切 強い・石・約束	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-36-6614 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 ねやがわ	21日(日) 13時締切 隠す・教育・慰める 自由吟	寝屋川市立産業会館 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳 藤井寺	21日(日) 14時締切 平気・ゴーヤ・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・シュラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	22日(月) 18時30分締切 園児・貼る・まだ・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
川柳塔 すみよし	27日(土) 14時15分締切 指・びびる 腹の立つ事(読込不可)	住吉区民センター2階 集会室4 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸柳 川柳会	27日(土) 13時15分締切 小さい・包む・仲間	和歌山商工会議所 4階 第3会議室 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市川柳 川柳会	28日(日) 14時締切 照・風鈴・スリル	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北東へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	28日(日) 13時締切 自由吟・畳む・仕草・同情 席題	開発ビル 2F 砂場事務所 鳥取市片原1-107 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
京都 塔の会	29日(日) 14時締切 タッチ・恵・せつない	ハートピア京都 京都市中京区烏丸丸太町 地下鉄「丸太町」駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勤修寺堂田70-16 榎本宏子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

## 7月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な ら	4日(木) 14時締切 端・青い・まあいいか	奈良市立中部公民館 4F 奈良市上三条23-4 近鉄「奈良」駅④番出口 徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 安土理恵
城北 川柳会	6日(土) 14時締切 ちっちゃり・その他・優しい 自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	6日(土) 14時締切 宙・白紙・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉吉 川柳会	6日(土) 14時締切 手掛かり・それで・釣る 席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつ え社 吟	6日(土) 13時30分締切 騙す・悪い・ころり・喧嘩	松江雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保岡町笠浦222-1 相見柳歩
西宮北口 川柳会	8日(月) 14時締切 無理・渋い・トラブル・自由吟	西宮市立中央公民館 6階 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる 川柳 同好会	9日(火) 13時30分締切 冷たい飲み物・長い ロマンチックな事	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳塔 さ かい	9日(火) 14時締切 ぎりぎり・口実・折句・こまき	東洋ビルディング 4F 堺東駅北西改札口から2分 〒599-8103 堺市東区菩提町5-171 矢倉五月
川柳 あまがさき	9日(火) 14時締切 試す・恥・やれやれ・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
あかつき 川柳会	12日(金) 14時締切 直角・強い・照・時事吟	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2-312 前田紀雄
川柳大阪	13日(土) 14時締切 音痴・とことん・卵	メトロ・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
六甲 川柳会	13日(土) 14時締切 地図・吠える・流す・自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳塔 打 吹	13日(土) 13時30分締切 唾・タワー・きっちり・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川柳会	14日(日) 14時締切 晩夏・のんびり・遊ぶ・雑詠	八尾市安中町3-5-1 波川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之

# 柳界展望



★「井笠川柳会第57回葉大会」。同人成績。  
天位(句碑獲得)

柔らかな玉投げあつて  
いる介護

★「井笠川柳会第20回記念笠岡大会」は5月25日笠岡保険センターで開催。同人成績。

岡山県教育長賞

笠岡市議会会長賞

藤井 智史

両川 無限

★「西宮北口45周年記念大会」は5月26日西宮ブレラホールに146人の参加で開催。同人成績。

秀句 北野 哲男

青春は進路模索の交差点

秀句 山崎 武彦

交差点企業戦士は皆無口

秀句 居谷真理子

前世でも会っていますねあなたには

秀句 富永 恭子  
情報の錯綜国が小競り合う

秀句 小島 蘭幸  
駆けるのは止めた令和は飲み歩く

秀句 居谷真理子  
愛という鎖で繋いでではならぬ

秀句 木本 朱夏  
しあわせですか薔薇の鎖につながれて

▽訂正とお詫び△  
○6月号P99上段8行目。重複のため削除。

▽訃報△  
○酒井真由さん(同人・丹波篠山市)が5月28日に死去。享年83

▽新誌友紹介△  
東大阪市 堂本 佳秀  
今治市 永井 一夫

紹介者 栗田 忠士  
鳥取市 大角 幸代  
岸和田市 岸井ふささ

紹介者 新家 完司  
古今堂蕉子

「第七回春の川柳塔まつり誌上大会」P86下段18行目。  
鍵穴は覗いてみると言う形

作者は 長野 内山 克子さん  
お詫びして訂正します。

大阪市 中村 晴美  
京都市 久野 久子  
黒石市 福土 慕情

神戸市 青木 次輔  
神戸市 篠原 友次郎  
五所川原市 徳原 文久

大阪市 中村 勝弘  
大府市 安土 理恵  
石川県 堀本のひろ

石田 孝純  
櫻井 崇史  
山崎 武彦

神戸市 松倉 正美  
常任理事会 6月7日  
出席21名 ①二賞選考委員

及び一路賞選考委員・樗樓賞選考委員の選出 ②「第8回春の誌上大会」の取り

組みについて ③「第25回川柳塔まつり」成功に向けて ④定例確認事項。

次回常任理事会 7月5日(木)AM10時

日(木)AM10時

次回常任理事会 7月5日(木)AM10時

次回常任理事会 7月5日(木)AM10時

## 2019 文化祭吹田市民川柳大会

日時 9月22日(日)午前9時30分開場  
各題2句連記 投句締切 10時30分  
場所 吹田市千里山霧が丘22-1  
(電話 06-6310-7002)  
梅田駅より北千里行で約20分  
(千里山駅東口すぐ Bivi内)

宿題 「生きる」 本田 智彦 選  
「連想吟」 山野 久寿 選  
「迷う」 宮井いずみ 選  
「化粧」 森田 律子 選  
「つなぐ」 大堀 正明 選  
「深い」 片岡 加代 選

会費 1500円 (秀句賞・軽食・大会誌呈)

★文化祭参加 (夏休みに親子で川柳を作りましょう)  
宿題 「描れる」「命」「勝つ」各題3句までを1枚のハガキに9句まで書いてお出ください。  
(締切 9月5日) 郵便番号・住所・氏名・電話番号・大人と子どもの部と明記  
〒565-0851 吹田市千里山6-63-10  
坂本晴美まで TEL 06-6384-2466

★懇親会  
句会終了後、希望者は9月15日まで申し込み  
会費4500円  
主催 吹田市 吹田川柳会

## 第69回 岸和田市民川柳大会

日時 10月20日(日)12時開場  
会場 岸和田市立福土総合センター

事前投句 「笑う」 中岡 香代 謝選  
(締切日9月30日必着・欠席投句はご遠慮ください)

兼題 「白」 立蔵 信子 選  
「燃える」 塩田 鮎子 選  
「名刺」 南野 勝彦 選  
「のんびり」 片岡 加代 選  
「スタート」 三宅 保州 選

出句数 各題2句 欠席投句はご遠慮ください  
出句締切 13時 披講14時30分  
会費 2000円(軽食・参加賞・大会誌呈)  
事前投句先 〒597-0082 貝塚市石材25-3  
石田ひろ子 宛

問合せ先 石田ひろ子 072-431-2672  
岩佐ダン吉 072-428-0325

主催 岸和田市・岸和田市教育委員会  
参加団体 岸和田川柳会

池田美穂

— 紀の治・宏之推薦

田中紀美恵

— 完司・芳光・くにこ推薦

伊塚美枝子

— 紀の治・宏之推薦

梅瀬みちを

— 寿代・芳山推薦

太田省三

— 蘭幸・完司推薦

敏森廣光

— 武彦・勝弘推薦

岡崎美知江

— 完司・芳光・くにこ推薦

野川宣子

— 紀の治・千代・日枝子推薦

九村義徳

— 哲男・ひとみ推薦

副井ゆたか

— 完司・盛桜・茶子推薦

松本ゆかり

— 哲男・ひとみ推薦

山端なつみ

— 哲男・ひとみ推薦

第74回 尼崎市文芸祭 作品募集

川柳：雑詠1句  
 選者 長浜美龍・北野哲男・  
 長川哲矢・吉川哲夫・  
 藤井宏造

応募方法 所定の応募葉書または官製葉書による応募。住所・氏名（ふりがな）・  
 電話・応募部門を明記。

締切 7月12日（金）必着  
 応募先 〒660-0881  
 尼崎市昭和通 2-7-16  
 （公財）尼崎市文化振興財団  
 「第74回尼崎市文化祭」係

●●● **川柳塔WEB句会** 兼題「英語」 \*平抜きは到着順 \*webサイトと内容に齟齬がある場合、webサイトが正  
 5月例会入選句 投句数399句(202名) なかはられいこ 川上大輪 共選

なかはられいこ 選

仕方なく外国人と相席に  
 脳内で焼かれる英字ビスケット  
 長老は英語で笑うことができ  
 サンキューは英語で喋るおじいちゃん  
 溜息は英悟で鼻息は米語  
 今ごろのジャックとベティー寿司が好き  
 舌先にドジョウが躍りてて英語  
 踊り子のつま先にまで筆記体  
 モザイクかけられ 英語みたくない人  
 美しき誤解ばかりの英会話  
 英語だと気づくだけでも国際化  
 英会話舌を噛んだり丸めたり  
 どことう大阪弁の英会話  
 孫に買うおもちゃで習う英会話  
 観光地英語を凌ぐ中国語  
 私は軽く聞こえるアブラブユー  
 英字新聞まとい気取ってサツマイモ  
 Google と違う英訳する鸚鵡  
 突っ込んだ話はしない英会話  
 iPhone が急に英語になり蟄居  
 英単語くるぶしがまだ覚えている  
 教科書のナンシー今も中学生  
 怪しげな英語練り出す評論家  
 日本酒のラベルに書いてある英語  
 英語新聞ならサマになる包装紙  
 ジェスチャーは英語発音はひらがな  
 英単語置き場へ迷い込む  
 分からない第5文型服を脱ぐ  
 アイアムアボーイのままで75  
 ウィッキーさんに呼び止められる夢をみた  
 触れたのは英語の吐息かも知れぬ  
 水曜をdの姿勢でやり過ごす  
 佳5 フジツボにrの音を仄めかす  
 佳4 だんだんと問合いを詰めるカタカナ語  
 佳3 スカイツリー未明に少しIになる  
 佳2 イントネーションが大事英語と出雲弁  
 佳1 ため口が通る英語を押しつけて  
 人 きみのいいとこ言うよAからZまで  
 地 どうしても泣いてしまうのエアギター  
 天 まっすぐに雨が降る日のイギリス語

龍 せん  
 甘酢あんかけ  
 白瀬 白洞  
 やんちゃん  
 板垣 孝志  
 水野 黒兎  
 海賊 芳山  
 西沢 葉火  
 米山明日歌  
 秘 まん ち  
 ボルテーニョ  
 こ み ち  
 山中あきひこ  
 松嶋由美子  
 松岡 篤  
 上田ひとみ  
 大島ともこ  
 エノモトユミ  
 由 美  
 森山 文切  
 尾崎 良仁  
 小俣 鮎太  
 フーマー  
 村上佳津代  
 たごまる子  
 雨森 茂喜  
 雨森 茂喜  
 1 9 9 6  
 梶原 弘光  
 石川 柳寿  
 福村まこと  
 芍 薬  
 秋 鹿 町  
 久保 卓子  
 斎藤 秀雄  
 中筋 弘充  
 山本 昌乃  
 斉尾くにこ  
 芍 薬  
 エノモトユミ

川上 大輪 選

カタカナは全て英語に見えてくる  
 横文字が分からないので黙っとく  
 流暢な英語のような東北弁  
 背に羽が生えたか妻の英会話  
 ギブミーキャンディ必死に生きた焼野原  
 ああ夢で良かった英語出てこない  
 通じたよ東北弁の英語でも  
 YES NO どちらを選んでも英語  
 あの人へ I love you は通じない  
 英語かと思っていたら詛るひと  
 ジェスチャーの方が通じた英会話  
 ディスイズアベンで終わった英語力  
 英国に生まれていたらしゃべれたさ  
 Tシャツの英語の意味は知りません  
 翻訳機今は便利な英会話  
 スヤスヤが英語習ってZZZ  
 元号は英語かいなとおばあちゃん  
 日本製英語が邪魔をする英語  
 英会話舌を噛んだり丸めたり  
 観光地英語を凌ぐ中国語  
 ブチ切れた英語が地球掻き回す  
 アイラブユーなら何度でも言えそう  
 ウェルカムと書かれたドアが開かない  
 アイラブユー訳せばアンタダイキライ  
 英語で喋るきつと悪口言うてはる  
 アイアムアボーイのままで75  
 ウィッキーさんに呼び止められる夢をみた  
 ややこしいことは英語で書いてある  
 YesNo の間で横になっている  
 とどのつまり何だったのかアッポーベン  
 ギブミーチョコと尻尾を垂れていた日本  
 茶髪にカラコン英語は喋れない  
 佳5 サンキューを言えて有難うと言えない  
 佳4 英語は刺身日本語は醤油  
 佳3 ジェスチャーは英語発音はひらがな  
 佳2 入歯をとると英語が通じるのです  
 佳1 英単語帳の裏からイヌフグリ  
 人 しろやきのおてがみは英文だった  
 地 イングリッシュが錦市場を摘み食い  
 天 ゴキブリはただ今英語勉強中

大木 雅彦  
 渡辺 勇三  
 三好 光明  
 原 徃  
 雨 洋志  
 竹中 正幸  
 白瀬 白洞  
 まつもととこ  
 まつもととこ  
 西 鎮  
 北田のりこ  
 坂本 星雨  
 寺井 一也  
 谷口 修平  
 岩 窟 王  
 はぐれ雲  
 田村ひろ子  
 ボルテーニョ  
 こ み ち  
 松岡 篤  
 森山 盛桜  
 久保 卓子  
 平井美智子  
 まさ と  
 平尾 定昭  
 梶原 弘光  
 石川 柳寿  
 里山 水月  
 森野 ハナ  
 四ツ屋いずみ  
 森 廣子  
 水 たまり  
 むらのひとり  
 森下 博史  
 雨森 茂喜  
 安藤 なみ  
 西沢 葉火  
 怜  
 岩根 彰子  
 米山明日歌

投句方法 【川柳塔】を検索→【川柳塔 WEB 句会】をクリック  
 senryutou.net (サイト管理 森山文切)

暑中お見舞い申し上げます

# 西宮北口川柳会

例 会 毎月第2月曜日 午後1時 西宮市立中央公民館

(阪急電鉄神戸線西宮北口下車 南出口徒歩3分)

プレラにしのみや6F

投句先 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫

北 箕川河亀片金加奥大大緒奥榎江延梅上上上井市足秋青  
川 人合岡山川川澤矢坪方田 谷庵澤原田田上坪立元木

美靖良敏哲 宣靖洋 一美み忠勝野盛 ひ和じ武つて公  
香夫種夫子忠子鬼郎仲徳子子夫弘靄夫翔み宏う臣子る輔  
次 津つ と ろ なる

難七長中富富都寺寺近田竹鈴神相佐酒酒小黒小蔵久清北  
反 波田浜西山永倉柚井兼中山木野馬藤田井林田山田田田島

伯順美豊ル恭求富秋敦章千新千佐健浩紀わ能紀光千弘邦  
備子籠子子子芽次果子子子録子子彦司華こ子乃子代子男  
イ 賀 恵紀

山山山山山山矢村宮み丸松前堀福藤藤 藤藤福能野西長  
田田崎口口内野上本わ山井川 田原本 井島勢口口島  
こ b

昭耕武光弘 野氷喜は一文中正正み 岡宏弘利真い敏  
九 委 迪薫筆明な之香子和彦し直 り造子子子子子  
朗治彦久智 明な之香子和彦し直 り造子子子子子子

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳あまがさき

会長 長浜美籠  
副会長 藤井宏造

例会 毎月第二火曜日  
場所 尼崎女性センター・トレピエ

北野	北川	川人	河津	釜野	片山	加川	長川	奥村	大浦	江見	上田	三好	入江	市坪	石川	池野	足立
哲男	純	良種	正治	公子	かずお	靖鬼	哲夫	五月	初音	見清	ひとみ	京江	修平	武臣	きよみ	英坊	つな子
藤岡	平井	野口	野口	永田	中川	都倉	谷	田中	竹山	竹林	坂本	酒井	酒井	黒嶋	九鬼	木山	木藤
りこ	富夫	雄次	真桜子	紀恵	ひろ介	求芽	祐康	章子	千賀子	千代子	晴美	健二	紀華	海童	洋子	歌留多	こみつ
	谷口	山田	山田	榎本	岸田	鈴木	渡辺	山田	山口	森松	森松	森	森	堀	細川	古川	藤田
	修平	葉子	厚子	宏子	万彩	新録	柳明	耕治	ヨシエ	芳香	まつお	たみえ	菊江	正和	花門	奮水	雪菜

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳ねやがわ

会員一同

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔すみよし

会長 古今堂蕉子

吉川	木日	川端	加島	小野	大西	大隅	大治	榎本	榎本	江島	宇都	内田	井丸	磯島	石橋	荒川	浅井
哲矢	喜久	一歩	由一	雅美	晴雄	克博	重信	舞夢	日の出	谷勝弘	満知子	志津子	昌紀	福貴子	直子	博行	公平
藤島	藤井	西出	長高	長浜	中川	中島	中井	土井	飛永	田中	田中	鈴木	柴本	佐々木	阪井	坂	古今堂
たかこ	宏造	楓楽	俊雄	美籠	ひろ介	栄子	萌	舞蹴	ふりこ	ゆみ子	廣子	いさお	ばっは	木満作	美世子	裕之	蕉子
	吉村	横山	山本	山根	山岡	矢倉	森松	森松	宮本	宮崎	三宅	松下	松崎	前田	藤原		
	久仁	里子	進	妙子	富美子	五月	芳香	まつお	かりん	シマ子	保州	小枝子	大輔	喜与子	大子		
	雄																

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳さんぽ

会員一同

例会：毎月第3火曜日 13時・JR三田駅前 キッピーモール6F

暑中お見舞い申し上げます

# 富 柳 会

藤田 武人	栃尾 奏子	中村 恵	関 よしみ	肥山 一文	久世 高鷲	井澤 壽峰	池 森子	穂山 常男	秋田 あかり
	他 一同	都筑 文重	福元 田鶴子	松本 正治	沢田 和子	田嶋 伸雄	石橋 未知	森下 よりこ	林 澄子

暑中お見舞い申し上げます

# 竹 原 川 柳 会

会 長 小 島 蘭 幸

会 計 岩 本 笑 子

石 原 淑 子

古 田 太 虚

ほか会員一同

暑中お見舞い申し上げます

# 翠 洋 会

高橋敬子	高杉千歩	佐々木満作	小谷集一	古今堂蕉子	金川宣子	太田昭	大久保眞澄	大川桃花	榎本舞夢	岩本浩二	指宿千枝子	阿部紀子	安福和夫	安土理恵	浅井公平
渡辺富子	米田恭昌	山本希久子	室田行久	前川善之	降幡弘美	藤原大子	原田すみ子	能勢良子	西出楓楽	飛永ふりこ	寺井弘子	津村志華子	辻内げんえい	谷口義	

暑中お見舞い申し上げます

# 川 柳 塔 さ か い

会 長 村 上 玄 也  
副会長 矢 倉 五 月

山本進	山岡富美子	宮本かりん	古川光雄	日野愿	内藤憲彦	遠山唯教	玉瀬富夫	田中ゆみ子	高木世紀子	澤井敏治	源田八千代	河内天笑	柿花和夫	奥時雄	太田としお	梅木澄空	内田志津子	出海素頓馬	綾田清
米澤俣子	山根妙子	向井清	増井ヨシ枝	伏見雅明	中林佳子	徳山みつこ	津田シルク	谷川憲	田中廣子	柴本ばっは	齋藤さくら	楠井輝子	河内月子	小野雅美	太田扶美代	榎本舞夢	宇都満知子	井上洋一	石田ひろ子

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳ふうもん吟社

会長 両川無限  
会員一同

事務局：〒689-0202 鳥取市美萩野2丁目171-3  
中村金祥方  
TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日 13:00～  
会場：県民ふれあい会館（鳥取市扇町21）

暑中お見舞申し上げます

# 川柳塔鹿野みか月

会員一同

会長 森山盛桜

暑中お見舞い申し上げます

# 河内長野川柳協会

顧問 板尾 岳人

## 長柳会・プラザ川柳

会員有志

中島	藤塚	梶原	森田	石田	大島	木見	辻村	山室	黒岩	坂上	村上
一彌	克三	弘光	旅人	隆彦	ともこ	谷孝代	ヒロ	光弘	靖博	淳司	直樹

お待たせいたしました！  
第四刷出来！



# 川柳の 理論と 実践

新家完司・著

ご注文は下記へ、ハガキかFAXにて。  
お支払いは到着後で結構です。

実践を意識した豊富な例句で学ぶ作句法・選句法・心得  
初心者はもちろん、中級者やベテランにも役立つ

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司  
326頁。送料+消費税=2,000円 FAX 0858-52-2449

暑中お見舞申し上げます

# 南大阪川柳会

会 員 一 同

住まいの情報センター（地下鉄谷町線・堺筋線 天神橋6丁目駅③出口）  
原則として第4月曜日・6時から（8時終了）

暑中お見舞申し上げます

# 六甲川柳会 「ろっこうみち」

会 員 一 同

10年間続いた勉強会「メダカの学校」に替って句会「ろっこうみち」を  
立ち上げました。皆様のご参加をお待ちしています。

連絡先 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町4-1-11  
山崎 武彦 TEL.098-842-6235

暑中お見舞申し上げます

# 京 都 塔 の 会

会 員 一 同

暑中お見舞申し上げます

# 豊中もくせい川柳会

会員一同

暑中御見舞い申します

# 川柳藤井寺

会員一同

代表 鴨谷瑠美子

暑中お見舞い申し上げます

## ほたる川柳同好会

水野黒兔	藤沢長一	小牧信男	高嶋勝	宮田輝	栗田中螢柳	藤原桂子	栗田久子	寺井柳童	中山春代	多田契子	池田純子	荒木郁子	樋口順子	貝塚正子	上田陽子	永森美佐子	上山堅坊	斎藤奈津子	倉本一弥	中内孚彦	藤井則彦	句会	第二火曜日	午後一時より	勉強会	第四火曜日	午後一時より	場所	豊中市蛍池公民館
------	------	------	-----	-----	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	----	-------	--------	-----	-------	--------	----	----------

暑中お見舞申し上げます

# 八尾市民川柳会

会長 中 菌 清 会員一同

# 和歌山県川柳協会

会長 三宅 保州

副会長 川上 大輪

[お問い合わせ先] 事務局長 古久保 和子

〒640-8111 和歌山市新通7丁目17

TEL 073-423-8930

暑中お見舞申し上げます

## 和歌山三幸川柳会

主 幹 三宅 保州

理事 長 古久保 和子

副理事 長 喜田 准一

副主 幹 磯部 義雄

理 事 川上 智三

玉置 当代

武本 碧

森口 美羽

宇野 幹子

石田 ひろ子

山東 日出男

事務局 〒640・8111

和歌山市新通七一一七

古久保 和子 方

TEL 073・423・8930

例会 毎月第四土曜日 12時30分

和歌山商工会議所

〔バス停 和歌山市役所前〕

暑中御見舞

申し上げます

# 川柳塔唐津

岩崎 實

坂本 蜂朗

仁部 四郎

山口 高明

暑中お見舞い

申し上げます

# 川柳茶ばしら

早川 遡行

板山 まみ子

山本 三樹夫

金子 美千代

脇田 雅美

関本 かつ子

暑中お見舞申し上げます

# 岸和田川柳会

新海	柿花	三宅	井岡	桐島	飯田	宮野	藤井	中岡	次井	助川	小島	岸井	石田	松崎	藤原	雪本	増田	岩佐
信二	和夫	白水	一子	カズ子	忠太	みつ江	康信	香代	義泰	和美	笑司	ふさゑ	ひろ子	大輔	昭子	珠子	隆昭	ダン吉
村上	山内	葛城	井戸	池内	木村	西岡	阪口	鈴木	梅原	花篤	三宅	向井	西田	中原	中里	出原	立藏	高橋
多喜子	規子	隆雄	雲水	恭子	義心	たかお	益子	洋茂	保二	清州	喜代志	宏之	はこべ	誠夫	信子	律雄		

暑中お見舞申し上げます

## 川 柳 大 阪

会 長 山 崎 珠 生

会 員 一 同

暑中お見舞い申し上げます

## 川 柳 塔 み ち の く

主 幹 福 士 慕 情

同 人 一 同

事務局 〒036-8275 弘前市城西1-3-10

稲見則彦 (☎0172-36-8605)

暑中お見舞申し上げます

## 川 柳 塔 き ゃ ら ぼ く

会 員 一 同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304

TEL 0859-21-7656

竹村紀の治

暑中お見舞い申し上げます

# はびきの市民川柳会

会長 徳山みつこ 会員一同

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔まつえ吟社

主幹 石橋芳山

同人一同

連絡先 〒690-0001 松江市東朝日町206-7  
石橋芳山方  
TEL. 090-2003-5846

暑中お見舞い申し上げます

## 川柳塔なら

顧問	会計監査	“	“	“	“	世話人	編集	“	“	副会長	会長		
中原比呂志	江島谷勝弘	渡辺富子	仲西賛郎	高橋敬子	加門萌子	加藤江里子	中堀和夫	安福	飛永	大久保真澄	長谷川崇明	宇賀史郎	安土理恵

暑中お見舞申し上げます

# 城北川柳会

会員一同

暑中お見舞申し上げます

# いずも川柳会

会長 竹治 ちかし  
会員一同

事務局 〒693-0026 出雲市塩冶原町3-1-5 竹治ちかし方  
TEL 0853-22-4309

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔わかやま吟社

同人一同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14  
川上大輪方  
電話・FAX 073-462-7229

暑中お見舞申し上げます

# 川 柳 塔 社

							常 任 理 事	副 理 事 長	副 主 幹	理 事 長	主 幹
森	松	中	久	大	宇	上	石	木	川	新	小
松	原	川	保	久	都	田	田	本	上	家	島
まつお	寿子	ひろ介	千代	眞澄	満知子	ひとみ	隆彦	朱夏	大輪	完司	蘭幸
吉	藤	藤	内	片	江	内	居				
村	村	井	藤	山	島	田	谷				
久仁雄	亜成	宏造	憲彦	かずお	勝弘	志津子	真理子				

川柳塔社常任理事会

# 編集後記

★褒められた思い出がなし師を葬送る 薫風

★某月某日NHKテレビで「遺伝子で運命は変えられる」を観た。人体の40兆個もの細胞の一つ一つには遺伝子があり、さまざまな情報が詰まっているという。免疫力や記憶力、持久力アップ、癌予防、老化予防などDNAのスイッチをオフからオンに切り替えることが可能だという。

★山中伸弥教授の解りやすい解説とカラフルなコンピュータグラフィックの画像を駆使した驚異の番組だった。さすがNHK、このような番組を観られるのならば受信料も納得できる。それ以外にも最近の民放は酷いと思いませんか。同じような顔触れの同じようなお笑いやバラエティー、クイズばかり。

★その上にドラマに容赦なく割り込んでくるコマシヤル。計ってみた、CMが3分。ドラマが5分、CMが3分。この繰り返しで切り刻まれるドラマ。ストーリーとCMが入り混じって興を殺されること甚だしい。(あくまでも個人の感想です)という訳で民放を殆ど観なくなつた。こんな番組作りをしていたら、いつか自分の首を自分で絞めることになるだろう。

★某月某日、同人の方から「自分の川柳がラジオで読みあげられた!」とお電話があった。「ありがとう浜村淳です」はMBS毎日放送ラジオの40年続く長寿番組。月曜から金曜の午前8時から10時30分まで、関西を中心に流れている。本誌ナビの選者・大西泰世さんのご紹介で川柳塔をお送りさせて頂いている。浜村淳さんのソフトな

## ひとつ

おもてなしの心

吉野ヶ里は卑弥呼の里だった。第40回吉野ヶ里川柳大会は、今年も卑弥呼たちの手作りの川柳大会であった。私は昨年に続き2回目の参加であった。遠来からの参加ということでも主催者の真島家に宿泊、歓待にあずかった。

昨年と違うところが一点、それは主催者の真島清弘さんが亡くなられていたこと。しかし真島家の卑弥呼たち、美智子さん、久美子さん、涼ちゃん、芽ちゃんたちは怯むことなく大会を成功裡に終えた。

さてこのホスピタリティーはどこから来るのか。それは亡き清弘さんの「おもてなしの心」そのものから来ているように思う。

大会に先立ち数日前から竹山に入り箭を掘る。2000人の参加者の昼食と、お土産用に茹でる。袋詰めにする。この箭を楽しみに遠く鹿児島、宮崎からも参加者が多い。昨今の地方大会では昼食は各自で、または人手が足りず大会そのものを誌上大会にするところもある。その点で吉野ヶ里川柳大会には乾杯である。(高柳閑雲)

語り口には日ごろのギスギスした心を癒すサブリミナル効果がある。ぜひお聴きください。  
★7月7日路郎忌。7月11日薫風生誕日。

(朱夏)

△「佳句5句の順位は、天の句に近づくのだから5番から1番の順位にする。」と先般の常任理事会で摺合せを致しました。  
△「佳句は佳句、どちら良いのでは……」など諸説ある。また各柳社、各紙も、所定の用紙でお願いします。

地句会もそれぞれのやり方がある。ただ、問合せがあった場合に、川柳塔としては前述の「佳句は5番から……」と回答すると摺合せをしました。  
△今は、川柳塔本社句会でも選者へ「佳句は5番から……」と案内している。この順位の統一が進めば清記及び校正時に編集としても、一つ安心ができて大変助かる。

△投句は所定用紙、A5版「縦21cm横15cm」の用紙でお願いしたい。川柳塔の本社事務所から一冊200円で「川柳塔社用箋」を頒布している。  
△佳句順位統一、投句用紙統一をお願い致します。(憲彦)

## 「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限りません。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から15時までにご利用いたします。

## 作品募集

川柳塔 (8句) 小島蘭幸選  
 水煙抄 (8句) 川上大輪選  
 愛染帖 (2句) 新家完司選  
 檸檬抄「歩む」 (2句) 水野黒兎共選  
 (2句) 鴨谷瑠美子選  
 インスレクションナヒ(2句) 大西泰世選  
 「便利」 西口いわゑ選  
 「ガラガラ」 山東日出男選  
 一路集 (2句) 「知恵」 (3句) 居谷真理子担当  
 初歩教室 「知恵」は10月号発表

9月号発表 (7月15日締切)

## 路郎忌本社7月句会

とき 7月5日(金) 13時開場・13時40分締切  
 ところ アウィーナ大阪 4階 金剛の間  
 天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441  
 おはなし「夏を詠う」 新家完司氏  
 席題「無」 大内朝子選  
 兼題「無」 太田扶美代選  
 「おいしい」 川端一歩選  
 「休む」 片山かずお選  
 「今」 片岡加代選  
 「想定」 小島蘭幸選  
 会費 1000円  
 投句料 500円(切手可)  
 (各題2句以内)

10月号  
 檸檬抄「袋」  
 一路集「ぐるぐる」「料理」  
 初歩教室「気まま」

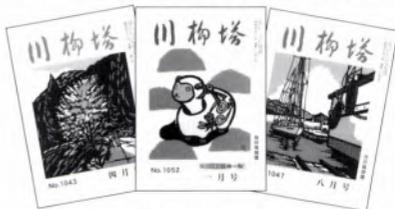
本社8月句会  
 9日(金) 午後1時から  
 兼題「割る」「国」「表情」  
 「もっと」「位置」

## 川柳塔WEB句会のご案内

課題「吸う」 Sin 共選  
 平井美智子  
 締切 7月20日 発表 7月25日頃  
 投句料 無料  
 インターネットで「川柳塔」を検索しWEB句会をクリックしてご投句ください。

## 川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
 TEL (06) 4800-3018  
 FAX (06) 4800-3028  
 Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp  
 ホームページ <https://www.bikenart.com>  
 ※事務所移転につき住所・電話番号が変わりました。

定価 八百円 (送料97円)  
 半年分 五千円 (送料共)  
 一年分 九千八百円 (同)  
 二〇一九年(令和元年)七月一日発行  
 発行人 小島和幸  
 編集人 木本朱夏  
 印刷所 美研アート  
 〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七  
 花野ビル201号室  
 発行所 川柳塔社  
 電話(06)六七九一三四九〇番  
 振替 〇〇九八〇一四二九八四七九番

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

オニザキのプレミアムロースト

つぎま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、  
香ばしい薫り。舌と記憶に  
しっかりと残る、深いコク。

料理をより美味しくする  
ゴマを作りたい、真つすぐな  
想いから生まれた逸品。

それが「プレミアムロースト」。

素材本来の良さを余すこと  
無く引き出した、オニザキの  
自信作をお届けします。



株式会社 オニザキコーポレーションセルズ  
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

「俳風柳多留」など、江戸川柳の原典  
そして現代盛んに行われている川柳のルーツ

## 『川柳評前句付万句合』全13巻

本件は、川柳評前句付興業に於ける、高点句付句を翻刻活字化、書籍にして頒布しその多くを残すことによって、今後の研究に資することを目的とする事業です。諸賢のご支援賜れましたら幸いです。

各巻 6,000円 + 税 + 送料 510円  
A5判・平均 320頁 ハードカバー  
分売不可、13巻セットでのご購入をお願い致します。

本書は、書店での店頭販売は致しません。  
下記に予約して御購入願います。  
予約〆切7月末。

〒419-0313 静岡県富士宮市西山1417-2  
川柳俳研究会・清 博美  
TEL・FAX：0544-65-0264  
<http://www.edosenryu.com>